

2018

動物看護科 シラバス



学校法人京都中央学院

YIC京都ペット総合専門学校

シラバスとは

シラバスとは講義概要であり授業全体の計画書のことです。授業の目標・内容・参考図書・成績評価の方法などが記され、皆さんが授業内や授業外で学修を行うための指針を示すものです。

教員は、この指針に従って授業を行うこととなります。したがってシラバスは授業計画を学生と教員との間で共有する、「契約書」に近い位置づけのものです。シラバスに記載された目標を達成するために、教員は授業を通して学生である皆さんに知識と技術を習得させる義務を負います。逆に皆さんは授業に出席する義務を負うこととなります。

また広い意味では、本校が地域社会に対して本校の教育の質を担保するものでもあります。

実際に授業が行われるにあたって、学生や教員があらかじめ準備したり、従うべき事項等を共有する文書となります。授業で行われる内容があらかじめ記載されていますので、学生は授業に臨む際に前もって準備を行うことができますし、記載されている評価方法に向けての学修などを行うこともできます。

シラバスを作成する過程で、教員が自らの行う授業の内容、評価方法などの具体的構造を見直すことができ、自分の授業を見直す良い機会になります。

皆さんは、このシラバスを活用して、悔いのない学生生活を送っていただくようお願いします。

動物看護科シラバス目次

科目コード	科目名			ページ
	大項目	中項目	小項目	
NAA01	動物の体の構造と機能を理解する	動物形態機能学	動物形態機能学Ⅰ	P 2
NAA02			動物形態機能学Ⅱ	P 3
NAA03			動物形態機能学Ⅲ	P 4
NAA04			動物形態機能学Ⅳ	P 5
NAA05			動物形態機能学Ⅴ	P 6
NBA01	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	動物病理学	動物病理学	P 7
NBB01		動物疾病看護学	動物疾病看護学Ⅰ	P 8
NBB02			動物疾病看護学Ⅱ	P 9
NBB03			動物疾病看護学Ⅲ	P 10
NBB04			動物疾病看護学Ⅳ	P 11
NBB05			動物疾病看護学Ⅴ	P 12
NBC01		動物薬理学	動物薬理学	P 13
NBD01		動物感染症学	動物感染症学Ⅰ	P 14
NBD02			動物感染症学Ⅱ	P 15
NCA01		健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ	病原体・衛生管理	病原体・衛生管理
NCB01	動物健康管理		動物健康管理	P 17
NCC01	動物栄養学		動物栄養学Ⅰ	P 18
NCC02			動物栄養学Ⅱ	P 19
NCC03			動物栄養学Ⅲ	P 20
NDA01	動物医療業界の関連法規を知る	動物医療関連法規	動物医療関連法規	P 21
NEA01	人と動物の調和に関わることを学ぶ	公衆衛生学	公衆衛生学	P 22
NEB01		動物繁殖学	動物繁殖学	P 23
NEC01		動物人間関係学	動物人間関係学	P 24
NED01		動物行動学	動物行動学Ⅰ	P 25
NED02			動物行動学Ⅱ	P 26
NEE01		動物福祉論	動物福祉論	P 27
NEF01		動物飼養管理学	動物飼養管理学Ⅰ	P 28
NEF02			動物飼養管理学Ⅱ	P 29
NFA01		動物看護に活かす	動物看護学	動物看護学
NFB01	臨床動物看護学		臨床動物看護学Ⅰ	P 31
NFB02			臨床動物看護学Ⅱ	P 32
NFB03			臨床動物看護学Ⅲ	P 33
NFC01	動物入院管理		動物入院管理	P 34
NFD01	幼齢動物・老齢動物管理		幼齢動物・老齢動物管理	P 35
NGA01	基礎で習得した知識の応用	動物臨床検査学	動物臨床検査学	P 36
NGB01		救急救命対応	救急救命対応	P 37
NGC01		クライアントエデュケーション	クライアントエデュケーション	P 38
NGD01		院内コミュニケーション	院内コミュニケーションⅠ	P 39
NGD02			院内コミュニケーションⅡ	P 40
NGD03			院内コミュニケーションⅢ	P 41
NHA01	基礎で習得した知識の実践	動物飼育実習	動物飼育実習Ⅰ	P 42-43
NHA02			動物飼育実習Ⅱ-①	P 44
NHA03			動物飼育実習Ⅱ-②	P 45
NHB01		動物看護実習	動物看護実習Ⅰ-①	P 46
NHB02			動物看護実習Ⅰ-②	P 47
NHB03			動物看護実習Ⅱ	P 48
NHB04			動物看護実習Ⅲ	P 49
NHC01		動物臨床検査学実習	動物臨床検査学実習Ⅰ	P 50
NHC02			動物臨床検査学実習Ⅱ	P 51
NHC03			動物臨床検査学実習Ⅲ	P 52
NHD01		外科動物看護実習	外科動物看護実習Ⅰ	P 53
NHD02			外科動物看護実習Ⅱ	P 54
NHE01		総合臨床実習	総合臨床実習	P 55
NIA01	社会の中で自分の役割を考える	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	P 56
NIA02			キャリアデザインⅡ	P 57
NIB01	ボランティア活動	ボランティア活動	P 58	
NJA01	社会人として必要なビジネス能力	損害保険学	損害保険学	P 59
NJB01		基本IT技術	基本IT技術Ⅰ	P 60
NJB02			基本IT技術Ⅱ	P 61
NKA01	社会人として持つべき基礎的教養	イベントプロデュース	イベントプロデュース	P 62
NKB01		社会常識	社会常識	P 63
NKC01		日本文化	日本文化	P 64
NKD01		ビジネス文章力	ビジネス文章力	P 65
NKE01		論理的思考力	論理的思考力	P 66
NKF01		物理・化学	物理・化学	P 67
NKG01		ビジネス英語	ビジネス英語	P 68
NKH01		時事問題	時事問題	P 69
NLA01		専門を深める	校外学習	校外学習Ⅰ
NLA02	校外学習Ⅱ			P 71
NLB01	愛玩動物飼養管理学		愛玩動物飼養管理学	P 72
NLB02			愛玩動物飼養管理学応用	P 73
NLC01	動物看護師総合学		動物看護師総合学	P 74
NLB01	ペットシッター講座		ペットシッター講座	P 75

平成30年度 シラバス

科目コード	NAA01						
科目名	動物形態機能学 I	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	動物の体の構造と機能を理解する	中項目	動物形態機能学	小項目	動物形態機能学 I		
授業の概要	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。						
学習目的	正常な動物のさまざまな部分の形態を知り、機能や薬物の作用など臨床現場に近い学問を学ぶための基礎を身につけ、異常との違いに気づくことができる。						
到達目標	1. 動物形態機能学総論 ・ 生命の成り立ちを化学物質レベルから個体レベルまで理解し、図式化できる ・ 細胞膜を含む細胞の構造と機能を理解し、絵を描き説明ができる ・ 動物の組織（上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織）について、その構造と機能について理解し設問に答えることができる ・ 動物の体を構成する体液の特徴を理解し、アシドーシスやアルカローシスの説明ができる ・ 血漿と血球成分（赤血球、白血球、血小板）の特徴について理解し、血液塗抹標本上での各細胞の絵を描ける						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	形態機能学とは	形態機能学とは、解剖生理学である					P 8
第2回	生体の成り立ち	生物の階層性を知る： 化学物質、細胞、組織、器官（臓器）、器官系、個体					P 8～11
第3回							
第4回	細胞の構造と機能	細胞小器官について： 細胞、細胞膜、半透膜、リン脂質二重層、イオンチャネル、イオンポンプ、ATP、細胞質、ミトコンドリア、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置、リソソーム、細胞骨格、核					P 12～15
第5回							
第6回	動物の組織	体を構成する組織の違い： 上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織、被蓋上皮、腺上皮、内分泌腺、外分泌腺、軟骨、骨					P 16～22
第7回							
第8回	体液と尿	体液の種類を学ぶ： 体液、細胞内液、細胞外液、細胞間質液、血漿、尿					P 23～24
第9回							
第10回	血液成分とはたらき	各血液成分の特徴： 血液、pH調節、赤血球、好中球、食作用、単球、リンパ球、T細胞、B細胞、ナチュラルキラー細胞、好酸球、好酸性顆粒、ヒスタミン、好塩基球					P 25～28
第11回							
第12回	復習	補足事項 確認テスト					P 8～30
第13回							
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書2 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「ナビ犬POLくんとやさしく学ぶ 犬と猫のからだのしくみ」浅野妃美・浅野隆司 著 「新・犬と猫の解剖セミナー」浅利 昌男 著						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NAA02						
科目名	動物形態機能学Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	動物の体の構造と機能を理解する	中項目	動物形態機能学	小項目	動物形態機能学Ⅱ		
授業の概要	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。						
学習目的	疾患や看護技術を勉強する前に、正常動物の体の仕組みと働きを知り、異常な状態すなわち疾患に気づくことができる。						
到達目標	1.動物形態機能学各論① ・皮膚の主な機能7つを挙げ、説明を簡潔書きで記すことができる ・教科書に記載されている骨や筋肉の名称について、その名称と位置を暗記する ・神経組織の組成を書ける、各種神経を中枢神経と末梢神経に分類できる、交感神経と副交感神経の機能についての設問に正しく答えられる ・魚類の体の構造と機能について、哺乳類との違いを認識することができる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	皮膚	皮膚組織の構造について： 表皮、真皮、皮下組織、基底細胞層、有棘細胞層、顆粒細胞層、角質細胞層、毛包、皮脂腺、アポクリン腺、 膠原細胞、弾性線維、細網線維、肉球、爪					P 32～35
第2回							
第3回	骨格	骨の形、位置、機能を知る： 頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎、肋骨、胸骨、軸椎、椎間板、頭蓋骨、環椎、関節軟骨					P 36. 37
第4回							
第5回	筋肉	骨格筋、心筋、平滑筋の特徴					P 38～40
第6回							
第7回	脳	脳を構成するもの： 神経細胞、神経膠細胞、大脳、脳幹、小脳					P 41. 42
第8回							
第9回	神経系	神経の種類： 中枢神経系、末梢神経系、脊髄、随意運動、不随意運動、自律神経、交感神経、副交感神経					P 43～45
第10回							
第11回	比較解剖：魚類	魚類の体の構造 淡水魚と海水魚の窒素化合物の排泄方法の違い 幽門垂 タコ・イカの色素					田辺先生特別授業
第12回							
第13回	復習	補足事項 確認テスト					P 32～45
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書2 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「ナビ犬POLくんとやさしく学ぶ 犬と猫のからだのしくみ」浅野妃美・浅野隆司 著 「新・犬と猫の解剖セミナー」浅利 昌男 著						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NAA03						
科目名	動物形態機能学Ⅲ	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	動物の体の構造と機能を理解する	中項目	動物形態機能学	小項目	動物形態機能学Ⅲ		
授業の概要	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。						
学習目的	疾患や看護技術を勉強する前に、正常動物の体の仕組みと働きを知り、異常な状態すなわち疾患に気づくことができる。						
到達目標	1.動物形態機能学各論② <ul style="list-style-type: none"> ・味らの種類を答えることができる ・耳を構成する各器官を外耳、中耳、内耳に分類することができる ・犬猫の視覚の特徴についての設問に正しく答えられる ・動脈、静脈、心臓の弁、刺激伝導系、体循環、肺循環について自分の言葉で説明できる ・呼吸器系の解剖名称を暗記し、内呼吸・外呼吸の違いを説明できる 						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	感覚器	舌、耳、眼の構造と働き				P 46～49	
第2回							
第3回							
第4回	循環器	心臓の構造と仕組み： 心臓、動脈、静脈、心房、心室、三尖弁、僧帽弁、肺動脈弁、大動脈弁、刺激伝導系、胎子循環、肺循環、体循環、リンパ循環、胸腺、T細胞、B細胞				P 50～55	
第5回							
第6回							
第7回							
第8回	呼吸器	呼吸器の解剖学と仕組み： 外鼻孔、鼻腔、副鼻腔、鼻涙管、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺泡、肺、分葉、横隔膜				P 56～59	
第9回							
第10回							
第11回	比較解剖：両生類	両生類の特徴 寿命やバイタルサイン 飼育環境				田辺先生特別授業	
第12回							
第13回	復習	補足事項 確認テスト				P 46～59	
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書2 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「ナビ犬POLくんとやさしく学ぶ 犬と猫のからだのしくみ」浅野妃美・浅野隆司 著 「新・犬と猫の解剖セミナー」浅利 昌男 著						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NAA04		科目名	動物形態機能学Ⅳ	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日		時限		
大項目	動物の体の構造と機能を理解する	中項目	動物形態機能学	小項目	動物形態機能学Ⅳ					
授業の概要	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。									
学習目的	疾患や看護技術を勉強する前に、正常動物の体の仕組みと働きを知り、異常な状態すなわち疾患に気づくことができる。									
到達目標	1. 動物形態機能学各論③ ・犬・猫の歯式を書くことができ、歯式の意味を説明できる ・歯の構造を簡単に描くことができる ・小腸と大腸の区分と働きについて自分でまとめることができる ・各消化器の位置と働きを暗記する ・ホルモンとは何か答えることができる									
授業計画										
回	主題	授業内容						備考		
第1回	消化器	消化器の解剖学： 口腔、硬口蓋、軟口蓋、唾液腺、歯、切歯、犬歯、前臼歯、後臼歯、乳歯、永久歯、食道、胃、十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸、蠕動運動、肝臓、胆嚢、胆汁、膵臓						P 60～70		
第2回										
第3回										
第4回										
第5回	泌尿器	泌尿器の解剖学： 腎臓、皮質、髄質、腎盂、腎小体、近位尿細管、ヘンレワナ、遠位尿細管、ネフロン、尿管、膀胱、尿道						P 71～75		
第6回										
第7回										
第8回										
第9回	内分泌	内分泌とは						P 76		
第10回		ホルモンの種類						ホルモン一覧表		
第11回	比較解剖：爬虫類	カメの体の構造 心臓の構造 水棲と陸棲の窒素化合物の排泄パターンの違い							田辺先生特別授業	
第12回										
第13回	復習	補足事項 確認テスト						P 60～76		
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。							※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。								
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書2 増補改訂版」									
参考書	インターズー出版「ナビ犬POLくんとやさしく学ぶ 犬と猫のからだのしくみ」浅野妃美・浅野隆司 著 「新・犬と猫の解剖セミナー」浅利 昌男 著									
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。									
試験範囲	第13回目の授業にて告知									
履修のポイント										
オフィス・アワー	随時									

平成30年度 シラバス

科目コード	NAA05		科目名	動物形態機能学V	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日		時限		
大項目	動物の体の構造と機能を理解する	中項目	動物形態機能学	小項目	動物形態機能学V					
授業の概要	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解する。									
履修項目	動物形態機能学各論									
学習目的	疾患や看護技術を勉強する前に、正常動物の体の仕組みと働きを知り、異常な状態すなわち疾患に気づくことができる。									
到達目標	1.動物形態機能学各論④ ・視床下部、下垂体の働きを簡単に説明できる ・甲状腺、副腎、膵臓から分泌されるホルモンの名前とその働きを書ける ・正と負のフィードバックの違いを説明できる ・性腺の機能についてまとめられる ・精子および卵子形成の流れを知る ・犬猫の子宮の構造を描ける ・抗原と抗体の違いを説明できる ・免疫にかかわる事象を、自然免疫と獲得免疫に分類できる ・アレルギーの4つのタイプについて、表にまとめることができる									
授業計画										
回	主 題	授 業 内 容							備 考	
第1回	内分泌器官とホルモン	ホルモンの種類と働き： 甲状腺、サイロキシン、カルシトニン、上皮小体、PTH、副腎皮質、コルチゾール、アルドステロン、アンドロゲン、副腎髓質、アドレナリン、ノルアドレナリン、膵臓、インスリン、グルカゴン、視床下部、下垂体、ACTH、TSH、性腺刺激ホルモン、GH、PRL、バソプレシン、オキシトシン、フィードバック							P76～80	
第2回										
第3回										
第4回										
第5回	生殖器	生殖器の解剖学： 生殖腺、副生殖腺、精巣、陰囊、精巣下降、前立腺、卵巣、卵管、陰、子宮、子宮角、子宮体							P81～90	
第6回										
第7回										
第8回										
第9回	免疫学	免疫の仕組みを知る： 自然免疫、獲得免疫、抗原提示細胞、MHC、抗原、抗体、B細胞、T細胞、細胞性免疫、体液性免疫、一次応答と二次応答、中枢性および末梢性リンパ組織、アレルギー、自己免疫疾患							P92～98	
第10回										
第11回										
第12回										
第13回	復習	補足事項 確認テスト							P76～98	
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。							※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。								
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書2 増補改訂版」									
参考書	インターズー出版「ナビ犬POLくんとやさしく学ぶ 犬と猫のからだのしくみ」浅野妃美・浅野隆司 著 「新・犬と猫の解剖セミナー」浅利 昌男 著									
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。									
試験範囲	第13回目の授業にて告知									
履修の ポイント										
オフィス ・アワー	随時									

平成30年度 シラバス

科目 コード	NBA01						
科目名	動物病理学	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物病理学	小項目	動物病理学		
授業の概要	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する						
学習目的	細胞の損傷、基本病変、免疫異常、浮腫、腫瘍について理解し、簡単に図示説明できる						
到達目標	1. 病理学概論 以下の項目について、飼い主さんに簡単に説明ができる ①細胞の損傷及び老化 ②基本的な病変（循環障害、退行性変化、炎症、進行性変化）のメカニズム ③免疫異常のメカニズム ④腫瘍の発生と分類						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	動物病理学の概要 病気の変遷 成り立ちと変遷	病理学とは何か 病気の成り立ちと変遷、動物看護学との関連					
第2回	細胞の死 ①壊死とアポトーシス ②物質沈着	壊死とアポトーシスの違い 物質沈着の機序					
第3回	循環障害 ①充血・うっ血 ②血栓・止血	充血とうっ血の病態 血栓と止血の機序					
第4回	循環障害 ③塞栓と栓塞 ④ショック	栓塞と塞栓の機序 ショックの機序					
第5回	循環障害 ⑤リンパ系障害 退行性病変 ①組織の萎縮と変性	リンパ液の循環障害に関する浮腫 組織の萎縮と変性					
第6回	退行性病変 ②代謝障害 進行性病変 ①肥大・過形成・再生	組織の代謝障害 組織の萎縮、肥大、過形成、再生の意義					
第7回	進行性変化 ②再生と修復 ③肉芽組織と創傷治癒	組織の再生と修復の意義 肉芽組織、創傷、器質化、臓器移植の意義					
第8回	炎症 ①変性と滲出液 ②炎症の転帰	組織変性と滲出 炎症の転帰					
第9回	炎症 ③炎症の種類 ④滲出性炎症-1	急性炎症の実質性および滲出性炎症 滲出性炎症（漿液性、線維素性、化膿性炎症）					
第10回	炎症 ⑤滲出性炎症-2 ⑥慢性炎症	カタル性炎症、出血性炎症、腐敗性炎症 慢性炎症の肉芽腫性炎					
第11回	先天性異常 ①遺伝要因 ②環境要因	遺伝子異常と環境要因					
第12回	免疫異常 ①免疫反応と担当細胞 ②アレルギー型	免疫反応と担当細胞の意義 1～4型アレルギーの違い					
第13回	老齢性病変 ①形態的变化 ②生理的变化	形態的变化と生理学的変化					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書3 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「動物病理学」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修の ポイント							
オフィス ・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NBB01					
科目名	動物疾病看護学Ⅰ	担当者		学科	動物看護科	開講期 前期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物疾病看護学	小項目	動物疾病看護学	
授業の概要	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。					
学習目的	疾患に特有の検査や看護知識を身につけ、実際の医療現場で自ら行動ができる。					
到達目標	1. 概論：①身体検査の項目とそれぞれの評価法を説明できる ②バイタルサインの項目を暗記する ③バイタルサインの正常と異常を見分けられる 2. 皮膚疾患：①主な皮膚疾患の機序と分類を箇条書きで書ける ②皮膚疾患に必要な検査法、治療法を簡単に説明できる 3. 歯科疾患：①主な歯科疾患の機序と症状を箇条書きで書ける ②歯科疾患に必要な検査法、治療法を簡単に説明できる 4. 眼科疾患：①主な眼科疾患の機序と症状を箇条書きで書ける ②眼科疾患に必要な検査法、治療法を簡単に説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	概論①④	生体を構成する要素、疾病看護学用語、診断・治療・看護の大まかな流れ 体温調節、発熱、熱型、脈拍・呼吸の異常				
第2回	概論⑤ 口腔内疾患①	身体検査項目、正常と異常の違い、一般状態の用語 バイタルサイン・身体検査－小テスト 口腔内局所解剖、生理学				
第3回	口腔内疾患②③	口腔内検査 主な口腔内疾患				
第4回	口腔内疾患④⑤	歯の構造、主な検査法 歯の主な疾患				
第5回	感覚器疾患 耳①②	口腔内疾患および歯牙疾患－小テスト 耳の局所解剖と生理学				
第6回	感覚器疾患 耳③、眼①	耳の疾患、耳の疾患－小テスト 眼の局所解剖と生理学				
第7回	感覚器疾患 眼②③	眼の検査法 睫毛、眼瞼に生じる疾患				
第8回	感覚器疾患 眼④⑤	マイボーム腺、ブドウ膜、角膜、強膜、結膜、瞬膜に生じる疾患				
第9回	感覚器疾患 眼⑥⑦	水晶体、網膜、涙腺に生じる疾患 眼球全体に生じる疾患				
第10回	感覚器疾患 皮膚①②	眼疾患－小テスト 皮膚の解剖生理、検査法				
第11回	感覚器疾患 皮膚③④	内分泌性、アレルギー性、免疫介在性皮膚疾患				
第12回	感覚器疾患 皮膚⑤⑥	感染性皮膚疾患：細菌性、真菌性、寄生虫性				
第13回	感覚器疾患 皮膚⑦	皮膚疾患－小テスト その他の皮膚疾患				
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書5 増補改訂版」					
参考書	インターズー出版「コンパニオン・アニマルの疾患学入門」					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NBB02						
科目名	動物疾病看護学Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物疾病看護学	小項目	動物疾病看護学Ⅱ		
授業の概要	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。						
学習目的	犬猫の主な内科的疾患について、疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解し実際の医療現場で自ら行動ができる						
到達目標	1. 内科疾患① ・主な内科的疾患の機序と症状を簡潔書きで書ける ・内科的疾患に必要な検査法、治療法を簡単に説明できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	循環器系疾患①②	うっ血性心不全 僧帽弁閉鎖不全症					
第2回	循環器系疾患③④	三尖弁閉鎖不全症 ショック					
第3回	循環器系疾患⑤⑥	ショック イヌ系状虫症、大静脈症候群					
第4回	循環器系疾患⑦⑧	先天性心疾患：動脈管開存、大動脈弁狭窄、肺動脈弁狭窄、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症					
第5回	循環器系疾患⑨⑩	先天性心疾患：ファロー四徴症、門脈体循環シャント					
第6回	循環器系疾患⑪⑫	先天性心疾患－小テスト 心内膜床欠損症、拡張型心筋症					
第7回	循環器系疾患⑬⑭	肥大型心筋症 その他の循環器系疾患					
第8回	循環器系疾患⑮⑯	循環器疾患まとめ－グループワーク、発表					
第9回	呼吸器疾患①②	鼻汁、くしゃみ、咳 ケンネル・コフ					
第10回	呼吸器疾患③④	ネコの上部気道感染症候群、肺炎、水胸、膿胸、血胸 その他の呼吸器系疾患					
第11回	呼吸器疾患⑤	呼吸器疾患まとめ－グループワーク、発表					
第12回	血液・造血管系疾患①②	血液・造血管系の解剖生理 貧血					
第13回	血液・造血管系疾患③④	血液・造血管系疾患 リンパ節の腫脹					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書5 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「コンパニオン・アニマルの疾患学入門」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NBB03					
科目名	動物疾病看護学Ⅲ	担当者		学科	動物看護科	開講期 前期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物疾病看護学	小項目	動物疾病看護学Ⅲ	
授業の概要	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し実際の医療現場で自ら行動できる					
学習目的	犬猫の主な内科的疾患について、疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解し実際の医療現場で自ら行動できる					
到達目標	1.内科疾患② ・主な内科的疾患の機序と症状を簡条書きで書ける ・内科的疾患に必要な検査法、治療法を簡単に説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	消化器系疾患①②	嚥下困難、流涎、口臭 吐出、嘔吐、吐血				
第2回	消化器系疾患③④	下痢、血便、下血、便秘				
第3回	消化器系疾患⑤⑥	巨大食道症、食道内異物、胃食道逆流症 胃炎、胃内異物、胃潰瘍、幽門狭窄				
第4回	消化器系疾患⑦⑧	急性胃拡張・胃捻転、毛球症 犬パルボウイルス感染症、猫汎白血球減少症、コロナウイルス感染症				
第5回	消化器系疾患⑨⑩	細菌性腸炎（カンピロバクター・サルモネラ・クロストリジウム） 寄生虫性腸炎（回虫・鉤虫、イヌ鞭虫）				
第6回	消化器系疾患⑪⑫	寄生虫性腸炎（イヌ糸虫、マンソン裂頭条虫、コクシジウム、腸トリコモナス、ジアルジア、クリプトスポリジウム）				
第7回	消化器系疾患⑬⑭	イレウス 腸管のヘルニア（臍ヘルニア、鼠径ヘルニア、陰囊ヘルニア）				
第8回	消化器系疾患⑮⑯	腸管のヘルニア（会陰ヘルニア、腹壁ヘルニア、腸間膜ヘルニア） 肛門囊炎、腹膜炎				
第9回	消化器系疾患⑰⑱	炎症性ポリープ、巨大結腸症 消化器系疾患－小テスト				
第10回	消化器系疾患⑲⑳	消化器疾患まとめ				
第11回	肝胆道系・膵外分泌系疾患①②	腹部膨満 肝性脳症、慢性進行性肝炎、感染性肝炎				
第12回	肝胆道系・膵外分泌系疾患③④	薬物や毒物による肝炎、肝リビドーシス 膵炎・膵外分泌不全				
第13回	消化器系・肝胆道系	消化器系・肝胆道系まとめ－グループワーク、発表				
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書5 増補改訂版」					
参考書	インターズー出版「コンパニオン・アニマルの疾患学入門」					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NBB04						
科目名	動物疾病看護学Ⅳ	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物疾病看護学	小項目	動物疾病看護学Ⅳ		
授業の概要	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。						
学習目的	犬猫の主な内科的疾患について、疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解し実際の医療現場で自ら行動できる						
到達目標	1. 内科疾患③ ・ 主な内科的疾患の機序と症状を箇条書きで書ける ・ 内科的疾患に必要な検査法、治療法を簡単に説明できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	泌尿器系疾患①②	検査法 泌尿器疾患の主な症状・急性腎不全					
第2回	泌尿器系疾患③④	慢性腎不全 ネコの下部尿路疾患					
第3回	泌尿器系疾患⑤⑥	犬の尿石症 ネフローゼ症候群					
第4回	泌尿器系疾患⑦⑧	糖尿病性腎症 アミロイド腎症					
第5回	泌尿器系疾患⑨⑩	腎性尿崩症、排尿障害 尿道狭窄					
第6回	泌尿器系疾患⑪	泌尿器疾患まとめグループワーク、発表					
第7回	内分泌系疾患①②	甲状腺機能低下症、亢進症					
第8回	内分泌系疾患③④	副腎皮質機能低下症、亢進症					
第9回	内分泌系疾患⑤⑥	糖尿病、内分泌疾患まとめグループワーク、発表					
第10回	生殖器系疾患①②	子宮蓄膿症、乳腺腫瘍、産褥テタニー					
第11回	生殖器系疾患③④	持続性発情、子宮内膜過形成、子宮粘液症					
第12回	生殖器系疾患⑤⑥	子宮捻転、子宮破裂、子宮脱 胎盤停滞、胎盤部分退縮不全、膣炎、膣過形成					
第13回	生殖器系疾患⑦⑧	前立腺肥大、潜在精巣、前立腺嚢胞、前立腺炎					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書5 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「コンパニオン・アニマルの疾患学入門」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NBB05						
科目名	動物疾病看護学Ⅴ	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物疾病看護学	小項目	動物疾病看護学Ⅴ		
授業の概要	主に犬猫の病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす。						
学習目的	犬猫の主な外科的疾患、神経疾患、腫瘍性疾患について、疾患の機序と症状、検査法、治療法を理解し実際の医療現場で自ら行動できる						
到達目標	1. 外科疾患、神経疾患、腫瘍性疾患 ①主な外科・神経疾患の機序と症状を箇条書きで書ける ②外科・神経疾患に必要な検査法、治療法を理解できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	整形外科疾患①②	跛行、骨折、膝蓋骨脱臼					
第2回	整形外科疾患③④	前十字・後十字靭帯断裂、側副靭帯損傷、半月板損傷					
第3回	整形外科疾患⑤⑥	股関節形成不全、レッグペルテス、肘関節形成不全					
第4回	整形外科疾患⑦⑧	脛骨内彎症、肩関節不安定症、アキレス腱断裂、離断骨軟骨症、尺骨遠位成長板早期閉鎖					
第5回	整形外科疾患⑨⑩	整形外科疾患まとめグループワーク、発表					
第6回	神経系疾患①②	椎間板ヘルニア、水頭症、てんかん					
第7回	神経系疾患③④	変性性腰仙部狭窄症、ウォブラー症候群					
第8回	神経系疾患⑤⑥	キアリ様奇形、脊髄空洞症、脊髄クモ膜嚢胞					
第9回	神経系疾患⑦⑧	環軸亜脱臼、脊椎奇形					
第10回	神経系疾患⑨⑩	神経系疾患まとめグループワーク、発表					
第11回	腫瘍性疾患①	腫瘍の分類					
第12回	腫瘍性疾患②	代表的な腫瘍性疾患					
第13回	腫瘍性疾患③	担がん動物の看護、化学療法					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書5 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「コンパニオン・アニマルの疾患学入門」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NBC01					
科目名	動物薬理学	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	前期
	専門基礎分野	(時間)	(30)			曜日 時限
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物薬理学	小項目	動物薬理学	
授業の概要	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り扱えることを目指す。					
学習目的	薬理学：薬理作用と薬物代謝の仕組み及び薬の有害作用、中毒を理解し実際の医療現場での行動に活かせる 薬物学：獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し実際の医療現場での行動に活かせる					
到達目標	1.薬理学、薬物学 以下の項目について、飼い主さんに簡単に説明ができる ①薬が作用を現す基本的な仕組み ②薬の代謝、排泄の仕組み ③薬の有害作用(副作用)、中毒の基本 ④プラセボ効果 ⑤主な抗生剤、抗菌剤 ⑥主な抗炎症剤 ⑦循環器系、呼吸器系の薬剤及び利尿薬 ⑧神経系、麻酔薬の薬剤 ⑨消化器系の薬剤 ⑩ホルモンの薬剤					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	総論 薬理学とは	医薬品に関する情報の必要性、薬品の取扱いと注意事項について学び、薬理学に必要な基本的な知識を習得する 医薬品・医薬部外品・化粧品・食品の区別、効能効果、販売規制、処方制限について学ぶ				
第2回	薬物の剤形①②	薬物の剤形について知る：内服薬、注射薬、外用薬それぞれの薬物の剤形を知る。				
第3回	薬物の投与方法とその特徴①②	薬物の様々な投与方法の長所、短所を知る。				
第4回	薬物の投与方法とその特徴③④	静脈内投与、経口投与について				
第5回	薬物動態①②③	体内の薬物の動き、効果発現までの流れについてや体内に入って薬剤代謝について理解する。				
第6回	薬物に影響を与える因子①②	効果に影響を与える因子、量、効果に影響をあたえる因子についてを知る。				
第7回	おもな薬剤の特性①②	消化器系、血管系、内分泌腺、生殖器など、自分の意志でコントロールできない器官の機能を促進/抑制する神経に影響を及ぼす薬剤、副交感神経作動薬、交感神経作動薬、受容体について学ぶ				
第8回	おもな薬剤の特性③④	副交感神経作動薬、交感神経作動薬、受容体について学ぶ 抗菌薬：抗生物質とは：β-ラクタム系、アミノグリコシド、テトラサイクリン、クロラムフェニコールマクロライド類、リンコマイシン、キノロン系等の特徴				
第9回	おもな薬剤の特性⑤⑥	抗菌薬：抗生物質とは：β-ラクタム系、アミノグリコシド、テトラサイクリン、クロラムフェニコールマクロライド類、リンコマイシン、キノロン系、サルファ剤、ポリミキシン、バンコマイシン等の特徴				
第10回	おもな薬剤の特性⑦⑧	合成ステロイド：糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイドについて知る 非合成ステロイド：NSAIDs				
第11回	おもな薬剤の特性⑨⑩⑪	循環器疾患に対する薬：心不全・血管拡張薬 消化器疾患に対する薬：嘔吐・下痢等に使用される薬剤の種類と特徴				
第12回	薬用量の計算①②	薬用量の計算方法を知り、実際に計算し必要量を算出できるようになる。				
第13回	薬用量の計算③④	薬用量の計算方法を知り、実際に計算し必要量を算出できるようになる。				
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書3 増補改訂版」					
参考書	緑書房出版「犬と猫の臨床薬理ハンドブック」					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。					
原簿のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NBD01					
科目名	動物感染症学 I	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物感染症学	小項目	動物感染症学 I	
授業の概要	主にイヌやネコに感染する微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルス）について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主様に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。					
学習目的	寄生現象及び宿主との関連性を理解し、予防獣医学に貢献できる。 主に犬猫に感染する微生物について分類と予防法を理解し、飼い主に簡単に説明ができる。					
到達目標	1. 総論 ①宿主とは何か答えられる ②寄生虫とは何か答えられる 2. 微生物 ①犬猫に感染する主な原虫の感染経路と病害発生の機序と予防法を箇条書きで書ける ②犬猫に感染する主な真菌の感染経路と病害発生の機序と予防法を箇条書きで書ける ③犬猫に感染する主な細菌の感染経路と病害発生の機序と予防法を箇条書きで書ける					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	感染・感染症とは 感染症の種類 1	感染症の定義と感染症の原因を理解し、感染症の予防と看護に役立てる。 感染症の種類について学習し、それぞれの意味を答えられるようにする。 (伝染病・非伝染病・流行・一時感染・二次感染・菌交代症・混合感染・日和見感染・院内感染等)				
第2回	感染症の種類 2 感染が成り立つには 1	感染症の種類について学習し、それぞれの意味を答えられるようにする。 (局所感染・全身感染・病巣感染・持続感染・潜伏感染・侵入経路による感染・その他の感染) 感染が成り立つのに必要な要因				
第3回	感染が成り立つには 2	感染の伝播形式（経路） 宿主の感染防御能・感染症の診断				
第4回	微生物学 微生物とは	肉眼では見ることができない、微細な単細胞の生物であることを理解する。原虫、真菌、細菌（リケッチア、クラミジア、マイコプラズマを含む）、ウイルス、プリオンについて、それらの性状の違いを知る。				
第5回	微生物学 細菌 1	細菌の性状・細菌の基本構造（細菌は形状によって名称が異なることを知る。） 細菌を判別するために、様々な染色法があることを知る。（細菌の染色法）				
第6回	微生物学 細菌 2 イヌ・ネコの主な細菌感染症 1	細菌の発育や増殖に必要な栄養素が何か。また細菌培養の目的と細菌の分類について知る。 イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。 (①ブドウ球菌感染症②炭疽③緑膿菌感染症等)				
第7回	微生物学 イヌ・ネコの主な細菌感染症 2	イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。 (①ブルセラ症②ボルデテラ症③サルモネラ症④ライム病⑤レプトスピラ症⑥カンピロバクター症)				
第8回	微生物学 イヌ・ネコの主な細菌感染症 3 真菌 1	イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。 (①猫クラミジア症②猫ヘモプラズマ感染症（猫ヘモバルトネラ症）③犬猫の呼吸器感染症等） 真菌とは何か、その形態と増殖様式を知る				
第9回	微生物学 真菌 2 イヌ、ネコの主な真菌感染症	主な病原性真菌と検査法について学ぶ。 イヌ、ネコの主な真菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。				
第10回	微生物学 原虫 イヌ、ネコの主な原虫感染	原虫とは何かを知り、その分類と増殖様式、検査法を学ぶ。 イヌ、ネコの主な原虫感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。				
第11回	微生物学 ウイルス	ウイルスとは何かを知り、その性状と分類について学び、また増殖と、感染の経過について知る。				
第12回	微生物学 イヌの主なウイルス感染症 1	イヌの主なウイルス感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。				
第13回	微生物学 ネコの主なウイルス感染症 2	ネコの主なウイルス感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。				
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 3 増補改訂版」					
参考書	インターズー出版「寄生虫ビジュアルガイド」					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上		単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。			
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NBD02		科目名	動物感染症学Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日		時間		
大項目	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ	中項目	動物感染症学	小項目	動物感染症学Ⅱ					
授業の概要	主にイヌやネコに感染する内部寄生虫・外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主様に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。人への感染について学ぶ。									
学習目的	寄生現象及び宿主との関連性を理解し、予防獣医学に貢献できる。 主に犬猫に寄生する内部寄生虫・外部寄生虫・微生物の分類と予防法を理解し、飼い主さんに簡単に説明できる。									
到達目標	1. 内部寄生虫 ①犬猫に寄生する主な内部寄生虫の分類、形態、生活環の違いを簡単に図示できる ②犬猫に寄生する主な内部寄生虫の病害発生の機序と予防法を理解し、簡単に説明できる 2. 外部寄生虫 ①犬猫に寄生する主な外部寄生虫の分類、形態、生活環の違いを簡単に図示できる ②犬猫に寄生する主な外部寄生虫の病害発生の機序と予防法を理解し、簡単に説明できる									
授業計画										
回	主題	授業内容							備考	
第1回	寄生虫とは 内部寄生虫の分類 1	寄生虫の定義を定義を知り、寄生虫とは何か、宿主の意味を理解する。 内部寄生虫の分類と特徴（線虫類等、条虫類、吸虫類等）								
第2回	内部寄生虫の分類 2	内部寄生虫の分類と特徴（原虫類等）								
第3回	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫 1	イヌに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。（犬回虫等） 成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法など								
第4回	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫 2	イヌに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。（犬鉤虫・鞭虫、糞線虫等） 成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法など								
第5回	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫 3	イヌに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。（イソスポラ・クリプトスポリジウム・ジアルジア等） 成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法など ネコに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。（猫回虫、猫鉤虫、猫糞線虫等） 成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法など								
第6回	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫 4	ネコに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。（壺形吸虫、イソスポラ、トキソプラズマ等） 成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法など								
第7回	臨床症状がみられる内部寄生虫 全身症状を示す内部寄生虫 1	イヌ、ネコに循環器症状や呼吸器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。（犬糸状虫、肺吸虫、バベシア、ヘモプラズマ等）								
第8回	臨床症状がみられる内部寄生虫 全身症状を示す内部寄生虫 2 ほとんど無症状の内部寄生虫 1	イヌ、ネコに循環器症状や呼吸器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。（ヘマトゾーン、エールリヒア等） イヌ、ネコにおいて症状が明らかでない内部寄生虫（瓜実条虫、エキノコックス等）								
第9回	ほとんど無症状の内部寄生虫 2	イヌ、ネコにおいて症状が明らかでない内部寄生虫（マンソン裂頭条虫、猫条虫等）								
第10回	外部寄生虫の分類	外部寄生虫の分類と特徴（昆虫類、ダニ類）								
第11回	皮膚障害を伴う外部寄生虫 昆虫類	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中の昆虫類 （イヌノミ・ネコノミ・イヌジラミ・イヌハジラミ・ネコハジラミ等）								
第12回	皮膚障害を伴う外部寄生虫 ダニ類	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中のダニ類 （ミミヒゼンダニ・イヌヒゼンダニ・イヌニキビダニ・イヌツメダニ等）								
第13回	皮膚障害を伴う外部寄生虫 ダニ類 2 吸血性の昆虫類・ダニ類	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中のダニ類（ショウセンコウヒゼンダニ・ネコツメダニ等） イヌ、ネコを吸血する外部寄生虫の昆虫類また、媒介する病原体について学ぶ。								
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。							※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。								
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書3 増補改訂版」									
参考書	インターズー出版「寄生虫ビジュアルガイド」									
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。									
試験範囲	第13回目の授業にて告知									
履修のポイント										
オフィス・アワー										

科目コード	NCA01					
科目名	病原体・衛生管理	担当者		学科	動物看護科	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ	中項目	病原体・衛生管理	小項目	病原体・衛生管理	
授業の概要	病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。また、感染症の予防の重要性を飼い主に伝えられるようになる。					
学習目的	主に犬猫に関連する病原体について治療法と防御法を理解し、説明できる。 獣医療現場で使用される主なワクチンについて特徴と使用法を理解し、説明することができる。					
到達目標	1. 概論 ①犬猫に感染する主なウィルスの種類と特徴を飼主に対して簡単に説明できる ②犬猫に感染する主なウィルスの感染経路と病害発生の機序を飼主に対して簡単に説明できる 2. ワクチン ①犬猫の主なワクチンの種類と特徴を飼主に対して簡単に説明できる ②犬猫のワクチン接種についてワクチネーションプログラムを飼主に対して簡単に説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	動物病原体病原性について	動物病原体になりうる微生物にはどのようなものがあるかを知り、その知識を予防に活かす。動物病原体の病原性について学び、予防に活かす。				
第2回	感染症の予防1	感染症の予防について、まずは感染の成り立ちを理解し、感染を成立させない方法を考える。感染を成立させ卸元議と注意点（感染源、感染経路・宿主の抵抗力・海外からの侵入）				
第3回	感染症の予防2 ワクチンとは	感染を成立させない方法と注意点（衛生教育の普及・法律の整備、改正） ワクチンの重要性				
第4回	生ワクチンと不活化ワクチン ワクチンの必要性 ワクチンの効果	生ワクチンと不活化ワクチンの特徴とその違いについて学ぶ。 ワクチンがなぜ必要か、どんなときに必要かについて学ぶ。 ワクチンの効果に影響を与えるものについて学習する。				
第5回	ワクチネーションとは ワクチンの副作用	ワクチネーションに影響する因子について学ぶ。 ワクチンによるアレルギー反応、副作用について学ぶ。				
第6回	コアワクチンとノンコアワクチン	コアワクチンとノンコアワクチンとは何かを学ぶ。 イヌとネコのコアワクチン・ノンコアワクチンに含まれる感染症について				
第7回	イヌとネコの混合ワクチン イヌのワクチネーションプログラム1	獣医療現場で使用されるイヌとネコの混合ワクチンの種類 イヌのワクチネーションプログラムの基本事項について学ぶ				
第8回	イヌのワクチネーションプログラム2	イヌの初年度、1歳、その後に接種するワクチンの種類と時期について学ぶ 8週齢を過ぎて初めてワクチン接種を行う場合のワクチネーションプログラムを学ぶ。				
第9回	ネコのワクチネーションプログラム	ネコのワクチネーションプログラムの基本事項と初年度～1歳のワクチン後について学ぶ。 8週齢を過ぎて初めてワクチン接種を行う場合のワクチネーションプログラムを学ぶ。				
第10回	寄生虫の予防 内部寄生虫1	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持について学ぶ。（原虫類）				
第11回	寄生虫の予防 内部寄生虫2	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持について学ぶ。（回虫・瓜実条虫・犬糸状虫）				
第12回	寄生虫の予防 外部寄生虫1	イヌとネコに寄生する主な外部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。（ノミ・マダニ）				
第13回	寄生虫の予防 外部寄生虫2	イヌとネコに寄生する主な外部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。 （ミミヒゼンダニ・アカラス・シラミ・ハジラミ）				
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第3巻」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NCB01					
科目名	動物健康管理	担当者		学科	動物看護科	開講期 前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(16)			時限
大項目	健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ	中項目	動物健康管理	小項目		
授業の概要	ウェルネスプログラムを理解し、飼い主に説明指導ができるように学習					
学習目的	健全な動物に対する必要なケアの意義を理解し、実行できる					
到達目標	1. 飼育管理・日常ケア ①被毛の手入れ、シャンプーについて理解し、必要性を飼主に向けて説明できる ②爪切り、耳掃除について理解し、必要性を飼主に向けて説明できる ③肛門囊について理解し、手入れの必要性を飼主に向けて説明できる ④犬種猫種の活動性の違いによる適切な飼育環境作りができる ⑤食べてはいけないものや事故防止に工夫した飼育管理ができる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	動物と暮らすということ	動物と暮らす上で欠かせない心構えを知る。				
第2回	イヌの飼育環境作り2	イヌと暮らす上で、まずはイヌという動物を知り、どのような世話が必要かを学ぶ。 室内でイヌを飼う場合の具体的な飼育環境について学ぶ。				
第3回	ネコの飼育環境作り	ネコと暮らす上で、まずはネコという動物を知り、その習性によって快適で安全な飼育環境がイヌとは異なることを学ぶ。 室内でネコを飼う場合の具体的な飼育環境について学ぶ。				
第4回	食べさせてはいけないもの	イヌ、ネコが健康に生きていくためにはどのような食事を与えればよいのかを知る。				
第5回	ウェルネスプログラム	ウェルネスプログラム中の寄生虫コントロールについて学ぶ。 ウェルネスプログラムの寄生虫コントロールの中のフィラリア症予防について学ぶ。 フィラリア以外の寄生虫コントロールについて学ぶ。				
第6回	日常ケア1	日常ケアの中の体表のケア（ブラッシング、入浴、肛門囊の手入れ）について学ぶ。 眼・耳・爪の手入れを学ぶ。				
第7回	日常ケア2	デンタルケアについて学ぶ。				
第8回	単位認定試験／解説	授業内にて試験を行い、解説を聞き、問題の意義等を理解する。				※学生証が必要
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書4 増補改訂版」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上		単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。			
試験範囲	第7回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NCC01					
科目名	動物栄養学 I	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目	単位	2	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ	中項目	動物栄養学	小項目	動物栄養学 I	
授業の概要	栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。					
学習目的	基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違いを理解し、適切な食事管理ができる					
到達目標	1. 栄養学 ①基礎栄養素を飼主にわかるよう簡単に説明できる ②犬猫の必要栄養素の違いを飼主にわかるよう簡単に説明できる ③ペットフードの標記内容を説明できる ④ライフステージによる違いを説明できる ⑤BCS評価及びカロリー計算ができる ⑥フードのタイプ及び給仕回数、給与方法をその動物の状態・ライフステージに合わせて選択できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	動物栄養学総論	基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違い、適切な食事管理、基礎栄養素となる水の働きについて学び、説明ができるようになる。				
第2回	基礎栄養学 1 炭水化物	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ。 炭水化物の種類と働きが説明できるようになる。				
第3回	基礎栄養学 2 脂質	動物に必要な栄養素の中の脂質について学ぶ。 脂質の種類と働き、必須脂肪酸について説明できるようになる。				
第4回	基礎栄養学 3 蛋白質	動物に必要な栄養素の中の蛋白質について学ぶ。 蛋白質の種類と働き、必須アミノ酸について説明できるようになる。				
第5回	基礎栄養学 4 ビタミン	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ。 ビタミンの種類と働きについて説明できるようになる。				
第6回	基礎栄養学 5 ミネラル	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ。 ミネラルの種類と働きについて説明できるようになる。 また、犬種によって毒性があるミネラルについて知る。				
第7回	犬猫の栄養要求の違い	必要な栄養素が違う理由を学ぶことで、どのような食事を与えたらよいかを説明できるようになる。				
第8回	ライフステージ別の栄養管理 1	それぞれのライフステージによって必要となる栄養素の量が異なることを知る。 小型犬～大型犬に必要な栄養が異なる事を知る。				
第9回	ライフステージ別の栄養管理 2	成イヌ・成ネコに必要な栄養基準を学習する。 高齢のイヌとネコの食事内容を学習する。				
第10回	ペットフード表示とBCS評価	実際のいろいろな商品を見て、ラベル上の情報を読み取る。 各動物の栄養状態を客観的に表現できる方法を学習する。				
第11回	カロリー計算 1	食事管理の基本となる必要カロリー量が計算できるようになる。(計算機使用可能)				
第12回	カロリー計算 2	食事管理の基本となる必要カロリー量が計算できるようになる。(計算機使用可能)				
第13回	カロリー計算 3	食事管理の基本となる必要カロリー量が計算できるようになる。(計算機使用可能)				
第14回	ペットフードの種類	目的別のフード内容について知識を習得し、飼主家族に説明できるように学習する。 (肥満対策、歯石ケア、ネコの毛球対策など)				
第15回	試験	50分の試験を行い、授業・試験の振り返りをする。				※学生証が必要
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第4巻」					
参考書	インターズー出版「一般社団法人日本動物看護職協会認定 臨床栄養指導認定動物看護師 試験教本 動物栄養学」 インターズー出版「基本からよくわかる犬と猫の栄養管理」島田真美 著					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第14回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NCC02		科目名	動物栄養学Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	2	学年	1年	開講期	曜日			
区分	専門基礎分野	(時間)	(30)	開講期	曜日	開講期	時限			
大項目	健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ	中項目	動物栄養学	小項目	動物栄養学Ⅱ					
授業の概要	獣医師の診断内容と栄養学的内容を理解し、その疾患に関連する解剖学や生理学の知識を修得し、栄養学および食事指導をする。									
学習目的	疾患別の特別療法食の栄養特性を説明できる									
到達目標	1. 特別療法食 ①特別療法食の標記と取り扱いを説明できる ②疾患別による栄養特性を説明できる ③疾患別による適切なフードのタイプや給仕回数を考え、適切に給仕することができる									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容							備 考	
第1回	尿路結石／猫下部尿路疾患 1	イヌやネコにおいて多い疾患の内結石、猫下部尿路疾患についてその特徴や栄養管理で注意が必要な点について学ぶ。 結石が形成される仕組みを知ることによってそうならないための食事管理の指導ができるようになる。尿PHと食餌の関連を知る。								
第2回	尿路結石／猫下部尿路疾患 2									
第3回	心臓病 1	心臓病を持ったイヌとネに適した食事とはどんな内容なのかを理解する。 慢性心不全の食事管理を学習する。								
第4回	心臓病 2									
第5回	消化器系 1	消化器系疾患に必要な動物の栄養を理解する。 口腔から食道までの疾患と食事管理について学習する								
第6回	消化器系 2	消化器の部位による消化と生理機能を知ることによる疾患と、食事管理ができる。 胃疾患に関する動物の栄養を理解する 小腸の消化・吸収のしくみを知り、食事管理について学ぶ。								
第7回	腎臓病 1	腎臓での老廃物の処理、排泄について理解し、代表的な疾患を理解できる。 腎不全の食事管理について知識を修得し、飼主家族に指導できるようになる。								
第8回	腎臓病 2									
第9回	肝臓病 1	肝臓機能障害が身体に及ぼす影響について理解する。 肝臓疾患の動物の維持エネルギー要求量について学習し、適切な食事内容を理解する。								
第10回	肝臓病 2	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する。 肝臓の機能を知ることにより、代表的な肝臓疾患の原因と症状を知る。								
第11回	口腔疾患	歯、口腔内を含めて全身の健康にとって良い食物について理解できる。 歯周病と食欲不振の関係。								
第12回	糖尿病	糖尿病治療の基本となる食事管理の重要性を学ぶ。糖尿病の原因、症状、タイプについて説明できる。 食物が与えるエネルギー要求量を算出し、活用する必要があるため、栄養学Ⅰで行ったBCSを正しく評価、活用できるようになる。								
第13回	食物アレルギー	食物アレルギーの原因と症状について知る。 食物アレルギーの仕組みについて説明できる。								
第14回	関節炎	関節炎を持つ動物の栄養管理について理解できる。 関節炎の原因と症状について理解できた上で、栄養学的管理をする。								
第15回	試験	50分の試験を行い、授業・試験の振り返りをする。							※学生証が必要	
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第4巻」									
参考書	インターズー出版「一般社団法人日本動物看護協会認定 臨床栄養指導認定動物看護師 試験教本 動物栄養学」 インターズー出版「基本からよくわかる犬と猫の栄養管理」島田真美 著									
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。									
試験範囲	第14回目の授業にて告知									
履修のポイント										
オフィス・アワー										

平成30年度 シラバス

科目コード	NCC03						
科目名	動物栄養学Ⅲ	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(16)			時限	
大項目	健康管理と維持に必要な技術と概念を学ぶ	中項目	動物栄養学	小項目	動物栄養学Ⅲ		
授業の概要	ペットフード自体についても関心を持ち、適切に指導ができるための知識を持つように学習する。						
学習目的	ペットフードの販売と市場について考えることができる						
到達目標	1. ペットフード市場 ①嗜好性と受容性を説明できる ②ペットフードの適切な取り扱いができる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	がん	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する。 栄養管理に必要ながんについての知識を学ぶ					
第2回	脳の加齢と認知障害	QOLの維持や延命のための栄養管理について知る。 脳の加齢による行動異常と機能低下を知る。 認知機能の低下を示す症状を挙げ、少しでも進行を遅らせる栄養的手段があるかどうかを学習する。					
第3回	肥満	動物の肥満とはどういう状態かを理解する。肥満の原因と判定方法について学ぶ。 肥満動物の飼い主家族への指導方法を学ぶ。 (BCSの正しい評価が出来ていることを前提とする)					
第4回	甲状腺機能亢進症	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る。 甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する。					
第5回	ペットフード市場 1	ペットフード市場の理解 フードの嗜好性と受容性を理解できる。ペットフードの適切な取り扱いを理解する。					
第6回	ペットフード市場 2	嗜好性の要因を考える。臭い、味、質感・低塩食は美味しいのか。 健全なペットフードを使用するために規則を定める。 (ペットフード安全法を理解していることを前提とする)					
第7回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第8回	振り返り	栄養学全体の振り返りを行う					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第4巻」						
参考書	インターズー出版「一般社団法人日本動物看護職協会認定 臨床栄養指導認定動物看護師 試験教本 動物栄養学」 インターズー出版「基本からよくわかる犬と猫の栄養管理」島田真美 著						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第6回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

科目コード	NDA01						
科目名	動物医療関連法規	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	動物医療業界の関連法規を知る	中項目	動物医療関連法規	小項目	動物医療関連法規		
授業の概要	主に獣医臨床現場及び動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を養う。また、社会人として知っておくべき法規について認識する。						
学習目的	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける						
到達目標	<p>1. 獣医師法、獣医療法</p> <p>①法における獣医師と動物看護師の職域の違いを簡単に説明できる</p> <p>②適切な診療に従事できるよう責務と規制事項を簡単に説明できる</p> <p>2. 狂犬病予防法</p> <p>①法における責務と規制事項を簡単に説明できる</p> <p>②予防と登録の必要性を飼主指導できる</p> <p>3. 動物愛護及び管理に関する法律</p> <p>①法における責務と規制事項を簡単に説明できる</p> <p>②動物福祉と人との共生の観点から、適切な飼育法を飼主指導できる</p> <p>4. 鳥獣保護法</p> <p>①法における責務と規制事項を簡単に説明できる</p> <p>②野生動物の在りかたと動物福祉の観点から人との共生を考えることができる</p> <p>5. 薬物関連法規</p> <p>①麻薬及び向精神薬、毒劇物について適正な取り扱いと保管方法を簡単に説明できる</p> <p>②主な医療機器について適正な取り扱いと保管方法を簡単に説明できる</p> <p>6. 家畜伝染予防法</p> <p>①法における責務と規制事項を簡単に説明できる</p> <p>②人と動物の共通感染症防止及び予防の必要性を飼主指導できる</p> <p>7. その他動物関連法規</p> <p>①身体障害者補助犬法の責務と倫理的対応を簡単に説明できる</p> <p>②その他関連法規</p> <p>①個人情報保護法について理念と目的を簡単に説明できる</p> <p>②労働基準法、労働安全衛生法など理念と目的を簡単に説明できる</p> <p>③健康保険法や育児介護休業法等に関する法律について理念と目的を簡単に説明できる</p>						
授業計画							
回	主題	授業内容					備考
第1回	法規の概念 動物看護師を取り巻く獣医療関連法規のアウトラインについて	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。 法律と政令、省令と条例などについて、その趣旨や違いについて理解をする。 動物看護師を取り巻く法律の概要を知る。(獣医事、薬事、環境、動物愛護、自然保護、民法など)					
第2回	動物看護師の職域に関連する法規 (獣医師法)	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。 獣医師法の中の動物看護師の職務について理解する。					
第3回	動物看護師の職域に関連する法規 (獣医療法)	診療施設の開設及び管理・整備の方法などについて、法律の側から理解する。					
第4回	動物愛護及び管理に関する法律 1	動物愛護法の趣旨と飼い主やペット業者の責任や義務について理解する。					
第5回	動物愛護及び管理に関する法律 2 (ペットフード安全法)	ペットの健康を保護し動物の愛護に寄与することを目的とするペットフード安全法の制定の背景と経緯、法律の概要について理解する。					
第6回	身体障害者補助犬法 狂犬病予防法 1	動物福祉と人との共生の観点から、身体障害者補助犬法において動物看護師が理解を深めておくべき部分を学ぶ。 狂犬病法を知りながら、法における責務と規制事項を理解できる。					
第7回	狂犬病予防法 2 家畜衛生行政関連法規 1 (家畜伝染病予防法)	狂犬病予防法が必要なかを知り、狂犬病についての知識を修得する。 色々な動物の感染症についてその発生予防などについて理解する。					
第8回	家畜衛生行政関連法規 2 (家畜伝染病予防法) 公衆衛生行政関連法規 1 (食品衛生法)	法の理念を目的を学び、家畜防疫についての理解を深める。 動物看護師の職域として、人の健康や食品の衛生管理に係わる可能性も含めて、これらに関係する法律について理解する。					
第9回	公衆衛生行政関連法規 2 (と畜場法、食鳥検査法、水道法、下水道法など) 薬物関連法規 1 (薬事法)	人の健康管理に大きく影響する食品の衛生確保のための法律について理解する。 動物用医薬品、医薬部外品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保のための法律などについて学ぶ。					
第10回	薬物関連法規 2 (薬事法) 環境行政関連法規 (産業廃棄物概論)	薬事法に関連し、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法の存在を知る。 廃棄物処理法に基づく産業廃棄物の大きな区分、感染性廃棄物処理について理解する。					
第11回	野生動物にかかわる関係法令	野生動物の保護を目的とした各種法律の概略について理解する。 ワシントン条約関連の野生保護に係る一連の法律と条約について理解する。					
第12回	社会人として知っておく必要のある法律 1 (民法)	民法における契約などの生活関連法規について、その基礎を理解する。					
第13回	看護師の為の法律	獣医療技術者としての動物看護師の位置づけを理解し、動物看護師の実際の業務と法律の関係を把握する					
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 1 増補改訂版」						
参考書	公益社団法人日本愛玩動物協会出版「愛玩動物飼養管理士2級教本 第1巻」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率90%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NEA01					
科目名	公衆衛生学	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	公衆衛生学	小項目	公衆衛生学	
授業の概要	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。					
学習目的	①公衆衛生について基本的な理念を理解し、公衆衛生の基本を考え、行動できる。 ②国内外に問わず、動物の輸送時や受け入れの際の公衆衛生に関わる注意点を説明できる。 ③国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。 ④滅菌と消毒の違いとそれぞれの方法を説明できる。					
到達目標	<p>1. 概論・動物防疫学</p> <p>①公衆衛生について基本的な理念を理解し、その目的と活動を考え、行動することができる。 ②動物検査の目的と方法について説明できる ③国外輸送や新規輸入受け入れ時の注意点を説明できる ④集団感染を防ぐ目的と方法を説明できる</p> <p>2. 人獣共通感染症</p> <p>①主な飼育動物由来の人獣共通感染症の種類と病変発生の機序を飼主にわかるよう簡単に説明できる ②主な飼育動物由来の人獣共通感染症の予防法を飼主にわかるよう簡単に説明できる</p> <p>3. 滅菌・消毒</p> <p>①滅菌の目的と方法を知り、運用できる ②消毒の目的と方法を知り、運用できる</p>					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	公衆衛生学概論	獣医療および動物看護学の基礎知識と実践をもとにして、公衆衛生の発展に寄与できるよう、動物看護公衆衛生の活動領域について学ぶ。 公衆衛生の定義と目的をしり、動物と人との相互依存関係を対象としていることを理解する。 国内外に問わず、動物の輸送時や受け入れの際に必要な知識を身につける。				
第2回	人獣共通感染症 1 (人獣共通感染症とは。伝播様式、予防対策)	人獣共通感染症(ズーノーシス)について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。 人獣共通感染症の動物からヒトへの感染様式と・予防対策について学ぶ。				
第3回	人獣共通感染症 2 (動物由来の主な人畜共通感染症・ウイルスによる主な人畜共通感染症 1)	イヌ、ネコ、サル類、げっ歯類の主な人獣共通感染症にはどのようなものがあるかを学ぶ。 ウイルスによる主な人獣共通感染症に入る前に、ウイルスの性状について学ぶ。				
第4回	人獣共通感染症 3 (ウイルスによる主な人畜共通感染症 2)	ウイルスによる主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (狂犬病・高病原性鳥インフルエンザ・日本脳炎・ニューカッスル病・ウエストナイル熱)				
第5回	人獣共通感染症 4 (ウイルスによる主な人畜共通感染症 3)	ウイルスによる主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (エボラ出血熱・Bウイルス病・重症急性呼吸器症候群・牛海綿状脳炎(プリオンとは)) 感染症法の第一類感染症が全てズーノーシスである事に気づく。				
第6回	人獣共通感染症 5 (細菌による主な人畜共通感染症 1)	細菌による主な人獣共通感染症に入る前に、細菌の性状について振り返る。 細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (レプトスピラ症・パスツレラ症)				
第7回	人獣共通感染症 6 (細菌による主な人畜共通感染症 2)	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (カンピロバクター症・ブルセラ症・サルモネラ症・腸管出血性大腸菌感染症)				
第8回	人獣共通感染症 7 (細菌による主な人畜共通感染症 3)	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (野兔病・結核・破傷風・細菌性赤痢・エルシニア感染症)				
第9回	人獣共通感染症 8 (細菌による主な人畜共通感染症 4)	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (猫ひっかき病・Q熱・オウム病・ライム病・ツツガムシ病)				
第10回	人獣共通感染症 9 (真菌による主な人畜共通感染症)	真菌による主な人獣共通感染症に入る前に、真菌の性状について振り返る。 真菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (皮膚糸状菌症・クリプトコッカス症)				
第11回	人獣共通感染症 10 (寄生虫による主な人畜共通感染症 1)	寄生虫による人獣共通感染症の中で、原虫によるものについて、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (ジアルジア症・クリプトスポリジウム症・アメーバ赤痢)				
第12回	人獣共通感染症 11 (寄生虫による主な人畜共通感染症 2)	原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。 (幼虫移行症・アニサキス症・マンソン裂頭条虫症・エキノコックス症)				
第13回	人獣共通感染症 12 (滅菌・消毒について)	滅菌と消毒の違いについて理解する。 適切な方法で実施できるようになる。				
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書3 増補改訂版 第3巻」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NEB01					
科目名	動物繁殖学	担当者		学科	動物看護科	開講期 前期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(16)			時限
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	動物繁殖学	小項目	動物繁殖学	
授業の概要	主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ助産と性別疾病予防について飼主指導に活かす。また犬猫以外の動物の繁殖生理の特徴を知る。					
学習目的	①主に犬猫の生殖器の構造と発生を理解し、説明できる ②受精と妊娠及び妊娠診断の方法や、正常分娩と異常分娩の判断方法、産褥について理解し、飼主にわかるよう簡単に説明できる。 ③繁殖に伴う遺伝的要因を挙げることができる					
到達目標	<p>1. 概論</p> <p>①雌雄の生殖器の構造と性分化の過程を説明できる ②犬の発情周期と性行動を飼主にわかるよう簡単に説明できる ③猫の発情周期と性行動を飼主にわかるよう簡単に説明できる ④犬猫以外の主な動物の生殖器の構造と性行動を説明できる</p> <p>2. 分娩・新生児</p> <p>①受精と着床について人工授精を含め説明できる ②妊娠診断方法と妊娠動物の看護について注意点を考えることできる ③分娩の前兆と生理的变化を理解し妊娠動物の判別できる ④正常分娩と異常分娩の違いを理解し、動物看護師の範囲で判別できる ⑤帝王切開時の助産法を理解し、行動できる ⑥産褥期の母体管理と新生児の管理ができる</p> <p>3. 遺伝学</p> <p>①繁殖に伴う優性遺伝と劣性遺伝を飼主にわかるよう簡単に説明できる ②近親交配とフリーディングについて飼主にわかるよう簡単に説明できる ③遺伝性疾患を3つ以上挙げることができ、その内容を説明することができる</p>					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	性成熟と生殖周期	雌の性成熟と生殖周期（ライフサイクル・季節周期・完全生殖周期と不完全生殖周期）について理解する。 イヌの発情周期について学ぶ。				
第2回	雌犬の繁殖 (妊娠、分娩、出産の看護)	排卵、交配時期について学ぶ。(排卵・交配) 妊娠、分娩、出産に関する看護について学ぶ				
第3回	性ホルモンの復習	生殖に関連するホルモンの種類、作用を復習する。				
第4回	雌イヌの繁殖 (性ホルモン濃度の推移、助産および帝王切開新生子の管理)	犬の妊娠期の異常、分娩時の異常の特徴から助産および帝王切開の援助、新生児の管理について理解する。 雌猫の排卵・交配・妊娠について、イヌとの違いを理解する。				
第5回	雌ネコの繁殖 (性ホルモン濃度の推移、助産および帝王切開新生子の管理)	猫の妊娠期の異常、分娩時の異常の特徴から助産および帝王切開の援助、新生児の管理について理解する。				
第6回	雄犬・猫の繁殖 (精液・交尾・性ホルモン濃度の推移)	雄特有の繁殖に関わる特徴（精液・交尾・性ホルモン濃度の推移）について理解を深める。 人工授精、発情誘起、雌性避妊（不妊手術・薬剤避妊・発情抑制・受精・着床の阻止、中絶） 雄性避妊（去勢手術等）				
第7回	遺伝学の基礎と遺伝性疾患	遺伝性疾患にどのようなものがあるのかを学ぶ。				
第8回	単位認定試験／解説	授業内にて試験を行い、解説を聞き、問題の意義等を理解する。				※学生証が必要
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第4巻」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第7回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NEC01					
科目名	動物人間関係学	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	動物人間関係学	小項目	動物人間関係学	
授業の概要	人間と暮らす動物たちはどのようにして人との関係を築いたのかを古代から現代にいたるまでの出来事や当時の考え方を概観しながら動物と人の関係について理解を深める。					
学習目的	HABによる人間と動物にもたらす影響とその目的を説明できる。					
到達目標	1. AAA、AAT、AAE ①HABがもたらす人と動物への影響を説明できる ②動物介在活動(AAA)の理念と目的を説明できる ③動物介在療法(AAT)の理念と目的を説明できる ④動物介在教育(AAE)の理念と目的を説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	イヌの起源と家畜化 1	イヌと人の関係を歴史から振り返る イヌの起源を知り、イヌと人の関係を歴史から振り返る。 人はどのようにイヌの祖先を家畜化させたのか。				
第2回	イヌの起源と家畜化 2	家畜化と人の社会への適応 イヌの家畜化から社会的認知能力について知る。 イヌの社会的認知能力と人との社会への適応性について				
第3回	イヌの起源と家畜化 3 使役動物と人の絆	家畜化と人の社会への適応 使役動物とは何か説明できる 介助犬、聴導犬、盲導犬それぞれの役割を知る				
第4回	イヌの家畜化と使役犬について アニマルセラピーの歴史	イヌの起源と家畜化から理解の確認 使役動物からアニマルセラピーとは何か 人と動物の関係に関する取り組み				
第5回	動物介在活動(AAA) 動物介在療法(AAT) 動物介在教育(AAE)	AAA、AAT、AAEがもたらす効果 AAA、AAT、AAEの概要を知る違いを知る				
第6回	動物介在活動(AAA) 動物介在療法(AAT) 動物介在教育(AAE) ペットと人の絆 1	AAA、AAT、AAEについて理解の確認 ヒューマンアニマルボンド(HAB)とは何か説明できる				
第7回	ペットと人の絆 2	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果 1 ペットの存在を考察する				
第8回	ペットと人の絆 3	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果 2 社会的効果を考察する				
第9回	ペットと人の絆 4 子どもの発達と動物の関連性	ペットを飼育することで得られる身体的、心理的影響と効果の確認 子供の発達における動物との関連				
第10回	グリーンチムニーズにおけるHAB	グリーンチムニーズとは何か。どのような意義があるか考察する。				
第11回	子供の発達と動物の関連性 高齢者施設に及ぼすペットの効果 1	ペットが関わる人のステージにおける身体的、心理的影響と効果				
第12回	高齢者施設に及ぼすペットの効果 2 小児病棟に及ぼす効果	ペットが関わる人のステージにおける身体的、心理的影響と効果 動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果				
第13回	動物がもたらす教育効果	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について				
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第1巻」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上		単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。			
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NED01					
科目名	動物行動学 I	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	動物行動学	小項目	動物行動学 I	
授業の概要	主に犬猫の発生活起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす。					
学習目的	①生物学上の観点から犬と猫の発生活起源と歴史を説明できる。 ②犬種、猫種による違いとその目的を説明できる。 ③犬猫において基本的な行動の意義または機序を説明できる。					
到達目標	1. 概論 ①犬の発生活起源と生態及びその歴史を説明できる ②猫の発生活起源と生態及びその歴史を説明できる 2. 犬学・猫学 ①犬種による特徴とその目的を飼主に対して簡単に説明できる ②猫種による特徴とその目的を飼主に対して簡単に説明できる 3. 行動の意義と機序 ①犬猫における行動の発達ステージと発達過程を飼主に対して簡単に説明できる ②犬猫における生得的行動、習得的行動について飼主に対して簡単に説明できる ③犬猫における個体行動及び社会行動を飼主に対して簡単に説明できる ④犬猫におけるコミュニケーション行動及びボディランゲージを飼主に対して簡単に説明できる ⑤犬猫における性行動について飼主に対して簡単に説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	動物行動学の基礎 イヌとネコの家畜化 1	犬猫の行動について学ぶにあたり、犬や猫が家畜化された過程と役割、時代背景を踏まえ、現代社会における犬猫の役割を考え動物看護師かどうかを考えられるようにする。				自分にとって、犬猫がどのような存在なのかを振り返る。
第2回	犬種の違いとその目的 1	主な犬種の特徴と行動特性を知る。 犬種の用途、ルーツとグループ分けが出来、犬種名と犬種そのものが一致できる。				
第3回	犬種の違いとその目的 2	主な犬種の特徴と行動特性を知る。 犬種の用途、ルーツとグループ分けが出来、犬種名と犬種そのものが一致できる。				
第4回	猫種の違いとその目的 1	主な猫種の特徴と行動特性を知る。 猫種の用途、ルーツとグループ分けが出来、猫種名と猫種そのものが一致できる。				
第5回	猫種の違いとその目的 2	主な猫種の特徴と行動特性を知る。 猫種の用途、ルーツとグループ分けが出来、猫種名と猫種そのものが一致できる。				
第6回	イヌとネコの発達行動	犬猫の特徴的な発達行動を学ぶ目的を知ることで、動物看護師に必要な行動変化に、どのように対応していくかを実例を元に考える。				
第7回	イヌ、ネコのコミュニケーション行動	犬猫の聴覚・視覚・嗅覚によるコミュニケーションについて学ぶことで、特徴的な行動例を挙げることができるようになる。				
第8回	行動学の歴史と研究	行動学の基礎となる研究者と研究内容を知ることで、現在への応用について考える。 研究者と研究内容を結びつけることが出来るようになる。				
第9回	行動特性	それぞれの行動の意味と目的を知ることで異常行動との鑑別ができるようになる。 動物の行動はどのように分類されているかを学ぶ。				
第10回	行動と学習	学習の定義を知り、学習に影響を与える因子について、また学習行動である馴化と、その逆の過程である鋭敏化(感作)について学び、説明できるようになる。				
第11回	古典的条件付け	古典的条件付けが発見された過程と、その仕組み、メカニズムを学習することで、影響する行動が説明できるようになる。				
第12回	オペラントの条件付け	オペラント条件付けのメカニズム、4種の方法を理解することで、強化スケジュールが組めるようになる。				
第13回	オペラントの条件付け 2	オペラント条件付けを応用することで、現場にどのように活かすかを考える力をつける。				
第14回	問題行動	これまでの行動内容を振り返り、おおまかな問題行動のタイプを知る。				
第15回	試験	50分の試験を行い、授業・試験の振り返りをする。				※学生証が必要
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第2巻」 日本愛玩動物協会出版「愛玩動物飼養管理士2級」 インターズー出版「JKC最新犬種図鑑」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NED02					
科目名	動物行動学Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	動物行動学	小項目	動物行動学Ⅱ	
授業の概要	主に犬猫の発生活動、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす。					
学習目的	①犬猫の基本的なしつけ法を理解し、適正飼育と人と動物の共生に寄与する ②犬猫における主な問題行動を理解し、その行動に対しての対応ができる					
到達目標	1. しつけ・トレーニング ①学習理論と馴化の機序を飼主に対して簡単に説明できる ②犬猫の適切なハンドリングの必要性を飼主に対して簡単に説明できる ③犬猫の排泄のしつけの機序を飼主に対して簡単に説明できる ④犬猫のクレートトレーニングの機序を飼主に対して簡単に説明できる ⑤犬の基本的な服従訓練の必要性を飼主に対して簡単に説明できる ⑥パピークラスの必要性を飼主に対して簡単に説明できる 2. 問題行動 ①排泄問題の発現機序を飼主に対して簡単に説明できる ②攻撃性の発現機序を飼主に対して簡単に説明できる ③分離不安の発現機序を飼主に対して簡単に説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	しつけ・トレーニング1	しつけの必要性、しつけとは何か、褒めるしつけ方と効果的な褒め方について実践する。				
第2回	しつけ・トレーニング2	望ましくない行動、やってはいけないしつけの方法を理解し、しつけ教室の重要性に基づいた、しつけ教室のスケジュールを組み立てる。				
第3回	しつけ・トレーニング3	しつけ教室の効果的な参加タイミングと社会化トレーニングについて学び、オペラント条件付けに基づいた基本的なトレーニング法について実践する。				
第4回	日常生活に必要なしつけと 日常トレーニング1	仔犬仔猫のトイレ・トレーニング、猫の爪とぎのトレーニングについて目的と意味を知る。				
第5回	日常生活に必要なしつけと 日常トレーニング2	イヌのクレート（ハウス）・トレーニングについて学ぶ。（目的と応用） 服従訓練の目的と概要を知り、基本的な服従訓練必要性を考える力をつける。				
第6回	イヌの服従訓練 動物看護師ができるしつけ	犬に苦痛を伴わない訓練方法を理解し、動物看護師ができるしつけとその目的を知り、実践する。				
第7回	問題行動1	問題行動の定義と原因を知る。（動物行動学Ⅰの復習） 問題行動の治療、解決など（カウンセリング等）について計画が立てられるようになる。				グループワーク
第8回	問題行動2	攻撃行動に関して、刺激の分類、発現などについて学ぶことで、治療・解決計画が立てられるようになる。				グループワーク
第9回	問題行動3	恐怖や不安に関連する問題行動について、その対処を学び、治療・解決を導き出せるようになる。				グループワーク
第10回	問題行動4	恐怖や不安に関連する問題行動について、攻撃を除く行動とその対処を学び、治療・解決を導き出せるようになる。				グループワーク
第11回	問題行動5	攻撃や恐怖・不安行動以外の問題行動でみられる、不適切な排泄についてその原因と対処法を学び、治療・解決を導き出せるようになる。				グループワーク
第12回	問題行動6	他の問題行動について、その原因と対処法を学び、治療・解決を導き出せるようになる。				グループワーク
第13回	問題行動7	他の問題行動について、その原因と対処法を学び、治療・解決を導き出せるようになる。				グループワーク
第14回	授業振り返り/期末テスト	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	振り返り	行動学全体の振り返りを行う。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第2巻」 日本愛玩動物協会出版「愛玩動物飼養管理士2級」 インターズ出版「JKC最新犬種図鑑」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NEE01						
科目名	動物福祉論	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	動物福祉論	小項目	動物福祉論		
授業の概要	動物看護の実践に必要とされる動物福祉の認識から動物愛護や動物ネ葛社の発展を学び、動物関連法規やヒトの関わりから動物福祉への精神を養う。						
学習目的	動物医療現場で直面する生命倫理が説明できる 動物福祉を考慮するための基本的理念を説明できる						
到達目標	1. 獣医療倫理・動物看護倫理 ①痛み、苦痛の軽減及び生活の質(QOL)を考慮した看護の必要性を説明できる ②インフォームドコンセントの必要性を説明できる ③安楽死について説明できる 2. 動物福祉学 ①ファイブフリーダムの5つの自由を挙げることができ、その内容が説明できる ②伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物など状況に応じた動物福祉考え、実行できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	「福祉」その言葉の意味 動物福祉の歴史1	「福祉」の意味を知る。ヒトの福祉、動物の福祉とは何かを学ぶ。 西欧と日本における人と動物の関わり合いの歴史の変遷を学ぶ。					
第2回	動物福祉の歴史2 日本における動物福祉1	西欧と日本における人と動物の関わり合いの歴史の変遷について学ぶ。 日本における動物に関連する法律や規制について学ぶ。					
第3回	日本における動物福祉2 人として動物福祉を考える意味1	日本におけ右動物に関わる法律や規制について学ぶ。 動物福祉の基本的な考え方「5つの自由」について学ぶ。					
第4回	人として動物福祉を考える意味2 HABの認識1	動物福祉の基本的な考え方「5つの自由」について学ぶ。 ヒトの歴史と共に築かれてきた動物との絆について学ぶ。					
第5回	HABの認識2	ヒトと動物との絆についての国際的な働きかけについて学ぶ。					
第6回	学校飼育動物について考える 生活の質の(QOL)の認識1	学校飼育動物の必要性、飼育方法のあり方を学ぶ。 動物種による生活の質について学ぶ。					
第7回	生活の質の(QOL)の認識2 動物福祉を評価する指標 環境エンリッチメント1	動物種による生活の質について学ぶ。生活の質とはなにか。 環境エンリッチメントについて学ぶ。					
第8回	動物福祉を評価する指標 環境エンリッチメント2	環境エンリッチメントについて学ぶ。 動物福祉を考えるワーク					
第9回	動物福祉の考え方	動物看護の実践に必要とされる動物福祉の認識について学ぶ 動物福祉を考えるワーク					
第10回	伴侶動物の福祉 学校飼育動物の福祉	伴侶動物の福祉とは何かを学ぶ。 学校飼育動物に対して行うべき福祉的なこととは何かを学ぶ。					
第11回	動物病院における福祉	動物福祉と飼い主の生活スタイルも慮し、ヒトと動物の絆を大切にしたい動物病院での動物看護師の存在について学ぶ。					
第12回	産業動物の福祉	産業動物の福祉について学ぶ。					
第13回	実験動物の福祉 野生動物の福祉	実験動物の福祉とはなにかを学ぶ。 野生動物の福祉とはなにかを学ぶ。					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第1巻」						
参考書	認定看護教本						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

科目コード	NEF01						
科目名	動物飼養管理学Ⅰ	担当者	北村 昌樹	学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	動物飼養管理学	小項目	動物飼養管理学Ⅰ		
授業の概要	伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適正飼育法及び主な疾病について理解し、看護と飼主指導に活かす。						
学習目的	犬猫と比較し、その生理と生態・習性の違いから適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育を「動物飼育実習Ⅰ・Ⅱ」にて行うことができるようになる。						
到達目標	1. エキゾチックアニマル（ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、小鳥の飼養） ①ウサギの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育ができる。 ②ハムスターの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育ができる。 ③モルモットの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育ができる。 ④フェレットの生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育ができる。 ⑤小鳥の生理と生態及び主な疾患、適正飼育法を理解し、その飼育法に基づいた飼育ができる。						
農場HACCP+12:25							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	エキゾチックアニマルとはウサギの生態について	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、生態から適正飼育法を学ぶ。ウサギの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。					
第2回	ウサギの生態についてウサギの繁殖／各種検査	ウサギの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。ウサギの検査法と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。					
第3回	ウサギの主な疾病	ウサギの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。					
第4回	ウサギの保定 ハムスターの分類と特徴	ウサギの適切なハンドリング法を学び、動物病院での診察をする際の、適切な保定を学ぶ。ハムスターの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。					
第5回	ハムスターの繁殖 ハムスターの各種検査 ハムスターの主な疾病	ハムスターの検査法と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。ハムスターの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。					
第6回	ハムスターの保定 モルモットの特徴・繁殖	ハムスター・ラット・マウスの保定法・注意点を学ぶ。モルモットの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。					
第7回	モルモットの各種検査 モルモットの主な疾病	モルモットの検査法と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。					
第8回	フェレットの特徴 フェレットの繁殖 フェレットの各種検査	フェレットの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。フェレットの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。フェレットの検査法を理解し、飼育・看護に活かす。					
第9回	フェレットの主な疾病 哺乳類と鳥類の違い ペットとして飼われている種類	フェレットの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。哺乳類と鳥類の違いを理解し、鳥類の飼育・看護の注意点を知る。					
第10回	繁殖・発情行動／鳥の診察 鳥の保定	小鳥の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。小鳥の診察、身体検査（視診）の手順と保定法を理解し、飼育・看護に活かす。					
第11回	鳥の呼吸器・呼吸器疾患	小鳥の解剖学的特徴とと検査法を理解し、飼育・看護に活かす。					
第12回	鳥の消化器・各種検査 鳥の消化器疾患・強制給餌 鳥の皮膚疾患	小鳥の解剖学的特徴とと検査法を理解し、飼育・看護に活かす。					
第13回	大型インコの飼育について 猛禽類について	大型インコ類の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。猛禽類の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書2 増補改訂版」						
参考書	緑書房出版「カラーアトラス エキゾチックアニマル(哺乳類編・鳥類編)」 霍野晋吉／横須賀 誠 著、日本愛玩動物協会出版「愛玩動物飼養管理士 2級 第2巻」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー	随時						

科目コード	NEF02						
科目名	動物飼養管理学Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期	
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	人と動物の調和に関わることを学ぶ	中項目	飼養管理学	小項目	飼養管理学Ⅱ		
授業の概要	実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生に寄与する。						
学習目的	①実験動物の社会的役割と管理について理解し自分の意見が述べられる ②産業動物の管理について入手、飼育法及び食品生産の仕組みを理解し自分の意見が述べられる ③野生動物における生態系と環境保全及び外来生物について理解し自分の意見が述べられる ④展示動物の管理について入手、飼育法を理解し自分の意見が述べられる						
到達目標	1. 実験動物 ①実験動物の社会的役割と種類について、一例を挙げられる ②現行の実験動物関連法規を知り、自分の考えを持つことができる ③実験動物の3Rを暗記し記述ができる ④適切な実験のための飼育環境について理解し、具体的な問題点を見出せる ⑤適切な実験のための食事管理について理解し、具体的な問題点を見出せる 2. 産業動物 ①産業動物の社会的役割と種類について、一例を挙げられる ②現行の産業動物関連法規を知り、自分の考えを持つことができる ③安全性の高い食品生産の仕組み：HACCPとは何か答えられる ④生産性向上のための飼育環境について理解し、具体的な問題点を見出せる ⑤生産性向上のための食事管理について理解し、具体的な問題点を見出せる ⑥産業動物における主な疾患と予防法を理解し、選択問題で正しく回答できる 3. 野生動物 ①生物学上の生態系及び形態学的な差異を理解し簡単に図示できる ②野生動物の生理メカニズムを理解し、具体例を挙げられる ③野生動物関連法規（CITES、ラムサール条約）の概要を答えられる ④絶滅危惧とレッドデータ、保護活動について理解し自分の考えを述べられる ⑤外来生物による影響について理解し、具体例を挙げられる 4. 展示動物 ①動物園水族館などの社会的役割を4つ挙げられる ②現行の展示動物関連法規を知り、自分の考えを持つことができる ③適正な飼育環境と展示法について理解し、具体的な問題点を見出せる ④適正な飼育のための食事管理について理解し、具体的な問題点を見出せる ⑤適正な飼育のための主な疾患と予防法を理解し、選択問題で正しく回答できる						
授業計画							
回	主題	授業内容				備考	
第1回	実験動物①②	実験動物とは何かを知り、専門用語を習得する 医学領域における実験動物の貢献 関連法規 適正な実験動物の作出方法と理論					
第2回	実験動物③④	栄養学基礎と飼料の特徴、飼育環境の基準 代表的な実験動物の種類 マウス・ラットの検体採取方法、実験器具の紹介					
第3回	産業動物 畜産学概論	畜産とは何か					
第4回	産業動物 ウシ、ウマの特徴	ウシ・ウマの解剖学的・繁殖生理・飼育管理の特徴					
第5回	産業動物 ブタ・ニワトリの特徴	ブタ・ニワトリの解剖学的・繁殖生理・飼育管理の特徴					
第6回	産業動物 ヤギ・ヒツジなどの特用家畜の特徴	ヤギ・ヒツジの解剖学的・繁殖生理・飼育管理の特徴					
第7回	産業動物 疾病と予防 人工授精技術	家畜伝染病予防法 ウシの人工授精のメリット・デメリット、関連法規					
第8回	産業動物 HACCP	農場HACCP					
第9回	産業動物 畜産物	泌乳の生理 搾乳作業における注意事項 牛乳、肉、卵の品質と利用					
第10回	野生動物／展示動物 授業ガイダンス、動物の分類	動物に関わる職業人に求められること ヒトに関わる動物と野生動物の分類と解説					
第11回	野生動物／展示動物 外来生物法と外来生物	外来生物の定義、問題点、種類と特徴、在来種との交雑の危険性					
第12回	野生動物／展示動物 動物の生物学用語	ベルクマンの法則、アレンの法則、グロージャーの法則					
第13回	野生動物／展示動物 希少動物の保護増殖	希少動物保護関連条約、法令、レッドリスト、レッドデータブック					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要	
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書2 増補改訂版」						
参考書	インターズー出版「コンパニオン・アニマルの新健康管理学」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NFA01						
科目名	動物看護学	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門分野	(時間)	(16)			時限	
大項目	動物看護に活かす	中項目	動物看護学	小項目	動物看護学		
授業の概要	動物看護とは何か、対象は何か、職種は何かを学んだ上で動物看護過程について学習する。						
学習目的	①動物看護倫理、業務指針を理解し説明できる ②獣医療専門用語、POMRの構成、看護過程、問題思考過程を説明できる ③QOLを基本に患者動物と飼主に寄り添った看護を考えることができる						
到達目標	1. 看護学概論 ①動物看護倫理を説明できる ②動物看護における業務指針を説明できる 2. 動物の看護 ①主な獣医療専門用語を説明できる ②POMRの理念及び構成を説明できる ③看護過程の5段階を説明できる ④問題思考過程の5段階を説明できる 3. 終末期患者動物の看護 ①グリーフケアとは何かを説明できる ②ペットロス的心を理解し、対応ができるようになる ③死後の取り扱いを考えて行うことができる						
授業計画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	動物看護学概論 1	動物看護の本質や動物看護の概念が説明できる。動物看護学の基本となる概念を学ぶ。動物看護師の業務と獣医師の業務の違いを確認する。					
第2回	動物看護学概論 2	動物看護学が必要な場面とは、どんな場面なのか。そして動物看護師が活躍できるのはどんな時なのかを学ぶ。					
第3回	動物看護学概論 3	動物看護師の視点とは何かを学ぶ。					
第4回	動物の看護過程展開 1	動物の看護過程を学ぶ必要があるのかを学ぶ。					
第5回	動物の看護過程展開 2	動物の看護過程とは何か？を学ぶ。 動物の看護過程・展開を学ぶ（アセスメントと観察力）					
第6回	動物の看護過程展開 3	動物の看護過程の中の看護診断について学ぶ。					
第7回	動物の看護過程展開 4	看護計画・看護実行評価について学ぶ。					
第8回	単位認定試験／解説	授業内にて試験を行い、解説を聞き、問題の意義等を理解する。					※学生証が必要
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第1巻」						
参考書	認定看護教本						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第7回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NFB01						
科目名	臨床動物看護学Ⅰ	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	動物看護に活かす	中項目	臨床動物看護学	小項目	臨床動物看護学Ⅰ		
授業の概要	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。						
学習目標	各疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、個人情報からの分析からその症例にあった動物看護ができるようになる 主な疾患の回復に必要な事項を説明できる（内科・外科・皮膚・眼科・歯科等）						
到達目標	1. 概論 ① 個体観察や飼主情報など様々な観点からの情報収集の必要性を理解できる。 2. 各疾患の看護 ① 個体観察や飼主情報など様々な観点からの情報収集ができるようになる ② 疾患別で個体に応じた適切な看護法を実施できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	動物看護学概論 1	動物看護師とは何かを学ぶ。 (対象の理解・職業としての動物看護師・実践する上での必要な観察技術等)					
第2回	動物看護学概論 2	動物看護技術の要素とは何かを知ることにより看護技術について学ぶ。(動物看護師の要素・観察など) 動物看護技術の要素・動物看護師による飼い主教育について学ぶ。					
第3回	動物看護者の倫理綱領 1	基本的な看護精神と技術を学ぶ。 看護の実践に必要な動物福祉の精神を見直す。					
第4回	動物看護技術の基盤 動物看護の看護技術について	必要とされる特定の目的や期待を到達させるために、想いや考えを実現するための術を作り出す力、能力について学ぶ。					
第5回	動物看護技術の基盤 動物看護の観察	動物看護を遂行する動物看護師に必要な技術について学ぶ。					
第6回	動物看護技術の基盤 記録と報告	記録の重要さとそれを共有するための報告技術を学ぶ。					
第7回	症状別の動物看護 痛み 1	痛みについて。痛みのシステムと意味を学ぶ。					
第8回	症状別の動物看護 痛み 2	痛みのある動物の看護はどのようにすればよいかを学ぶ。					
第9回	症状別の動物看護 かゆみ 1	かゆみから考えられること、皮膚疾患としてのかゆみと脱毛、経過の長いであろう皮膚疾患の看護について学ぶ。					
第10回	症状別の動物看護 かゆみ 2	かゆみのある動物の看護はどのようにすればよいかを学ぶ。					
第11回	症状別の動物看護 嘔吐 1	嘔吐とは？吐出との相違について学ぶ。					
第12回	症状別の動物看護 嘔吐 2	嘔吐のある症状をもつ動物の事例を想定して看護を行い、嘔吐のある患者動物の看護はどのようにすればよいかを学ぶ。					
第13回	症状別の動物看護 排便異常	正常な排便と異常な排便について、排便異常のある事例を想定して看護を学ぶ。 排便異常のある患者動物の看護はどのようにすればよいかを学ぶ。					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第1巻・第5巻」						
参考書	認定看護教本						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NFB02					
科目名	臨床動物看護学Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期 後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日
	専門分野	(時間)	(30)			時限
大項目	動物看護に活かす	中項目	臨床動物看護学	小項目	臨床動物看護学Ⅱ	
授業の概要	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。					
学習目標	各疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、個人情報からの分析からその症例にあった動物看護ができるようになる 主な疾患の回復に必要な事項を説明できる (内科・外科・皮膚・眼科・歯科等)					
到達目標	1. 各疾患の看護 ① 個体観察や飼主情報など様々な観点からの情報収集ができるようになる ② 疾患別で個体に応じた適切な看護法を実施できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	症状別の動物看護 食欲不振 1	食欲不振がある動物の看護を実践するために必要な消化器系の解剖生理学について学ぶ。				
第2回	症状別の動物看護 食欲不振 2 多飲多尿 1	食欲不振を呈する代表的な疾患について学ぶ。 多飲多尿の症状を持つ動物の看護について学ぶ。				
第3回	症状別の動物看護 多飲多尿 2	多飲多尿に対する治療の内容を知識として持ち、治療に対する看護を実践する方法を学ぶ。				
第4回	循環機能障害を持つ動物の看護 1	循環器障害とは何かを学ぶ。(循環器機能の振り返り)				
第5回	循環機能障害を持つ動物の看護 2	循環器障害の代表的な疾病名を学ぶ。 疾病の診察と検査について学習する。				
第6回	循環機能障害を持つ動物の看護 3	循環器障害の治療や、内科的治療と外科的治療、食事療法、安静療法について学ぶ。				
第7回	循環機能障害を持つ動物の看護 4	循環器障害のある動物の看護過程展開を学ぶ。				
第8回	呼吸機能障害を持つ動物の看護 1	呼吸機能障害とは何かを学ぶ。(呼吸機能の振り返り) 呼吸機能障害の代表的な疾病名を学ぶ。				
第9回	呼吸機能障害を持つ動物の看護 2	疾病の診察と検査について学習する。 呼吸機能障害の治療や、内科的治療と外科的治療、食事療法、安静療法について学ぶ。				
第10回	呼吸機能障害を持つ動物の看護 3	呼吸機能障害のある動物の看護過程展開を学ぶ。				
第11回	栄養摂取・代謝障害を持つ動物看護 1	消化器障害とは何かを学ぶ。(振り返り)				
第12回	栄養摂取・代謝障害を持つ動物看護 2	消化器障害の代表的な疾病名を学ぶ。 疾病の診察と検査について学習する。				
第13回	栄養摂取・代謝障害を持つ動物看護 3	消化器障害の治療について学習する。 消化器障害のある動物の看護過程展開を学ぶ。				
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第5巻」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NFB03					
科目名	臨床動物看護学Ⅲ	担当者		学科	動物看護科	開講期 後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日
	専門分野	(時間)	(30)			時限
大項目	動物看護に活かす	中項目	臨床動物看護学	小項目	臨床動物看護学Ⅲ	
授業の概要	チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。					
学習目的	各疾病の特徴と急性、慢性などの経緯、個体情報の分析からその症例にあった動物看護ができるようになる 主な疾患の回復に必要な事項を説明できる(内科・外科・皮膚・眼科・歯科等)					
到達目標	1. 各疾患の看護 ①個体観察や飼主情報など様々な観点からの情報収集ができるようになる ②疾患別で個体に応じた適切な看護法を実施できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	生体防御機能障害を持つ動物の看護 1	生体防御機能障害とは何かを知るために、生体防御の生理を理解し、関連する臓器・組織の解剖生理・病名等を振り返る。				
第2回	生体防御機能障害を持つ動物の看護 2	免疫機能不全の獣医師による診断と、検査についての知識を学ぶ。 また、生体防御機能障害を伴う看護動物を観察するのに必要な事項について確認し情報収集の方法を修得する。				
第3回	生体防御機能障害を持つ動物の看護 3 神経・運動機能障害を持つ動物の看護 1	看護動物について情報を収集し、アセスメントを開始し動物看護過程の展開を実施する。 神経・運動機能障害のある動物の看護についてその症状、病態生理を学び、疾患を理解する。				
第4回	神経・運動機能障害を持つ動物の看護 2	症状を知った上で今後の動物看護に活かせるようにする。 運動機能障害のメカニズムについて学ぶ。 運動機能障害のアセスメントをし動物看護過程の展開をする。				
第5回	繁殖機能障害を持つ動物の看護 1	繁殖機能障害を持つ動物の看護について学ぶ 雌と雄の繁殖障害について学習する。				
第6回	繁殖機能障害を持つ動物の看護 2	繁殖障害と関連のある疾患と症状について学ぶ。 繁殖障害のある動物の観察について学ぶ。				
第7回	排泄機能障害を持つ動物の看護 1	排泄機能障害とは何かを知る。 排泄障害の診断と検査の流れについて学ぶ。				
第8回	排泄機能障害を持つ動物の看護 2	排泄機能障害に対する治療について学ぶ。 各疾患の症状と治療について知識を得る。 排泄におけるアセスメントから看護介入について学ぶ。				
第9回	担当動物の看護 1	がんについて基礎知識、診断方法、治療方法についてを学ぶ。				
第10回	担当動物の看護 2	がん動物の栄養管理と看護について学ぶ。 様々ながん治療を継続する動物の看護について学ぶ。				
第11回	高齢動物の看護	加齢に伴う変化を知り、高齢動物とは何かを学ぶ。 高齢動物に最適な生活環境について学び、看護に活かす。				
第12回	経過に基づく動物の看護	急性期、慢性期にある動物の状態について知り、必要な看護について知識を持つ。 急性期、回復期。回復期に身体機能に障害がある場合について、その後の終末期について知る。				
第13回	周術期の動物看護	術前、術中、術後の動物看護の役割と必要な動物看護について学ぶ。 周術期にある動物の生活状況の把握と、必要な動物看護について学ぶ。				
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第5巻」					
参考書	認定看護教本					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NFC01					
科目名	動物入院管理	担当者		学科	動物看護科	開講期 後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日
	専門分野	(時間)	(30)			時限
大項目	動物看護に活かす	中項目	動物入院管理	小項目	動物入院管理	
授業の概要	入院している看護動物の病状について理解と動物の情報を把握し、入院生活が極カストレスにならないように管理する基本的なケアを学ぶ。また、ペットホテルなど健康な動物を預かる際の注意点についても学び、適切なケアができるように学習する。					
学習目的	①論理的思考に基づいた看護力を身につけ、看護過程を考え、看護計画の立案ができる ②看護過程と看護記録を記録することができる ③疾病と症状による特異的な処置、入院管理を考え、看護記録の立案ができる					
到達目標	1. 看護ケア、看護計画 ①看護目標が設定できる ②看護計画及びケア計画が立案できる ③指導計画が立案できる ④看護記録が記録することができる 2. 看護記録 ①SOAPに基づく看護記録法を説明できる ②看護評価をすることができる 3. 治療、処置別による看護 ①伝染性疾患の患者動物の状態を理解し、適切が入院管理を考え、看護計画を立案できる ②ICU患者動物の状態を理解し、適切が入院管理を考え、看護計画を立案できる ③疼痛を生じる患者動物の状態を理解し、適切が入院管理を考え、看護計画を立案できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	看護過程 動物看護計画 1	これから入院動物の看護について学ぶ前に看護の目的を達成するための考え方（動物看護過程）を学ぶ。看護計画について学ぶ。（看護実践で記録する、看護記録について学ぶ）				
第2回	動物看護計画 2 動物看護記録 1	看護計画について学ぶ。（基本情報アセスメントの記載について学ぶ。） 動物看護記録の取り方、表記方法を学ぶ。				
第3回	動物看護記録 2 入院動物の看護と注意事項	動物看護記録の取り方、表記方法を学ぶ。 入院の手順と入院管理について具体的に学ぶ。				
第4回	入院動物の看護 看護動物の受入れ 入院環境の確認	看護動物の受け入れる前の準備から受入れ時の注意までを学ぶ。 看護動物の状態に応じた入院環境の工夫を考える。				
第5回	入院動物の看護 入院動物の観察ポイント ケージの衛生管理	入院動物管理で特に重要な看護動物の観察項目について学ぶ。 入院ケージ衛生管理について学ぶ。				
第6回	入院動物の看護 入院動物を扱う際の注意点 食事管理①	入院動物を扱う際の注意点について学ぶ。 入院動物の食餌管理について学ぶ。				
第7回	入院動物の看護 食事管理② 運動と散歩 動けない動物のケア	入院動物にとっての命綱である食事管理について、看護動物の状態に応じた看護援助について学ぶ。 入院中の運重症散歩、動けない動物のケアについて学ぶ。				
第8回	入院動物の看護 輸液管理 1	輸液の目的と輸液剤の種類について学ぶ。 輸液剤の準備と輸液量の決定について学ぶ。				
第9回	入院動物の看護 輸液管理 2	輸液に使用する器具を復習し、輸液を開始するまでの手順を確認する。 輸液虫の管理について学ぶ。				
第10回	入院動物の看護 退院するとき 主な疾患の入院管理 伝染性疾患 1	退院するときに行うことについて学ぶ。 伝染性疾患（感染症）の動物の入院管理に必要な基礎知識を確認する。				
第11回	主な疾患の入院管理 伝染性疾患 2	伝染性疾患（感染症）の動物の入院管理について、具体的なケースから学ぶ。 （アセスメントから看護計画まで）				
第12回	主な疾患の入院管理 伝染性疾患 3 重傷動物（ICU患者） 1	伝染性疾患（感染症）の動物の入院管理について、具体的なケースから学ぶ。（看護実践から看護評価まで） 重症動物が示す症状に対する看護を学ぶ。				
第13回	主な疾患の入院管理 重傷動物（ICU患者） 2 痛みのある動物 1	危険状態にある看護動物の苦痛と緩和を図るための入院管理を学ぶ。 動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。				
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第4巻」					
参考書	インターズー出版「専門分野 動物臨床検査学」全国動物保険看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護協会 監修					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NFD01						
科目名	幼齢動物・老齢動物管理	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	動物看護に活かす	中項目	幼齢動物・老齢動物管理	小項目	幼齢動物・老齢動物管理		
授業の概要	主に犬猫の新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かす。また老齢動物の管理、介護を理解し飼主に寄り添った在宅看護に活かす。						
学習目的	①人工哺育の見極めとその方法及び幼齢動物の管理法を飼主指導ができる ②老齢動物の管理法、介護法を理解し飼主指導ができる						
到達目標	1. 哺育 ①初乳の必要性を説明できる ②人工哺乳ができるようになる ③適切な飼育環境について説明できる ④排泄の補助ができる ⑤幼齢動物の成長過程及びバイタルサインを確認できる ⑥幼齢動物の主な疾患と予防を説明できる 2. 在宅、訪問管理 ①老齢期の身体的変化を説明できる ②適切な飼育環境について説明できる ③慢性疾患、褥瘡及び不可逆的な症状について説明できる ④認知障害の特徴を説明できる ⑤補助、介護の必要性と介護グッズを説明・紹介できる ⑥老齢動物の主な疾患と予防を説明できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	幼齢動物の管理 新生子のケア1	出産後、母親が子イヌ・子ネコの面倒を見ることができない場合にヒトの手で行う新生子のケアについて学ぶ。(気道確保・臍帯処置・授乳(人工哺乳))					
第2回	幼齢動物の管理 新生子のケア2	出産後、母親が子イヌ・子ネコの面倒を見ることができない場合にヒトの手で行う新生子のケアについて学ぶ。(温度管理・排泄補助)					
第3回	幼齢動物の管理 成長過程 健康チェック	生後から約3カ月までの成長過程における身体や行動の特徴を学ぶ。 幼齢動物の全身を観察し、健康チェックのポイントを学ぶ。					
第4回	幼齢動物の管理 主な疾患とその予防 重傷の子犬や子猫に対する管理	幼齢動物の症状からどのような疾患が考えられるかを学ぶ。 重傷の子イヌ、子ネコに対して行う処置や看護について学ぶ。					
第5回	老齢動物の管理 老齢期の身体的変化	老化の正体を知る。 老化による体内変化について学ぶ。					
第6回	老齢動物の管理 老齢期の適切な飼育環境 老齢期の日常生活における介護1	老齢期の適度な飼育環境について学ぶ。 老齢犬の散歩の効果や介護法について学ぶ。また散歩の際に使用できる介護グッズを知る。					
第7回	老齢動物の管理 老齢期の日常生活における介護2	老齢犬の食餌について学ぶ。また、食事の際に使用できる介護グッズを知る。 老齢猫の介護、特にネコ特有の飼育環境の工夫について学ぶ。					
第8回	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患1	老齢動物の生活機能障害について学ぶ。 老齢動物の運動器疾患について、主にその看護援助について学ぶ。					
第9回	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患2	老齢動物の排泄の調節障害について、主に症状について学ぶ。 起立が困難な老齢動物の特徴、特に褥瘡と看護援助について学ぶ。					
第10回	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患3	老齢犬・猫の認知症について、概要、症状、対策について学ぶ。					
第11回	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防1	老齢動物に多い関節疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。					
第12回	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防2	老齢動物に多い内分泌疾患と、老齢犬に多い眼科疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。					
第13回	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防3	老齢動物に多い腫瘍や生殖器疾患と、老齢犬に多い泌尿器疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。					
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第4巻」						
参考書	インターズー出版「コル・コン・ア・マの健康管理学」 浅野妃美・浅野隆司著、誠文堂新光社「愛犬の繁殖と育児百科」、誠文堂新光社「猫の繁殖と育児百科」 インターズー出版「専門分野 臨床動物看護学各論」全国動物保健看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集、インターズー出版「犬と猫の老齢介護エキスパートブック」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

科目コード	NGA01					
科目名	動物臨床検査学	担当者		学科	動物看護科	開講期 後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日
	専門分野	(時間)	(30)			時限
大項目	基礎で修得した知識の応用	中項目	動物臨床検査学	小項目	動物臨床検査学	
授業の概要	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす					
学習目的	1. 検体検査の主な種類と検査の意義を理解して検査を行うことができる 2. 生体検査の主な種類と意義、生体に及ぼす影響を理解して検査を行うことができる					
到達目標	1. 検体検査 ①糞便検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ②尿検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ③血液検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ④その他(細胞)検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる 2. 生体検査 ①エックス線の生物作用と防護について理解し、エックス線から身を守ることができる ②エックス線の発生機序を理解し、正確に検査を行うことができる ③レントゲン撮影で用いられる単位について理解し、その単位を使い分けて説明できる ④超音波の基本原理について理解し、適切な保定を行うことができる ⑤心電図の基本原理について理解し、適切な保定や正確に検査を行うことができる ⑥内視鏡の基本原理について理解し、適応症例を2つ以上挙げる ⑦CT・MRIの基本原理について理解し、違いを説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	動物臨床検査学 臨床検査の種類	臨床検査とは何か。その目的と動物病院における動物看護師の役割について学ぶ。 動物看護師が関わる臨床検査の種類(検体検査、生体検査)にはどのようなものがあるのかを学ぶ。				
第2回	主要な検査機器 解剖学・看護学との関連性	検査機器・器具の名称と用途について学ぶ。 臨床検査と解剖学・看護学との関連性について考える。				
第3回	生理学・看護学との関連性	各臨床検査の生理学意味を知り、動物の看護に活用できるように関連性を考える 泌尿器系の働きと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ				
第4回	尿検査	尿生成の仕組み、泌尿器系の働き 各種採尿法、物理的・科学性状検査、正常尿と異常尿				
第5回	糞便検査	消化器系の働き、消化器疾患、内部寄生虫 各種採便法、正常便と異常便				
第6回	血液検査概論	循環器系の働き、循環器疾患、血液成分				
第7回	血液検査① 採血法	採血法の選択、保定				
第8回	血液検査② 取り扱い 検査項目	血液検査項目、抗凝固剤の選択				
第9回	血液検査③ CBC、生化学	検査の目的と意義				
第10回	血液検査④ CBC、生化学	正常値と異常値				
第11回	血液検査⑤ 塗抹標本の作成	標本作成の手技・染色法・観察法				
第12回	眼科検査概論	眼の解剖生理、眼科疾患				
第13回	眼科検査手技	器具の名称、使用目的、手技				
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第5巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト」					
参考書	インターズー出版「専門分野 動物臨床検査学」全国動物保険看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

科目コード	NGB01						
科目名	救急救命対応	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門分野	(時間)	(16)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の応用	中項目	救急救命対応	小項目	救急救命対応		
授業の概要	<外部授業> エマージェンシーの見極めとトリアージを理解し救急救命に活かす。						
学習目的	・ペットファーストエイド資格取得 ①エマージェンシー時のバイタルサイン確認及び救命法（CPR）を正確に行うことができる ②不慮の事故などによる緊急に対処が必要な疾患を見極め、それに応じた応急処置を行うことができる						
到達目標	1. エマージェンシー ①エマージェンシー時のバイタルサインを確認できる ②トリアージの判定基準を理解し、判定できる ③CPR法をすばやく正確に行うことができる 2. 救急救命疾患 ①中毒症状について説明ができ、それに応じた応急処置を行うことができる ②誤飲誤食について説明ができ、それに応じた応急処置を行うことができる ③外傷について説明ができ、それに応じた応急処置を行うことができる ④熱中症について説明ができ、それに応じた応急処置を行うことができる ⑤溺水について説明ができ、それに応じた応急処置を行うことができる ⑥感電について説明ができ、それに応じた応急処置を行うことができる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	動物モニター 心肺停止（CPA）と 心肺蘇生	救急救命処置が必要であるかどうか評価をする技術についてモニタリングを行う。 救急救命時の救急救命処置の方法を学ぶ。					
第2回	救急薬品の知識 救急時の輸液療法	救急救命処置時に使用される薬剤について学ぶ。 救急時の輸液療法について学ぶ。					
第3回	輸液製剤 輸血	救急時に使用する輸液製剤について学ぶ。 輸液について学ぶ。					
第4回	救急疾患の基礎知識 1	外傷・眼科エマージェンシー					
第5回	救急疾患の基礎知識 2	神経・中毒エマージェンシー					
第6回	救急疾患の基礎知識 3	熱射病・呼吸エマージェンシー					
第7回	救急疾患の基礎知識 4	心血管・ショックエマージェンシー					
第8回	救急疾患の基礎知識 5 まとめ 単位認定試験	まとめ・試験／解説					
教科書	国際救命救急協会指定教本（開講時配布）、緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第6巻」						
参考書							
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第7回目の授業にて告知						
履修の ポイント オフィス ・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NGC01					
科目名	クライアントエデュケーション	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目 専門分野	単位 (時間)	1 (30)	学年	2年	曜日 時限
大項目	基礎で修得した知識の応用	中項目	クライアントエデュケーション	小項目	クライアントエデュケーション	
授業の概要	看護動物の福祉は飼い主に大きく依存され、正しい知識と理解がないと、治療や処置を必要としている看護動物に適切な処置がなされず、治療されないまま、又は適切な処置がされないまま放置されることを理解し、飼い主のコンプライアンスを高める。					
学習目的	今まで学習した専門知識を活用し、要点をまとめ、啓蒙と個別に応じた飼主指導ができる。					
到達目標	疾病予防、健康管理、衛生管理指導 ①疾病予防について、不妊手術、予防薬、ワクチン及び定期健診の必要性を説明できる ②しつけ、日常の健康チェック、歯科疾患予防の必要性を説明できる ③人獣共通感染症の予防についてその必要性を説明できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	クライアントエデュケーション	クライアントエデュケーションとは何か、クライアントが求める8つを学ぶ。クライアントエデュケーション対象を知る。(飼い主分析)				
第2回	飼い主が行う健康管理	家庭で行われる健康管理を学ぶ。				
第3回	クライアントエデュケーションの実践1(狂犬病予防接種)	狂犬病予防接種についての知識の確認を行い、指導ができるようになる。				
第4回	クライアントエデュケーションの実践2(混合ワクチン接種)	混合ワクチン接種についての知識の確認を行い、指導ができるようになる。(犬)				
第5回	クライアントエデュケーションの実践3(混合ワクチン接種)	混合ワクチン接種についての知識の確認を行い、指導ができるようになる。(猫)				
第6回	クライアントエデュケーションの実践4(フィラリア)	フィラリアの予防についての飼い主指導が、3分間で説明できるようになる。				
第7回	クライアントエデュケーションの実践5(ノミ・ダニ)	ノミ・ダニの予防についての飼い主指導が、3分間で説明できるようになる。				
第8回	クライアントエデュケーションの実践6(不妊手術)	避妊手術・去勢手術の説明・飼い主指導が、3分間で説明できるようになる。				
第9回	クライアントエデュケーションの実践7(デンタルケア)	デンタルケアについての飼い主指導が、3分間で説明できるようになる。				
第10回	クライアントエデュケーションの実践8(減量指導)	減量指導について指導ができるようになる。				
第11回	前期試験についての諸注意 演習試験原稿・資料作成①	前期試験(演習試験・筆記試験)の説明 演習試験に使用する原稿・資料を作成する。				
第12回	演習試験原稿・資料作成②	演習試験に使用する原稿・資料を作成する。				
第13回	演習試験	順番に担当教員の前で、題目の演習を行う。				
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第2～4巻」					
参考書						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上		単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。 (単位認定試験=演習試験30%・筆記試験70%)			
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー	随時					

平成30年度 シラバス

科目コード	NGD01						
科目名	院内コミュニケーション I	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	基礎で習得した知識の応用	中項目	院内コミュニケーション	小項目	院内コミュニケーション1		
授業の概要	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話応対を身につける。						
学習目的	動物診療現場における受付で発生する飼主対応、接遇をすることができる。						
到達目標	1. 受付、クライアントコミュニケーション ①初診及び再診時など状況に応じた飼主対応ができる ②社会人として確実な電話対応及び適切な取次ができる ③精算、会計業務が正確にできる ④在庫管理や備品管理、顧客管理ができる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	接遇とホスピタリティ	・信頼される社会人—身だしなみの重要性 ・TPOに応じた言動					
第2回	飼い主のお迎え①②	ペアワークによる受付対応の練習—病院の顔であることを意識					
第3回	飼い主のお迎え③④						
第4回	実技試験前のグループワーク①②	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング					
第5回	実技試験前のグループワーク③						
第6回	実技試験 ～飼い主のお迎え①②～	再診・初診の診察受付実技発表と他人の評価					
第7回	・実技試験の振り返り ～飼い主のお迎え③～ ・診察室への案内①②	・実技試験の評価、要改善点の洗い出し ・滑舌練習、敬語表現の発話					
第8回	薬の説明①②	薬の説明業務にかかる責任を理解した上で説明業務を練習					
第9回	薬の説明③④	相手が理解できる、相手に合わせた説明の反復練習					
第10回	清算業務①②	清算業務の基礎					
第11回	清算業務③④	迅速かつ丁寧な清算業務					
第12回	実技試験前のグループワーク①②③	チームコミュニケーション					
第13回	質問と傾聴②③ ～主訴：その①②～	飼い主様を中心とし、カスタマイズした質問・説明の練習					
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要	
第15回	テスト返却／解説	テスト問題の直し					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第1巻」						
参考書	インターズー出版「ホスピタリティを伝える動物病院の接遇」 坂上 緑 著 インターズー出版「動物病院のためのクレーム対応のマインド&スキル」 田中理映 著						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第13回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NGD02					
科目名	院内コミュニケーションⅡ	担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	必修科目 専門分野	単位 (時間)	1 (30)	学年	2年	曜日 時限
大項目	基礎で修得した知識の応用	中項目	院内コミュニケーション	小項目	院内コミュニケーションⅡ、Ⅲ	
授業の概要	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話応対を身につける。					
学習目的	動物診療現場におけるクライアントやスタッフとの状況に応じたコミュニケーションを取ることができる。					
到達目標	1. スタッフコミュニケーション ①状況に応じた身だしなみができる ②状況に応じた表情、行動(態度)ができる ③状況に応じた挨拶、会話ができる ④状況に応じて報告・連絡・相談が確実にできる ⑤チームワークに寄与できる					
授 業 計 画						
回	主 題	授 業 内 容				備 考
第1回	不快感情の飼い主対応	歩み寄り対応、初動対応の発話				
第2回	実技試験前のグループワーク①②③	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング				
第3回	実技試験 演目選択①②③	外部対応、緊急時の対応、不快感情の飼い主対応の各シチュエーションから演目を選択し、自由設定で発表				
第4回	訪問と対応のマナー①②	ビジネスマナーの基本—名刺交換、席次、ペアワーク				
第5回	訪問と対応のマナー③④	ビジネスマナーの基本—応接室への案内、給茶				
第6回	深刻な場合での対応 ～計報時、診察時、面会時～	電話対応、お掃りの際の対応、獣医師への取次ぎ、入院室への出入り、声かけ				
第7回	飼い主のお迎え(展開)①②③	初診問診表・同意書の記入に関する諸問題への対応 病院の書式に合わせた記入案内 相手(の身体状況)に合わせた記入案内				
第8回	薬の説明(展開)①②	分包数の多い内服薬をスムーズに説明する 相手が理解できる説明(外用薬)				
第9回	待合室管理①②	カウンターワークの考え方、薬の説明・清算業務復習 待合室管理を意識した診察室への案内復習				
第10回	電話対応(展開)①②	ベーシックな電話対応復習、相手の質問への対応 ペアワーク：電話でのフードの注文を受ける				
第11回	電話対応(展開)③④⑤	道案内、初診飼い主からの問い合わせ ペアワーク：以前処方投薬許可の確認 音声スキルの上昇、グループワーク：精算中にかかってきた電話の応対来院を促す電話対応				
第12回	人間心理を知る①②	顧客とは～様々なケースでの顧客心理を考える 不快感情の飼い主様対応(復習と展開)				
第13回	人間心理を知る③	相手の思考の特徴パターンを知る				
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※学生証が必要
第15回	テスト返却/解説	テスト問題の直し				
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第1巻」					
参考書	インターズー出版「ホスピタリティを伝える動物病院の接遇」 坂上緑 著 インターズー出版「動物病院のためのクレーム対応のマインド&スキル」 田中理咲 著					
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。					
試験範囲	第13回目の授業にて告知					
履修のポイント						
オフィス・アワー						

平成30年度 シラバス

科目コード	NGD03						
科目名	院内コミュニケーションⅢ	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門分野	(時間)	(16)			時限	
大項目	基礎で習得した知識の応用	中項目	院内コミュニケーション	小項目	院内コミュニケーションⅡ		
授業の概要	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話応対を身につける。						
学習目的	動物診療現場におけるクライアント、スタッフとの状況に応じたコミュニケーションを取ることができる。						
到達目標	1. スタッフコミュニケーション ①状況に応じた身だしなみができる ②状況に応じた表情、行動(態度)ができる ③状況に応じた挨拶、会話ができる ④状況に応じて報告・連絡・相談が確実にできる ⑤チームワークに寄与できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	電話応対①②	<ul style="list-style-type: none"> 滑舌、表現、言葉遣い、会話しながら内容のメモを取る。 音声表現スキルの向上、信頼につながる応対を学ぶ。 					
第2回	電話応対③④	<ul style="list-style-type: none"> 電話内の会話をマスターし、行動が伴えるようにする。 電話対応中における様々なシチュエーション対応を学ぶ。 					
第3回	実技試験前のグループワーク①②③	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング					
第4回	実技試験 ～電話応対①②～	電話応対実技発表と他人の評価					
第5回	実技試験の振り返り ～電話応対③～	実技発表の評価・要改善点の洗い出し					
第6回	外部応対①②③④ 緊急時の応対①②	受付、名刺交換、取次ぎ業務、丁寧なお断りの対応、取引先の方とのカウンター実習 緊急時の電話の受け方					
第7回	試験	取引先の方とのカウンター実習					
第8回	テスト返却/解説	テスト問題の直し				※学生証が必要	
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第1巻」						
参考書	インターズ出版「ホスピタリティを伝える動物病院の接遇」 坂上緑 著 インターズ出版「動物病院のためのクレーム対応のマインド&スキル」 田中理咲 著						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第7回目の授業にて告知						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NHA01						
科目名	動物飼育実習 I	担当者	北村 昌樹	学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1※	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(30)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物飼育実習 I	小項目	動物飼育実習 I-①		
授業の概要	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。						
学習目的	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、各動物の飼育の仕方などを説明できるようになる。						
到達目標	1. コンパニオンアニマルの適切な飼育法 ①排泄物の正常と異常を見分けることができる。 ②動物種、個体別による歩様、食事様式を説明できる。 ③動物種、性別による基本的動作、特徴を見極めることができる。 ④ケージの衛生管理、食事の管理ができる。 ⑤個体別による適切なハンドリングができる。						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	飼育当番について 飼育動物の紹介	本校における飼育当番のしくみを理解し、飼育に臨む。 本校にどのような動物がいるかを把握する。					
第2回	猫の飼育	猫の正常排泄や性別の特徴、飼育におけるの準備物を理解する。					
第3回	ウサギの飼育	ウサギの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理・の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第4回	ハムスターの飼育	ハムスターの種類とその特徴や飼育に必要な用具・日常管理・栄養管理・環境整備を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第5回	モルモットの飼育	モルモットの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理・の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第6回	フェレットの飼育	フレットの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理・の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第7回	ハリネズミの飼育	ハリネズミの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第8回	ハリネズミに起こりやすい疾病 チンチラの飼育①	ハリネズミに起こりやすい疾病を説明できるようになる。 チンチラの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第9回	チンチラの飼育② チンチラに起こりやすい疾病	チンチラの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。 チンチラに起こりやすい疾病を説明できるようになる。					
第10回	セキセイインコの飼育	セキセイインコの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理・の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第11回	セキセイインコの飼育	セキセイインコの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理・の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。					
第12回	試験の説明・準備	今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る。					試験はグループで行うため、グループに分かれ、準備をする。
第13回	試験準備						
第14回	試験準備						
第15回	前期末試験 (発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う。					
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	緑書房出版「カラーアトラス エキゾチックアニマル(哺乳類編・鳥類編)」 霍野晋吉/横須賀 誠 著、日本愛玩動物協会出版「愛玩動物飼養管理士 2級 第2巻」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し総合評価とする。 (ドッグトレーニングの評価と合わせて評価を行う)						
試験範囲	第12回目の授業にて告知						
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。※動物飼育実習 I は飼育とドッグトレーニングの2つを受講して1単位とする。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NHA01						
科目名	動物飼育実習 I	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1※	学年	1年	曜日	
	専門基礎分野	(時間)	(16)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物飼育実習 I	小項目	動物飼育実習 I-②		
授業の概要	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。						
学習目的	ドッグトレーニングに使用されるご褒美やしつけ道具を適切に使い分け、犬に対して基本的な訓練を行うことができる						
到達目標	1. ドッグトレーニング ①アイコンタクト、オスワリ、マテ、フセなどの基本的な訓練ができる ②適切なタイミングで適切なご褒美を与えることができる ③しつけグッズの種類と特徴を理解した上で、適切に使い分けられる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	飼育とは 犬について 1	飼育とは何かを理解する。 犬種の訓練特徴を知り、今後の実践トレーニングに役立てる。					
第2回	犬について 2	犬の飼育や訓練に必要な用具について学び、今後の実践トレーニングに役立てる。 訓練を中心とした犬の環境整備・衛生管理・栄養管理の必要性と方法を理解することで、しつけ教室等で必要な知識を飼い主様に提供・説明できるようになる。					
第3回	トレーニング 1	犬の基本的なトレーニング、アイコンタクトを始め行動を理解し、実践する。 効果的な褒め方とご褒美のタイミングを実践し行動できるようになる。					実習
第4回	トレーニング 2	犬の基本的なトレーニング、アイコンタクトを始め行動を理解し、実践する。 効果的な褒め方とご褒美のタイミングを実践し行動できるようになる。					実習
第5回	トレーニング 3	犬の基本的なトレーニング、アイコンタクトを始め行動を理解し、実践する。 効果的な褒め方とご褒美のタイミングを実践し行動できるようになる。					実習
第6回	トレーニング 4	犬の基本的なトレーニングが、自身で行動でき、人に伝えることができるようになる。 (オスワリ、マテ、フセのコマンドを使い分けられる)					実習
第7回	トレーニング 5	犬の基本的なトレーニングが、自身で行動でき、人に伝えることができるようになる。 (オスワリ、マテ、フセのコマンドを使い分けられる)					実習
第8回	実技試験／講評	実技試験					実習
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	認定看護教本						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し総合評価とする。(飼育の評価と合わせて)						
試験範囲	第7回目の授業にて告知						
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。※動物飼育実習 Iは飼育とドッグトレーニングの2つを受講して1単位とする。						
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NHA02		科目名	動物飼育実習Ⅱ-①	担当者	北村 昌樹	学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日		時限		
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物飼育実習Ⅱ	小項目	動物飼育実習Ⅱ-①					
授業の概要	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。									
学習目的	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。									
到達目標	1. 動物飼育に関する技術の実践と応用 ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに飼育が行える。 ②正常と異常を鑑別し、的確に報告できる ③動物の健康維持、精神衛生維持ができる									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容							備 考	
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認。							講義	
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認。								
第3回	協働で質の高い飼育を目指す 1	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。								
第4回	協働で質の高い飼育を目指す 2	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。								
第5回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す 1	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。								
第6回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す 2	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第7回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第8回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第9回	チームを意識した高い飼育を目指す 1	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第10回	チームを意識した高い飼育を目指す 2	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第11回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 1	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第12回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 2	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第13回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第14回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。								
第15回	飼育実技試験	グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる。 飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる。								
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」									
参考書	認定看護教本									
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。									
試験範囲	第14回目の授業にて告知									
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。									
オフィス・アワー	随時									

平成30年度 シラバス

科目 コード	NHA03						
科目名	動物飼育実習Ⅱ-②	担当者	北村 昌樹	学科	動物看護科	開講期	通期
区分	必修科目	単位	2	学年	2年	曜日	
	専門分野	(時間)	(60)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物飼育実習Ⅱ	小項目	動物飼育実習Ⅱ-②		
授業の概要	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。						
学習目的	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。						
到達目標	1. 動物飼育に関する技術の実践と応用 ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに飼育が行える。 ②正常と異常を鑑別し、的確に報告できる ③動物の健康維持、精神衛生維持ができる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。					
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回	観察力アップから質の高い飼育を目指す						
第7回							
第8回							
第9回							
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す						
第11回							
第12回							
第13回							
第14回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す						
第15回							
第16回							
第17回							
第18回							
第19回							
第20回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す						
第21回							
第22回							
第23回							
第24回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す						
第25回							
第26回							
第27回							
第28回	学年末試験①	2チームに分かれ、前半組が実習試験。後半組は筆記試験を行う。	※飼育動物の頭数・ストレスを考え、学年末試験は2回に分けて行う。※学生証が必要				
第29回	学年末試験②	前回のチームで、後半組が実習試験。前半組は筆記試験を行う。					
第30回	飼育実習の総括	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。					
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	認定看護教本						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第27回目の授業にて告知						
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NHB01						
科目名	動物看護実習Ⅰ-①	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門分野	(時間)	(46)			時間	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物看護実習Ⅰ	小項目	動物看護実習Ⅰ-①		
授業の概要	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。						
学習目的	①犬猫の扱いを知り、基本的な保定と身体検査が正しく行えるようになる ②輸液の適切な接続及び操作ができるようになる ③シリンジの正しい扱いができ、注射法の目的と違いが説明できる ④汚染を防ぐ入院動物の扱い方及び入院舎の清掃ができる ⑤処方箋に従った薬剤の準備及び適切な薬剤の取り扱うことができるようになる						
到達目標	1. 診療補助（保定、バイタルチェック） ①犬猫の基本的な保定法の違いを知り処置と畜体に合った保定ができる ②バイタルチェックと身体検査が適切にできる ③バイタルチェックを含む身体検査時の正常と異常の違いを知り報告できる 2. 輸液管理 ①正しく無菌的に輸液ラインを接続できる ②輸液スピードを設定できる ③輸液中の動物観察と投与量の確認ができる 3. シリンジの扱い ①正しく無菌的にシリンジを扱い定められた薬液量を準備できる ②注射法に応じたシリンジの準備ができる 4. 衛生管理・入院管理 ①感染源を理解し、不潔と清潔の区別を徹底できる ②安全な入院環境を保つことができる 5. 調剤 ①処方箋と調剤用語を理解できる ②薬剤の形状・標記を理解できる ③衛生的で安全な薬剤の取り扱いができる ④正確に薬用量の件、調剤、分包ができる ⑤薬袋の記入ができる ⑥薬剤の使用法の説明ができる						
授業計画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	動物看護 概論 目的・意義 準備・心構え	動物看護概論について理解し、動物看護の意義・目的について学ぶ 動物看護のための準備・心構えについて学ぶ					
第2回	解剖生理学 筋・骨格/器官（臓器）	解剖生理学の基礎を理解する 筋・骨格/器官（臓器）の名称と構成、位置関係を学ぶ					
第3回	衛生管理・入院管理 1 概論・感染源の理解	衛生管理・入院管理概論について理解する 感染源の理解について学ぶ					
第4回	衛生管理・入院管理 2	入院環境について理解する 衛生管理・入院管理の確認					
第5回	診療補助 1 犬・猫の保定法	イヌネコの扱いを知り、基本的な保定法と身体検査法を身につける					
第6回	診療補助 保定法（応用①）	採血時や処置時の保定法を身につける					
第7回	診療補助 2 バイタルチェック・身体検査 生体の正常・異常	バイタルチェック・身体検査の方法を習得する バイタルチェックを含む身体検査時の正常と異常の違いを知り、報告できる					
第8回	輸液管理 1 概論	輸液管理 概論について学ぶ 血管確保や輸液ラインの接続・設定の仕方を習得する					
第9回	輸液管理 2 輸液ライン接続実習	血管確保や輸液ラインの接続・設定の仕方を習得する					
第10回	輸液管理 3	観察・投与量の確認の習得 輸液管理の確認					
第11回	シリンジ注射針の扱い 1 概論・薬剤の準備・無菌操作	シリンジと注射針の取り扱いについて 準備と無菌操作					
第12回	シリンジ注射針の扱い 2 準備・確認	注射の目的に応じたシリンジの準備 シリンジ・注射針の取り扱い確認					
第13回	シリンジ注射針の扱い 3 実習	前回学んだシリンジと注射針の取り扱い・準備の方法を体得する。					
第14回	調剤 1 概論・処方箋・調剤用語	調剤 概論について理解する 処方箋・調剤用語について理解できる					
第15回	調剤 2 形状・標記・取り扱い 薬用量の計算・調剤・分包・薬袋	形状・標記・取り扱いについて理解する 薬用量の計算・調剤・分包・薬袋について学ぶ					
第16回	調剤 3 手分包と分包機	手分包と分包機の手技を学び、体得する。					
第17回	調剤 5 薬剤の使用法 確認	薬剤の使用法について飼主様に説明ができるようになる。					
第18回	創傷管理 1	創傷の種類と管理について学ぶ					
第19回	創傷管理 2	腹帯の装着・作成ができるようになる。					
第20回	電法/吸引	電法の分類と手技について学ぶ 吸引器の使用法と効果について学ぶ					
第21回	カルテ用語・記入法	カルテに記載される用語を知り、実際に記入できるようにする。					
第22回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。					※学生証が必要
第23回	テスト返却/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	インターズー出版「専門分野 基礎動物看護技術」全国動物看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第21回目の授業にて告知						
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。						
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NHB02						
科目名	動物看護実習Ⅰ-②	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門分野	(時間)	(46)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物看護実習Ⅰ	小項目	動物看護実習Ⅰ-②		
授業の概要	グルーミングが与える動物への効果を学び、様々なイヌ種・ネコ種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに、皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める						
学習目的	個体に応じたグルーミングが安全に行える。						
到達目標	1. グルーミング ①シャンプー、リンスの種類を理解できる ②シャンプー及び薬浴が適切にできる ③ブラッシング、コーミングが適切にできる ④ドライイングが適切にできる ⑤爪切りが適切にできる ⑥耳掃除が適切にできる ⑦肛門囊絞りが適切にできる ⑧バリカンを使った趾裏のクリッピングができる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	グルーミング概論1	グルーミングの目的と効果 犬猫種におけるグルーミングに必要な専門用語を学ぶ。					
第2回	グルーミング概論2	犬猫種の特徴を理解し、ここに応じたグルーミング法を学ぶ 理解度確認					
第3回	グルーミング概論3	シャンプー・リンス・薬浴の種類・用途を理解する					
第4回	グルーミング概論4	理解度確認 グルーミングで使用する備品についての理解					
第5回	グルーミング1	ブラッシング・コーミング・ドライイングの技術の修得					
第6回	グルーミング2	ブラッシング・コーミング・ドライイングの技術の修得					
第7回	グルーミング3	耳掃除・爪切りの技術の修得					
第8回	グルーミング4	肛門囊絞りの手技の修得 バリカンの使用方法					
第9回	グルーミング5	高齢・罹患動物のケア エンジェルケア					
第10回	グルーミング6	グルーミングの理解度確認 実習について					
第11回	グルーミング実習1	様々な犬種・猫種のグルーミング及び薬浴ができる					
第12回	グルーミング実習2	様々な犬種・猫種のグルーミング及び薬浴ができる					
第13回	グルーミング実習3						
第14回	グルーミング実習4						
第15回	グルーミング実習5						
第16回	グルーミング実習6						
第17回	グルーミング実習7						
第18回	グルーミング実習8						
第19回	グルーミング実習9						
第20回	グルーミング実習10						
第21回	グルーミング実習11						
第22回	グルーミング実習12						
第23回	グルーミング実習13	様々な犬種・猫種のグルーミング及び薬浴ができる グルーミング実習の理解度確認					
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	インターズー出版「専門分野 基礎動物看護技術」全国動物保険看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第22回目の授業にて告知						
履修のポイント オフィス ・アワー	必ず実習服・スニーカーを着用すること。						

平成30年度 シラバス

科目コード	NHB03											
科目名	動物看護実習Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期	後期					
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	時間					
	専門分野	(時間)	(46)									
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物看護実習Ⅱ	小項目	-							
授業の概要	グルーミングが与える動物への効果を学び、様々なイヌ種・ネコ種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに、皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める											
学習目的	個体に応じたグルーミングが安全に行える。											
到達目標	1. グルーミング ①シャンプー、リンスの種類を説明できる ②シャンプー及び薬浴が適切にできる ③ブラッシング、コーミングが適切にできる ④ドライイングが適切にできる ⑤爪切りが適切にできる ⑥耳掃除が適切にできる ⑦肛門囊絞りが適切にできる ⑧バリカンを使った趾裏のクリッピングができる											
授 業 計 画												
回	主 題	授 業 内 容					備 考					
第1回	グルーミング概論 1	グルーミングの目的と効果 犬猫種におけるグルーミングに必要な専門用語を学ぶ。										
第2回	グルーミング概論 2	犬猫種の特徴を理解し、ここに応じたグルーミング法を学ぶ 理解度確認										
第3回	グルーミング概論 3	シャンプー・リンス・薬浴の種類・用途を理解する										
第4回	グルーミング概論 4	理解度確認 グルーミングで使用する備品についての理解										
第5回	グルーミング 1	ブラッシング・コーミング・ドライイングの技術の修得										
第6回	グルーミング 2	ブラッシング・コーミング・ドライイングの技術の修得										
第7回	グルーミング 3	耳掃除・爪切りの技術の修得										
第8回	グルーミング 4	肛門囊絞りの手技の修得 バリカンの使用方法										
第9回	グルーミング 5	高齢・罹患動物のケア エンジェルケア										
第10回	グルーミング 6	グルーミングの理解度確認 実習について										
第11回	グルーミング実習 1	様々な犬種・猫種のグルーミング及び薬浴ができる										
第12回	グルーミング実習 2											
第13回	グルーミング実習 3											
第14回	グルーミング実習 4											
第15回	グルーミング実習 5											
第16回	グルーミング実習 6											
第17回	グルーミング実習 7											
第18回	グルーミング実習 8											
第19回	グルーミング実習 9											
第20回	グルーミング実習 10											
第21回	グルーミング実習 11											
第22回	グルーミング実習 12											
第23回	グルーミング実習 13						様々な犬種・猫種のグルーミング及び薬浴ができる グルーミング実習の理解度確認					
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」											
参考書	インターズー出版「専門分野 基礎動物看護技術」全国動物保険看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修											
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。											
試験範囲	第2回目の授業にて告知											
履修のポイント オフィス ・アワー	必ず実習服・スニーカーを着用すること。											

平成30年度 シラバス

科目コード	NHB04						
科目名	動物看護実習Ⅲ	担当者		学科	動物看護科	開講期	通期
区分	必修科目	単位	2	学年	2年	曜日	
	専門分野	(時間)	(90)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物看護実習Ⅲ	小項目	動物看護実習Ⅲ		
授業の概要	「動物看護実習Ⅰ」での実践能力に応用力を用いて、正確性や迅速性を身につける。						
学習目的	診療現場に必要な観察力及び基本的手技を身につける。また正常と異常を鑑別し看護評価を行う						
到達目標	1. 看護技術の実践と応用 ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる ②正常と異常を鑑別及び評価し獣医師に的確に報告できる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	ベーシックグルーミング	グルーミング各種用語について ペイジング、クリッピングの手順					
第2回							
第3回							
第4回	ベーシックグルーミング	グルーミング各種用語について ペイジング、クリッピングの手順					
第5回							
第6回							
第7回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第8回							
第9回							
第10回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第11回							
第12回							
第13回	ベーシックグルーミング	エキゾチックアニマルのシャンプー					
第14回							
第15回							
第16回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第17回							
第18回							
第19回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第20回							
第21回							
第22回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第23回							
第24回							
第25回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第26回							
第27回							
第28回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第29回							
第30回							
第31回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第32回							
第33回							
第34回	ベーシックグルーミング	エキゾチックアニマルのシャンプー					
第35回							
第36回							
第37回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第38回							
第39回							
第40回	ベーシックグルーミング	ペイジング、クリッピング					
第41回							
第42回							
第43回	実習実技試験と振り返り	ペイジング、クリッピング					
第44回							
第45回							
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	インターズー出版「専門分野 基礎動物看護技術」全国動物保険看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修 緑書房出版「トリマーのためのベーシック・テクニック」						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第42回目の授業にて告知						
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。髪は1つにまとめ、アクセサリ類は外すこと。爪は短く切り、マニキュアやネイルアート等は落としておくこと。						
オフィス・アワー							

科目コード	NHC01		科目名	動物臨床検査学実習 I		担当者		学科	動物看護科		開講期	後期
区分	必修科目 専門分野		単位	1		学年	1年		曜日		時限	
大項目	基礎で修得した知識の応用		中項目	動物臨床検査学実習		小項目	動物臨床検査学実習 I					
授業の概要	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす											
学習目的	①検体検査の主な種類と検査の意義を理解して検査を行うことができる ②生体検査の主な種類と意義、生体に及ぼす影響を理解して検査を行うことができる											
到達目標	1. 検体検査 ①糞便検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ②尿検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ③血液検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ④その他（細胞）検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる 2. 生体検査 ①エックス線の生物作用と防護について理解し、エックス線から身を守ることができる ②エックス線の発生機序を理解し、正確に検査を行うことができる ③レントゲン撮影で用いられる単位について理解し、その単位を使い分けて説明できる ④超音波の基本原理について理解し、適切な保定を行うことができる ⑤心電図の基本原理について理解し、適切な保定や正確に検査を行うことができる ⑥内視鏡の基本原理について理解し、適応症例を2つ以上挙げることができる ⑦CT・MRIの基本原理について理解し、違いを説明できる											
授業計画												
回	主 題	授 業 内 容								備 考		
第1回	動物臨床検査学 臨床検査の種類	臨床検査とは何か。その目的と動物病院における動物看護師の役割について学ぶ。 動物看護師が関わる臨床検査の種類（検体検査、生体検査）にはどのようなものがあるのかを学ぶ。										
第2回	主要な検査機器 解剖学・看護学との関連性	検査機器・器具の名称と用途について学ぶ。 臨床検査と解剖学・看護学との関連性について考える。										
第3回	生理学・看護学との関連性	各臨床検査の生理学意味を知り、動物の看護に活用できるように関連性を考える 泌尿器系の働きと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ										
第4回	尿検査①	尿生成の仕組み、泌尿器系の働き										
第5回	尿検査②	各種採尿法、物理的・科学性状検査、正常尿と異常尿										
第6回	尿検査③											
第7回	糞便検査①	消化器系の働き、消化器疾患、内部寄生虫										
第8回	糞便検査②	各種採便法、正常便と異常便										
第9回	糞便検査③											
第10回	血液検査概論	循環器系の働き、循環器疾患、血液成分										
第11回	血液検査① 採血法	採血法の選択、保定										
第12回	血液検査② 採血法											
第13回	血液検査③ 取り扱い/検査項目	血液検査項目、抗凝固剤の選択										
第14回	血液検査④ CBC、生化学	検査の目的と意義										
第15回	血液検査⑤ CBC、生化学											
第16回	血液検査⑥ CBC、生化学	正常値と異常値										
第17回	血液検査⑦ CBC、生化学											
第18回	血液検査⑧ 塗抹標本の作成	標本作成の手技・染色法・観察法										
第19回	血液検査⑨ 塗抹標本の作成	標本作成の手技・染色法・観察法										
第20回	血液検査⑩ 塗抹標本の作成	標本作成の手技・染色法・観察法										
第21回	眼科検査概論	眼の解剖生理、眼科疾患										
第22回	眼科検査手技①	器具の名称、使用目的、手技、保定										
第23回	眼科検査手技②											
第24回	耳の検査①	耳の解剖生理学、耳の疾患、耳垢検査標本の作製										
第25回	耳の検査②											
第26回	皮膚科検査①	皮膚の解剖生理学、皮膚疾患、皮膚科検査手技										
第27回	皮膚科検査②											
第28回	レントゲン検査概論①	放射線と撮影の原理										
第29回	レントゲン検査概論②											
第30回	レントゲン検査手技①	撮影方法とフィルムの読み方、被ばく管理										
第31回	レントゲン検査手技②											
第32回	心電図検査①	循環器疾患との関連性、測定方法と波形の読み方										
第33回	心電図検査②											
第34回	超音波検査①	各種疾患、妊娠鑑定の関連性、機器の使用法と測定法の実際										
第35回	超音波検査②											
第36回	内視鏡検査	備品および機器の名称、メンテナンス								内視鏡については 座学を行う。		
第37回	神経学的検査①	脳神経との関連性、各種検査法と疾患との関連性										
第38回	神経学的検査②											
第39回	CT・MRI検査	撮影原理の理解、各種検査法と疾患との関連性								CT、MRIについては 座学を行う。		
第40回	細胞診	細胞採取の目的、採取時の安全な保定法										
第41回	微生物学的検査	細菌・真菌の種類										
第42回	微生物学的検査	培養・染色・標本作製法										
第43回	臨床検査学まとめ	単位認定試験に向けたまとめ 苦手な分野の検査を行う										
第44回	前期振り返り/単位認定試験	前期を振り返り、授業内にて単位認定試験を受ける。										
第45回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。										
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 5 増補改訂版」、インターズー出版「動物看護実習テキスト」											
参考書	インターズー出版「専門分野 動物臨床検査学」全国動物保険看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基礎」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修											
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。											
試験範囲	第43回目の授業にて告知											
履修の ポイント												
オフィス ・アワー												

平成30年度 シラバス

科目コード	NHC02						
科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ	担当者		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日	
	専門分野	(時間)	(46)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	動物臨床検査学実習	小項目	動物臨床検査学実習Ⅱ		
授業の概要	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。						
学習目的	1. レントゲン：レントゲン装置の操作法と撮影時のポジショニング及び現像法を理解し、適切な検査補助をすることができる 2. 超音波：超音波装置の操作法と検査時のポジショニング方法を理解し、適切な検査補助をすることができる 3. 心電図：心電図の原理を理解し、心電図装置の操作法と意義及び検査時のポジショニング方法を理解し、適切な検査補助をすることができる						
到達目標	1. レントゲン ①レントゲン撮影条件、グリッドの有無を理解ができる ②撮影のための関連器具の使用目的を理解し、準備することができる ③カセット及びフィルムの適切な取り扱いと準備ができる ④撮影目的に合った動物のポジショニングができる ⑤適切に現像ができる ⑥フィルム及びデータの適切な管理ができる ⑦レントゲンフィルムの基礎的な読影ができる ⑧レントゲン撮影に従事する者の各種報告の義務について説明できる 2. 超音波 ①超音波検査時に必要な準備ができる ②超音波装置の適切な取り扱いと操作ができる ③検査目的に合った動物のポジショニングができる 3. 心電図 ①心電図の原理を説明できる ②基本的な波形と検査意義を説明できる ③超音波検査時に必要な準備ができる ④心電図の適切な取り扱いと操作ができる ⑤動物のポジショニングができる 各検査の必要性・検査方法が適切に行える						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	レントゲン検査1 カセット・グリッド・フィルム 扱いと準備	適切な撮影のための関連器具について理解できる カセット及びフィルムの適切な取り扱いと準備ができる					
第2回	レントゲン検査2 ポジショニング・現像	撮影目的に合った動物のポジショニングができる 適切な現像ができる					
第3回	レントゲン検査3 フィルム・データ管理・読影	フィルム及びデータの適切な管理ができる レントゲンフィルムの基本的な読影が理解できる					
第4回	レントゲン検査4 報告の義務・理解度確認	レントゲン撮影に従事する者の各種報告の義務について理解できる レントゲン検査の意義と手技についての理解度を確認					
第5回	超音波検査1 概論・検査準備	超音波装置の操作法と検査時のポジショニング方法を身につける 超音波検査時に必要な準備ができる					
第6回	超音波検査2 装置の取り扱い・操作法・ポジショニング	超音波装置の適切な取り扱いと操作ができる 検査目的に合った動物のポジショニングができる					
第7回	超音波検査3 理解度確認 心電図検査1 概論	超音波検査の意義と手技についての理解度を確認 心電図の原理を理解し、心電図装置の操作法と意義					
第8回	心電図検査2 基本原理・波形と検査意義	心電図の原理を理解できる 基本的な波形と検査意義を理解できる					
第9回	心電図検査3 検査準備・操作法	心電図検査時に必要な準備ができる 心電図検査時に必要な準備ができる					
第10回	心電図検査4 ポジショニング・理解度確認	心電図検査時に必要な準備ができる 心電図検査の意義と手技についての理解度を確認					
第11回	眼科検査1 概論・シルマー・フルオレ試験	一診療現場で主に行われる眼科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける シルマー試験・フルオレセイン試験の方法と意義について理解し、適切な手技ができる					
第12回	院内実習事前学習①	院内実習（第1期）の注意事項					
第13回	院内実習（第1期）	院内検査実習（CBC、生化学、CRP、Na-K、眼科検査、ウッド灯、内視鏡、各種検査時保定、院内清掃等）				※実習先の動物病院では、 診察の都合により、 左記内容が行えない 場合もある。 ※状況により授業進行は 前後する	
第14回							
第15回							
第16回							
第17回							
第18回							
第19回							
第20回							
第21回	院内実習事後学習①	院内実習（第1期）の振り返り					
第22回	前期振り返り／単位認定試験	前期を振り返り、授業内にて単位認定試験を受ける。					
第23回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書5 増補改訂版」、インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	インターズー出版「専門分野 動物臨床検査学」全国動物保険看護士大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第21回目の授業にて告知						
履修のポイント オフィス ・アワー	必ず実習服・スニーカーを着用すること。						

平成30年度 シラバス

科目コード	NHC03		科目名	動物臨床検査学実習Ⅲ	担当者		学科	動物看護科	開講期	通期
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日		時限		
大項目	基礎で修得した知識の応用	中項目	動物臨床検査学実習	小項目	動物臨床検査学実習Ⅲ					
授業の概要	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす									
学習目的	①検体検査の主な種類と検査の意義を理解して検査を行うことができる ②生体検査の主な種類と意義、生体に及ぼす影響を理解して検査を行うことができる									
到達目標	1. 検体検査 ①糞便検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ②尿検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ③血液検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる ④その他（細胞）検査の意義を理解し、正確に検査を行うことができる 2. 生体検査 ①エックス線の生物作用と防護について理解し、エックス線から身を守ることができる ②エックス線の発生機序を理解し、正確に検査を行うことができる ③レントゲン撮影で用いられる単位について理解し、その単位を使い分けて説明できる ④超音波の基本原理について理解し、適切な保定を行うことができる ⑤心電図の基本原理について理解し、適切な検査を行うことができる ⑥内視鏡の基本原理について理解し、適応症例を2つ以上挙げることができる ⑦CT・MRIの基本原理について理解し、違いを説明できる									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	顕微鏡① 名称・倍率・条件		接眼・対物レンズ・条件の仕組み							
第2回	顕微鏡② 操作法・メンテナンス法		ハンドル操作法、倍率設定、スライドガラスのセッティング、油浸オイル							
第3回	院内実習事前学習②		院内実習（第2期）の注意事項							
第4回	院内実習（第2期）	院内検査実習（CBC、生化学、CRP、Na-K、眼科検査、ウツド灯、内視鏡、各種検査時保定、院内清掃等）						※実習先の動物病院では、診察の都合により、左記内容が行えない場合もある。 ※状況により授業進行は前後する		
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
第16回										
第17回										
第18回										
第19回	院内実習事後学習②		院内実習（第2期）の振り返り							
第20回	血液検査① CBC、塗抹、生化学		復習							
第21回	血液検査② 輸血、クロスマッチ		輸血と免疫・ショックの関連性、クロスマッチの必要性							
第22回	血液検査③ 住肉寄生虫検査		貧血とバベシア、マイコプラズマの関連性							
第23回	血液検査④ 免疫学的検査、凝固系		フィラリア、FeLV、FIVと抗原・抗体の仕組み							
第24回	細胞診 スメア検査		腔スメアの採取法、診断法							
第25回	微生物学的検査③		菌の同定の流れ							
第26回	骨髄検査		目的、意義、各種疾患、準備、手順、鏡検							
第27回	院内実習事前学習③		院内実習（第3期）の注意事項							
第28回	院内実習（第3期）	院内検査実習（CBC、生化学、CRP、Na-K、眼科検査、ウツド灯、内視鏡、各種検査時保定、院内清掃等）						※実習先の動物病院では、診察の都合により、左記内容が行えない場合もある。 ※状況により授業進行は前後する		
第29回										
第30回										
第31回										
第32回										
第33回										
第34回										
第35回										
第36回										
第37回										
第38回										
第39回										
第40回										
第41回										
第42回										
第43回	院内実習事後学習③		院内実習（第3期）の振り返り							
第44回	前期振り返り／単位認定試験		前期を振り返り、授業内にて単位認定試験を受ける。							
第45回	テスト返し／解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。							
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書5 増補改訂版」、インターズー出版「動物看護実習テキスト」									
参考書	インターズー出版「専門分野 動物臨床検査学」全国動物保険看護系大学協会 カリキュラム検討委員会 編集 インターズー出版「動物看護実践基準」一般社団法人 日本動物看護職協会 監修									
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。									
試験範囲	第43回目の授業にて告知									
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。									
オフィスアワー										

科目コード	NHD01						
科目名	外科動物看護実習Ⅰ	担当者	北村 昌樹	学科	動物看護科	開講期	後期
区分	必修科目	単位	1	学年	1年	曜日	
	専門分野	(時間)	(46)			時限	
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	外科動物看護実習Ⅰ	小項目	外科動物看護実習Ⅰ		
授業の概要	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解する						
学習目的	手術関連業務：外科手術に必要な術前準備と術後業務までその意義を理解し適切な取り扱いができる 術前術後の看護：麻酔導入から覚醒までの身体変化を理解し適切な対応ができる。また術野の準備から手術助手業務までを身につける 麻酔・鎮痛：麻酔薬と鎮痛薬の関連法規とその使用目的を理解し正しい取り扱いができる 麻酔モニタリング：手術時のモニター機器の意義を理解し適切な接続と正しい取り扱いができる						
到達目標	1. 手術関連業務 ①リネン類の種類とその用途を理解し適切な準備ができる ②手術器具の種類と目的を理解し適切な管理と準備ができる ③縫合糸の種類と特性、用途を理解する ④適切な滅菌作業と管理運用ができる 2. 術前術後の看護 ①気管挿管の目的を理解し準備と補助ができる ②気管確保の目的を理解し準備と補助ができる ③術野の毛刈りと消毒ができる ④手洗い及び術着、手袋の着用が適切にできる ⑤滅菌、汚染の区別を理解し衛生的に行動できる ⑥術後のバイタルチェックの報告と記録、状況に応じた動物管理ができる 3. 麻酔・鎮痛 ①ペインスケールを用いて患者動物を評価できる ②麻酔薬、鎮痛薬の関連法規に精通する ③麻酔薬、鎮痛薬の薬理効果を理解しバイタルチェックの報告ができる 4. 麻酔モニタリング ①麻酔器の仕組みを理解し適切に接続できる ②モニター機器の仕組みを理解し適切に装着接続できる ③モニター数値の理解及び異常の監視と報告ができる ④術中のバイタルチェックの監視報告と状況に応じた動物管理ができる ⑤麻酔機器を獣医師の指示に基づき操作できる ⑥補助呼吸及び人工呼吸器を獣医師の指示に基づき操作できる						
授業計画							
回	主 題	授 業 内 容				備 考	
第1回	手術補助 器具・機材の準備 1	周術期看護 器具・機材の準備・管理 (1.メス 2.剪刀 使用目的や種類) 使用目的を理解して使い分けの事ができる。					
第2回	器具・機材の準備 2	器具・機材の準備・管理 (3. 鑷子 4. 鉗子 使用目的や種類) 使用目的を理解して使い分けの事ができる。					
第3回	器具・機材の準備 3	器具・機材の準備・管理 (5. 持針器・把針器 使用目的や種類) 使用目的を理解して使い分けの事ができる。					
第4回	器具・機材の準備 4	器具・機材の準備・管理 (縫合材料(糸と針)) 使用目的を理解して使い分けの事ができる。					
第5回	器具・機材の準備 5	器具・機材の準備・管理 (リネン類(ドレープ・ガウンなど)の種類・たたみ方) 使用目的を理解して使い分けの事ができる。					
第6回	器具・機材の準備 6	器具・機材の準備・管理 (電気メスの種類・しくみについて) 使用目的を理解して使い分けの事ができる。					
第7回	避妊・去勢手術 麻酔前評価	外科手術を補助するために必要な基礎知識 術前の患者動物の評価					
第8回	術前準備①	外科看護技術の修得 術前の準備(手指の消毒法)					
第9回	手指消毒実習	実際にスクラブ法とラビング法を用いた手指消毒を行い、体得する。					
第10回	術前準備②	術前の準備 (ガウン・グローブ装着方法等)					
第11回	実技試験 (グローブの着用)	グローブ着用の実技試験を受ける。 closed cuff methodで3分以内に正しく無菌的に着用することができる。					
第12回	術前準備③	術前の準備 (毛刈りの意義適切な消毒方法)					
第13回	術前準備④	術前の準備 ・気管挿管に必要なものを何故必要なのかを理解し準備ができる。					
第14回	麻酔とは①	麻酔状態とはどういった状態なのか。麻酔の必要性や種類を理解する。					
第15回	麻酔とは② 麻酔前投与薬①	麻酔の作用機序や代謝と排泄・麻酔前投与薬の種類と目的を理解する。					
第16回	麻酔前投与薬②	3種類の鎮痛薬について理解する。					
第17回	麻酔導入	麻酔導入に必要な薬剤や導入・酸素化の必要性を知る。					
第18回	麻酔器の構造	実際の麻酔器を見ながら、各箇所名称・意義、麻酔ガスの流れを理解する。					
第19回	麻酔モニター① (循環系モニター)	ECGの接続方法を知る。 正常波形と異常波形を知り、実際の波形を見て、どういった状態なのか分かるようになる。					
第20回	麻酔モニター② (循環系モニター)	血圧の測定方法を知る。 血圧脈波グラフの正常と異常を知り、異常波形を見て、どういった状態なのか分かるようになる。 尿量モニタリングの重要性を理解する。					
第21回	実技試験 (手術器具出し)	器具出しの実技試験を受ける。 担当教員から出題される3つの器具名を聞き、その名の器具を安全に術者・助手に渡す事ができる。					
第22回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				※受験に際し、学生証が必要	
第23回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。					
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第6巻」・インターズー出版「動物看護実習テキスト」						
参考書	インターズー出版「もうコワくない! 周術期の動物看護パーフェクトナビ」 インターズー出版「動物看護師のための麻酔超入門」佐野忠士著						
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	第21回目の授業にて告知						
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NHD02							
科目名	外科動物看護実習Ⅱ	担当者	北村 昌樹	学科	動物看護科	開講期	通期	
区分	必修科目	単位	1	学年	2年	曜日		
	専門分野	(時間)	(46)			時限		
大項目	基礎で得得した知識の実践	中項目	外科動物看護実習Ⅱ	小項目	外科動物看護実習Ⅱ			
授業の概要	看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解する							
学習目的	外科動物看護実習Ⅰで学んだ知識・技術を基に、診療現場に必要な周術期に関する基本的手技を臨床現場で身につけることができる。							
到達目標	1. 外科に関する技術の実践と応用 ①手順や要領を考慮し、正確かつスムーズに手技ができる ②正常と異常を鑑別及び看護評価し獣医師と連携して看護ができる							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	麻酔モニター③ (呼吸器系モニター)	SpO ₂ とEtCO ₂ の測定方法・基準数値を知り、モニター上の数値を見て状況を把握できるようになる。						
第2回	麻酔モニター④ (体温モニター・五感を用いたモニター)	術中の体温維持の重要性を知る。 他にも、モニターに映し出される数値が全てではない事を理解する。						
第3回	麻酔記録 麻酔覚醒1	麻酔中(手術中)の記録をとることの重要性を理解し実践する。 安全な麻酔覚醒を迎えるために必要な処置ができるようになる。						
第4回	麻酔覚醒2	気管内挿管で患者管理を行っていた場合には覚醒に伴い、抜管という作業が必要になるが、何を基準に抜管するのか把握したうえで、抜管の準備・手順を理解する。 麻酔覚醒後の患者状態の評価の重要性と難しさを十分に理解し、その危険について学ぶ。 具体的な看護方法や異常発見に効果的な看護的介入法についてディスカッションする。						
第5回	術後管理1	手術によって生じる痛みの発生の理解と、その評価方法についていくつものスケールを用いて評価を行う。						
第6回	術後管理2	術後の痛みの感覚を増強させる要因を理解し、動物の周囲は安全が確保されているのか、麻酔覚醒を阻害する因子はないか、状況をしっかりと把握したうえで、入院環境整備を整える事ができる。						
第7回	術後管理3	手術後の患者に必要な栄養状態の評価と、給与エネルギーの計算方法を学び、いつからエネルギーを給与すべきかなの実践的術後患者管理方法および入院管理法について学ぶ。 手術後に自発的に採食できない患者動物に対して行われる給餌法(チューブフィーディング)を学ぶ。						
第8回	前期振り返り/試験実施	授業を振り返り、授業内にて試験を受ける。				※学生証が必要		
第9回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。						
第10回	院内実習前の説明・最終確認	『外科動物看護実習Ⅰ』も組み合わせた復習。 院内実習諸注意・院内実習を行う意義等の説明。						
第11回	院 内 実 習	術前検査	術前に必要な検査項目を知り、実際に行う検査にどのようなものがあるのか理解する。				全3回に分けて実施。 ※実習先の動物病院では、 診察の都合により、 左記内容が行えない 場合もある。 ※状況により授業進行は 前後する	
第12回		術前準備① (手術室)	手術が始まる前に行う手術室の準備に参加し、どのようなものを準備しているのかを把握する。					
第13回		術前準備② (手術器具)	避妊手術・去勢手術に必要な器具を知る。					
第14回		麻酔導入	使用する麻酔薬や麻酔導入時の状況を見学し、術前の緊迫した状況を知る。					
第15回		術中モニタリング	術中のモニターを確認し、麻酔記録を取ることができるようになる。					
第16回		去勢手術	去勢手術の流れ・手技を知る。					
第17回		避妊手術	避妊手術の流れ・手技を知る。					
第18回		術後管理① (術後動物の管理)	術後の動物の管理における注意事項や確認事項を知り、自ら動物の状態を知ることができる。					
第19回		術後管理② (飼い主様への術後説明)	退院にあたり、飼い主様に伝えなければならない事を理解し、説明ができるようになる。					
第20回		衛生管理 (器具の手入れ・手術室清掃 等)	術後の手術器具の手入れの仕方・術後の手術室の清掃・整理を進んで行う事ができるようになる。					
第21回	院内実習後の振り返り①	院内実習1回目のできた経験・知識をクラス内で発表し、情報共有ができる。				院内実習1回目終了後		
第22回	院内実習後の振り返り②	院内実習2回目のできた経験・知識をクラス内で発表し、情報共有ができる。				院内実習2回目終了後		
第23回	院内実習後の振り返り③	院内実習3回目のできた経験・知識をクラス内で発表し、情報共有ができる。				院内実習3回目終了後		
教科書	緑書房出版「動物看護の教科書 増補改訂版 第6巻」、インターズー出版「動物看護実習テキスト」							
参考書	インターズー出版「もうコワくない! 周術期の動物看護パーフェクトナビ」 インターズー出版「動物看護師のための麻酔超入門」佐野忠士著							
成績評価	単位認定: 総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。							
試験範囲	第7回目の授業にて告知							
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。							
オフィス・アワー	随時							

平成30年度 シラバス

科目コード	NHE01							
科目名	総合臨床実習	担当者	2年次担任	学科	動物看護科	開講期	通期	
区分	必修科目	単位	3	学年	2年	曜日		
	専門分野	(時間)	(135)			時限		
大項目	基礎で修得した知識の実践	中項目	総合臨床実習	小項目	総合臨床実習			
授業の概要	修得した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。チーム獣医療の現場から診療の流れ、専門職としての役割を体験し、臨床現場ならではの臨場感を体験する。いままで修得した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し、先輩動物看護師に見習うことで、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養い自身に不足している部分を理解する。							
学習目的	修得した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し、実習先からより実践的な経験や知識・技術、社会人としての一般常識を学ぶことで動物看護師として成長する。							
到達目標	1. 動物病院実習 ①臨床症例を見ることで実践に役立つ知識と技術を就職後に活かすことができる。 ②獣医療現場から専門職としての意識を学ぶ ③社会人及び新人スタッフとしての心構えを学ぶ							
授業計画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	事前学習	インターンシップおよび院内実習の心構え 注意事項、緊急時の対応について						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	学びたい技術1	環境整備が実践できる						
第6回								
第7回								
第8回	学びたい技術2	食事に関する看護及び技術を実践できる						
第9回								
第10回								
第11回	学びたい技術3	排泄技術を実践できる						
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
第16回	学びたい技術4	活動・休息・援助後術を実践できる						
第17回								
第18回								
第19回								
第20回	学びたい技術5	身体の清潔・援助技術を実践できる						
第21回								
第22回								
第23回								
第24回	学びたい技術6	呼吸・循環を整える技術を実践できる						
第25回								
第26回								
第27回								
第28回								
第29回								
第30回	学びたい技術7	創傷管理技術を実践できる						
第31回								
第32回								
第33回								
第34回								
第35回	学びたい技術8	投薬の技術を実践できる						
第36回								
第37回								
第38回	学びたい技術9	症状・生体機能管理技術を実践できる						
第39回								
第40回	院 内 実 習	学びたい技術10	感染予防への配慮と技術を実践できる					全3回の院内実習に分けて実施。
第41回								
第42回								
第43回		学びたい技術11	安全管理ができる					
第44回								
第45回								
第46回		学びたい技術12	適切なコミュニケーションを実践できる					
第47回								
第48回								
第49回		学びたい技術13	医療チームの一員として適切な態度ができる					
第50回								
第51回								
第52回		発揮したい事項1	動物病院に必要な学習者としての相応しい態度					
第53回								
第54回								
第55回	発揮したい事項2	周術期の看護技術を実践できる						
第56回								
第57回								
第58回	事後学習	インターンシップおよび院内実習の振り返り 自己評価と病院からの評価を照らし合わせ、自身を客観的に考察						
第59回								
第60回								
第61回								
第62回								
第63回								
第64回								
第65回								
第66回								
第67回								
第68回								
教科書	インターズー出版「動物看護実習テキスト」							
参考書	-							
成績評価	単位認定 60 点以上 (総合臨床実習後に提出する「就業報告書(レポート)」の提出状況・内容を評価。)							
試験科目	※試験は実施せず、「就業報告書(レポート)」にて評価を行う。							
履修のポイント	必ず実習服・スニーカーを着用すること。							
オフィス・アワー	随時							

平成30年度 シラバス

科目コード	NIA01						
科目名	キャリアデザインⅠ		担当者	1年次担任 キャリアサポート室職員	学科	動物看護科	開講期 後期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	1年	曜日 時限
大項目	社会人基礎分野		(時間)	(30)	中項目	キャリアデザイン	小項目
授業の概要	社会人の中で自分の役割を考える						
授業の概要	個人ワーク・チームワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。						
学習目的	一人ひとりが自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。						
到達目標	社会人として必要なコミュニケーション能力、仕事に取り組む姿勢や仕事の進め方を自然と身につけることができる。						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	社会人になるために	学校が社会の縮図であることを知り、今後の学校生活を社会人として行動できる。					
第2回	主体性とは	主体性とは何かを知り、課外活動の目的を考える。					
第3回	報告・連絡・相談の重要性	社会人に必要な報告・連絡・相談について学ぶ。					
第4回	報告・連絡・相談の仕方	報告・連絡・相談の使い分けや使うタイミングを学ぶ。					
第5回	ポジティブシンキング①	ポジティブな考え方は					
第6回	ポジティブシンキング②	ケーススタディ：ポジティブに捉える。					
第7回	コミュニケーション能力とは	コミュニケーションには自己理解と他者理解が必要であることを知る。					
第8回	自己分析Ⅰ	過去のライフ・イベントを通して、自分の人生に対する態度の根っこにあるものに気づき、自分らしさについて考える。→自分年表を作成する。					
第9回	自己分析Ⅱ	自分を知る手がかりを見つける。→ジョハリの窓					
第10回	自己分析Ⅲ	自分の価値観に気づく。→私の大切なもの探し					
第11回	自己分析Ⅳ	自己理解を深め、自分自身を他者に伝えることを意識し、自己イメージを言語化・明確化する。→ネガポジまっぴ、自己PRまっぴ					
第12回	他者理解	自身と他人は違うということを再認識する。					
第13回	思いやりとは①	思いやりとは何かを考える。					
第14回	思いやりとは②	ケーススタディ：相手の立場になって考える。					
第15回	計画立案	PDCAサイクルを知り、学校生活2年間の計画を立てることができる。					
第16回	働くとは	学生と社会人の違いを理解する。					
第17回	自己分析Ⅴ(自己PR)	面接試験・履歴書に書く内容を考える。					
第18回	自己分析Ⅴ(自己PR)	面接試験・履歴書に書く内容を考える。					
第19回	履歴書の書き方(1)	履歴書の作成練習、履歴書の書き方を学ぶ。					
第20回	電話のかけ方(1)	人事担当者へのアポイントメントの取り方を学ぶ。→敬語を使う					
第21回	電話のかけ方(2)	人事担当者へのアポイントメントの取り方を学ぶ。→敬語を使う					
第22回	お礼状の書き方	お礼状の書き方を学ぶ。					
第23回	企業研究Ⅰ(見学先調査)/面談	冬休みに「動物病院見学」の見学先をリストアップする					
第24回	動物病院見学振り返り・報告	動物病院見学の振り返り・発表					
第25回	なぜ働くのか(1)	自分にとっての「働く理由」や思いについて洞察を深める。					
第26回	なぜ働くのか(2)	仕事の価値をどこに置くのかを考察し、他者との違いから多様な価値観があることを受け入れられるようにする。					
第27回	求人票の見方	基本給・諸手当・保険など基本的なことを学ぶ。					
第28回	企業研究Ⅱ	自身が企業に求める条件を考える。					
第29回	企業研究Ⅲ	自身が求める条件に合う動物病院を探す。					
第30回	春休みの過ごし方	2年次の就職活動を見据えて、動物病院の見学先を検討する。					
教科書	就職NAVIノート・未来ノート						
参考書	コミュニケーション&キャリアガイダンス						
成績評価	単位認定 60点以上(平常点含む) 出席率 80%以上						
試験範囲	試験は行わず、提出物・授業態度等にて評価						
履修のポイント	(原則として補講は行わない)						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NIA02								
科目名	キャリアデザインⅡ		担当者	2年次担任 キャリアサポート室職員		学科	動物看護科	開講期	前期
区分	選択科目	(必修)	単位	1		学年	2年	曜日	
	社会人基礎分野		(時間)	(30)				時限	
大項目	社会の中で自分の役割を考える		中項目	キャリアデザイン		小項目	キャリアデザインⅡ		
授業の概要	就職活動において実践的に活用できる内容を学ぶことができる。								
学習目的	個人ワーク・チームワークを通して自分への洞察を深め、仕事全般についての理解を高めて、仕事選択ができるようになる。								
到達目標	就職について考え、就職内定を勝ち取ることができる。 ～就職活動に関する必要な知識を覚え、個々の就労意識を高め、就職活動に役立てる。								
授 業 計 画									
回	主 題		授 業 内 容					備 考	
第1回	企業研究Ⅱ		就職希望調査・インターンシップ希望調査をとる。						
第2回	企業研究Ⅲ/仕事理解		ケーススタディで学ぶ実際の仕事①						
第3回	企業研究Ⅳ/仕事理解		ケーススタディで学ぶ実際の仕事②						
第4回	企業研究Ⅴ/仕事理解		ケーススタディで学ぶ実際の仕事③						
第5回	履歴書の書き方(2) 電話のかけ方(2)		履歴書の作成練習、履歴書の書き方を学ぶ。 人事担当者へのアポイントメントの取り方を学ぶ。一敬語を使う						
第6回	生活設計・家計管理		「SMBCコンシューマーファイナンス」特別授業 計画的な貯蓄・給与明細書の見方・お金のトラブルなどについて学ぶ						
第7回	インターンシップ(1)		学んだことを実践で生かす機会であることを理解する。 目的意識を高め、何のためのするのかを考える。					インターンシップ DVD	
第8回	インターンシップ(2)		お礼状の書き方を学ぶ。						
第9回	企業アプローチ(1)		面接質問事例集Ⅰ－①「自己紹介」②「学生生活」の設問を用い、回答を考える。						
第10回	企業アプローチ(2)		面接質問事例集Ⅰ－③「志望理由」④「職業観」の設問を用い、回答を考える。						
第11回	企業アプローチ(3)		面接質問事例集Ⅰ－⑤「日常生活」⑥「一般常識」の設問を用い、回答を考える。						
第12回	企業アプローチ(4)		面接質問事例集Ⅰ－⑦「困らせる質問」⑧「掘り下げた質問」の設問を用い、回答を考える。						
第13回	面接対策Ⅰ		面接試験の種類・方法・プロセスなどを知る。					面接対策DVD	
第14回	面接対策Ⅱ		実践的な対策方法を知る。						
第15回	仕事選択		未来に向けてキャリア・プランをたてる。3年後・10年後の自分。						
教科書	就職NAVIノート・未来ノート								
参考書	コミュニケーション&キャリアガイダンス								
成績評価	単位認定 60点以上(平常点含む) 出席率 80%以上								
試験範囲	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。								
履修のポイント	(原則として補講は行わない)								
オフィス・アワー	随時								

平成30年度 シラバス

科目コード	NIB01						
科目名	ボランティア活動		担当者	2年次担任	学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	2年	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会の中で自分の役割を考える		中項目	ボランティア活動	小項目	ボランティア活動	
授業の概要	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。						
学習目的	主体的に考え、慈善事業に対して利他の精神で活動できるようになる						
到達目標	1. 「主体性」を理解し、主体的に動くことができる。 「主体性」と「自主性」の違いを説明することができる 2. 動物看護師としての知識を活かした社会貢献を考える。 動物看護の知識を使ってできる社会貢献を自らで考え、実行することができる 「一時預りボランティア」で預かる子猫のことを考えて行動ができる						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	授業概論 主体性とは？	この授業の意義・流れを理解し、今後の授業に臨むことができるようになる。 「主体性」と「自主性」の違いを自分の言葉で説明できる。					
第2回	動物関係の社会貢献	動物看護の知識を使ってできる社会貢献にどんなものがあるかを知る					
第3回	自分たちでできること	自分たちで、動物看護の知識を使ってできる社会貢献を考える					
第4回	京都動物愛護センター見学	京都動物愛護センター見学をしてボランティア活動とは何かを知る					
第5回							
第6回	京都市動物園見学	京都市動物園見学をして京都市動物園が行っている社会貢献とは何かを考える					
第7回							
第8回	グループワーク：マニュアル作成①	子猫の一時預りボランティアに参画する際に必要なマニュアルを考える					
第9回	グループワーク：マニュアル作成②						
第10回	グループワーク：マニュアル作成③						
第11回	グループワーク：活動前最終確認	子猫の一時預りボランティア開始前に決まったことの最終確認・全体共有					
第12回	グループワーク：活動中間報告①	子猫の一時預りボランティア開始1週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第13回	グループワーク：活動中間報告②	子猫の一時預りボランティア開始2週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第14回	グループワーク：活動中間報告③	子猫の一時預りボランティア開始3週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う					
第15回	この授業を受けて	クラス全体で授業で学んだことを共有					
教科書	-						
参考書	-						
成績評価	単位認定	60	点以上	感想文・マニュアルの作成具合			
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NJA01						
科目名	損害保険学		担当者	アニコムパフェ	学科	動物看護科	前期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	1	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(16)			時限
大項目	社会人として必要なビジネス能力		中項目	損害保険学	小項目	損害保険学	
授業の概要	外部授業。 大手ペット保険会社による、専門的な保険計算、損害保険募集人試験に必要な動物以外の保険講習。 飼い主に、ペット保険の説明ができる。						
学習目的	損害保険募集人基礎単位試験合格						
到達目標	1. 保険の点数計算 動物病院での保険使用の際、保険の点数計算ができる。 2. 保険の種類 損保に必要な、自動車保険、火災保険、損害保険の基本がそれぞれ理解が得られる。						
授 業 計 画							
回	主 題		授 業 内 容				備 考
第1回	動物保険について		ペット保険 1				
第2回			ペット保険 2				
第3回			ペット保険 3				
第4回			ペット保険 4				
第5回	損害保険募集人試験 対策講座		募集人試験対策 1				
第6回			募集人試験対策 2				
第7回			募集人試験対策 3				
第8回			募集人試験対策 4				
教科書	アニコムより配布						
参考書	-						
成績評価	単位認定	60	点以上	出席率	80%	以上	
履修のポイント							
オフィス・アワー	-						

平成30年度 シラバス

科目コード	NJB01						
科目名	基本IT技術 I		担当者		学科	動物看護科	前期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	2年	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として必要なビジネス能力		中項目	基本IT技術	小項目	基本IT技術 I	
授業の概要	コンピュータを利用した事務作業やビジネスに必要な文書の作成や表計算について学習。必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。						
学習目的	必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。						
到達目標	①コンピュータの基礎を理解し、メールやフォルダの作成ができるようにする。 ②Wordの操作を学習し、ビジネス文書や見栄えの良い文書を作成できるようにする。 ③Excelを使った表計算やグラフの作成ができるようにする。						
授 業 計 画							
回	主 題		授 業 内 容				備考
第1回	コンピュータの基本操作		ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方				
第2回	文書の作成		ワードの基本操作、文章作成、編集、文字修飾				
第3回	文書の作成		インデントやタブ、ビジネス文書について				
第4回	表の作成		表を挿入し、編集する				
第5回	表の編集		表の体裁を整える				
第6回	表現力アップ		図などの挿入・編集				
第7回	表現力アップ		SmartArtグラフィックなどの挿入・編集				
第8回	エクセルの基礎		エクセルの基本操作と簡単な表の作成				
第9回	エクセルの基本		表の作成、演算子や数式について				
第10回	数式の利用		関数の理解、オートSUMボタンを利用した関数の利用				
第11回	関数の利用		絶対参照と相対参照、関数の挿入ボタンを利用した関数について				
第12回	グラフ		グラフの作成・編集				
第13回	試験範囲の復習		試験対策のポイント、復習				
第14回	前期振り返り／期末テスト		前期を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。				
第15回	テスト返し／解説		前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。				
教科書							
参考書							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席率 80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NJB02						
科目名	基本IT技術Ⅱ		担当者		学科	動物看護科	開講期 後期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	2年	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として必要なビジネス能力		中項目	基本IT技術	小項目	基本IT技術Ⅱ	
授業の概要	パワーポイントを使用したスライド作成						
学習目的	パワーポイントを使用して発表スライドを制作できるようになる。						
到達目標	効果的なスライド作成が出来るようになる。 自身の考えや企画を形にする為に、効果的なスライド作成が出来るようになる。						
授 業 計 画							
回	主 題		授 業 内 容				備 考
第1回	基本操作 1		PowerPointソフトはどのようなものか 基本操作とソフトの理解				
第2回	基本操作 2		スライドの作成・デザイン・文字入力と構成				
第3回	基本操作 3		図形や絵の挿入・アニメーション効果・画面の切り替え				
第4回	基本操作 4		表・グラフの挿入				
第5回	基本操作 5		音の挿入と効果的な画像挿入				
第6回	基本操作の振り返り		これまでの基本操作で簡単なスライドを制作する				確認テスト スライド作成を行い提出
第7回	プレゼンのスライド制作 1		序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。				
第8回	プレゼンのスライド制作 2		序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。 参考・引用文献の表記方法				
第9回	発表用スライド作成 1		発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う。				
第10回	発表用スライド作成 2		発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う。				
第11回	発表用スライド作成 3		発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う。				
第12回	発表用スライド作成 4		発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う。				
第13回	発表用スライド作成 5		発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う。				
第14回	プレゼン発表 1		模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる。				
第15回	プレゼン発表 2		模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる。				自身（又はグループ内）の 発表スライド提出
教科書							
参考書							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席率 80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。						
試験範囲	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
履修のポイント							
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NKA01		担当者	北村 昌樹	学科	動物看護科	開講期	後期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	1年	曜日	
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限	
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	イベントプロデュース	小項目	イベントプロデュース		
授業の概要	<p>近年、若者の体力・運動能力が低下傾向にある。その結果として肥満や高血圧・高脂血症などの将来の生活習慣病につながるおそれがあり、また運動不足によって豊かな人間性や創造力・主体性といった社会人に必要な能力の低下等、様々な問題があると文部科学省も危惧している。</p> <p>この授業では基礎体力の向上や今までに経験した事のないニューススポーツを通して、運動の重要性を伝え、学生たちの『運動の習慣化』を計る。また、グループワークとしてイベント（授業）を企画することにより、チームで動いているという認識や、自ら進んで動ける主体性、新しいものを生み出そうとする創造力を養う。</p>							
学習目的	<p>1 体を動かす重要性を理解し、運動を習慣づけることで生活習慣病を防ぐことができる。</p> <p>2 個々で率先して動いていける行動力・主体性を身に付け、定められた目的を考慮し、プロジェクトチームとしてイベント（授業）を企画・運営ができるようになる。</p>							
到達目標	<p>1. 体力向上</p> <p>①自己体力を把握する。</p> <p>②自分の体を動かすことで、運動の素晴らしさ・重要性を知る。</p> <p>2. イベントプロデュース</p> <p>定められた目的に沿ってイベント（授業）を企画し、定められた時間（60分）で運営することができる。</p>							
授業計画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	この授業について		この授業の意義を理解し、体を動かす事の重要性を意識して今後の授業に取り組む事ができる。					
第2回	ストレッチの重要性		ストレッチが何故必要なのかを理解して運動前には入念なストレッチを行う事ができる。					
第3回	体力測定		基礎的な運動能力を測定し、自身の運動能力を把握する。					
第4回	ニューススポーツ①		ニューススポーツを行い、日頃することのない運動に興じる。					
第5回	ニューススポーツ②		ニューススポーツを行い、日頃することのない運動に興じる。					
第6回	ニューススポーツ③		ニューススポーツを行い、日頃することのない運動に興じる。					
第7回	イベントプロデュース① ～導入～		担当者がイベントを企画し、その企画書や運営方法を見て、次回からの企画・運営に活かす。					
第8回	イベントプロデュース② ～企画①～		グループに分かれて、第11回からの運営に向けて、テーマに沿ったイベント（授業）を企画する。				担当グループのみ運営 他グループは体験し評価	
第9回	イベントプロデュース③ ～企画②～							
第10回	イベントプロデュース④ ～企画③～							
第11回	イベントプロデュース⑤ ～運営①～		前回までに企画してきたイベントを実際に運営してみる。					
第12回	イベントプロデュース⑥ ～運営②～							
第13回	イベントプロデュース⑦ ～運営③～							
第14回	イベントプロデュース⑧ ～運営④～							
第15回	卓球		ダブルスを行い、チームワークの重要性・コミュニケーション能力を養う。					
教科書	-							
参考書	-							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席率 80%以上 単位認定試験取得点数60% 提出物&授業態度30% 出席点10%を換算し、総合評価とする。							
試験範囲	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。							
履修のポイント	運動できる服装・運動靴を準備する（外履き・中履き）							
オフィス・アワー	随時							

平成30年度 シラバス

科目コード	NKb01		担当者	金森 孝子	学科	動物看護科	開講期	通期
区分	選択科目	必修	単位	2	学年	1	曜日	
	社会人基礎分野		(時間)	(60)			時限	
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	社会常識	小項目	社会常識		
授業の概要	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。ビジネス電話検定合格のために必要な知識の習得。							
学習目的	社会人としての基本的なマナーを身につけ、円滑にコミュニケーションを図れるようになる。 ビジネス電話検定に準じた電話応対ができるようになる。							
到達目標	①社会常識：ビジネスマナーの基本を身につけ、企業に求められる人材となる。 ②ビジネス電話検定：ビジネス電話検定合格を目指す。							
授 業 計 画								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	自己紹介	①自己紹介のポイント ②自己紹介の実践						
第2回	身だしなみの基本	①身だしなみの基本 ②男性の身だしなみ ③女性の身だしなみ ④困ったときに役立つもの						
第3回	コミュニケーションの重要性	①バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション ②表情						
第4回	コミュニケーションの重要性	③挨拶と返事 ④お辞儀の基本 ⑤第一印象と第二印象						
第5回	社会人としての話し方・聞き方	①ビジネスにふさわしい話し方 ②分かりやすい話し方のポイント						
第6回	社会人としての話し方・聞き方	③印象を左右することば遣い ④選ぶ言葉で次につながる						
第7回	敬語	敬語の基本						
第8回	ビジネス電話の基本	ビジネス電話で使う基本的な敬語や言葉遣いを学習する						
第9回	ビジネス電話の心得	ビジネス電話4つの心得（迅速・正確・簡潔・丁寧）について学ぶ						
第10回	電話応対の実例	①第一声 ②応対の言葉 ③復唱するときの言葉 ④その他のケースについて学習する						
第11回	間違い電話などへの対応	様々なケースの間違い電話やいたずら電話に対する適切な対応法を学ぶ						
第12回	携帯電話のマナー	情報管理面や公共の場でのマナーなど、携帯電話に関するマナーを学ぶ						
第13回	一般的な電話応対①	取次ぎの仕方など、様々なケースの対応法を学ぶ						
第14回	一般的な電話応対②	担当者が不在時の対応法や伝言メモの作成法を学ぶ						
第15回	担当者としての電話応対	挨拶の仕方や話題の選び方など、実践の場を想定した対応法を学ぶ						
第16回	ケーススタディ①	会社の代表としての対応、話のまとめ方や適切な言葉遣いについて、ケースを想定して学習する						
第17回	ケーススタディ②	しっかりとした分かりやすい話し方、感じの良い話し方をケースを想定して学習する						
第18回	電話検定試験対策①	ビジネス電話検定の過去問題集を使い学習。答え合わせと解説。						
第19回	電話検定試験対策②	ビジネス電話検定の過去問題集を使い学習。答え合わせと解説。						
第20回	電話検定試験対策③	ビジネス電話検定の過去問題集を使い学習。答え合わせと解説。						
第21回	電話検定試験対策④	ビジネス電話検定の過去問題集を使い学習。答え合わせと解説。						
第22回	電話検定試験対策⑤	ビジネス電話検定の過去問題集を使い学習。答え合わせと解説。						
第23回	指示・報告・連絡・相談のマナー	①指示の受け方・出し方 ②報告の仕方 ③連絡の仕方 ④相談の仕方と忠告の受け方						
第24回	来客対応のマナー	①来客対応の基本 ②来客対応の流れ ③席次の基本 ④お茶の出し方						
第25回	他社訪問のマナー	①訪問前の準備 ②訪問先での振る舞い ③面談の進め方 ④名刺交換と紹介の仕方						
第26回	ビジネス文書の基本	①ビジネス文書の役割 ②社内文書の基本						
第27回	ビジネス文書の基本	③社外文書の基本 ④招待状への返事の仕方 ⑤一筆箋の使い方						
第28回	会食のマナー	①取引先との会食 ②洋食のマナー ③和食のマナー						
第29回	前期振り返り／期末テスト	前期を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける。						
第30回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する。						
教科書	ビジネス電話検定受験ガイド							
参考書	ビジネス電話検定実問題集							
成績評価	単位認定：総合評価60点以上 出席率80%以上 単位認定試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。							
試験範囲	第28回目の授業にて告知							
履修のポイント								
オフィス・アワー								

平成30年度 シラバス

科目コード	NKC01						
科目名	日本文化		担当者	小林	学科	動物看護科	開講期 前期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	1年	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	日本文化	小項目	日本文化	
授業の概要	季節の花を生け、生きてる花の表情を捉え、花の命の奥深さを学ぶ。伝統芸術に触れ感性を磨き、自己を知る。						
履修項目	いけ花の実践、芸術表現、花の色彩、伝統行事、京の祭の花						
学習目的	実際に花に触れ、草花の命を見つめ、表現する能力を養う。京の祭や伝統行事に触れ、日本文化や伝統芸術の根底にある豊かな感性、その心を知る。個人の表現を通して自己を知り、グループでの表現を通してチームワークを知る。						
到達目標	花の命を通じて、動物の命に寄り添うことの重みを感じ、動物看護師として生きていこうとする自分自身の心を見つめなおすことができる。						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	いけ花の誕生	花と人との関係を古代より現代までを知る					
第2回	いけ花の表現Ⅰ	花をながめ活かすことを知り、花を活ける					
第3回	花の色味	日本の伝統色彩から、花との深い関係を知る					
第4回	伝統行事の花	節句を通して、花との関わりを知る					
第5回	花の効用	薬用として植物の効用を知る					
第6回	いけ花の表現Ⅱ	花と花の調和を考え、花を活ける					
第7回	京の祭と花Ⅰ	京都の祭である葵祭に触れ、花との関わりについて知る					
第8回	いけ花の表現原理	いけ花は何を表現しているのか、型の原理を知り実践する					
第9回	いけ花の表現Ⅲ	広い空間に、花を生け飾り置くことを実践する					
第10回	京の祭と花Ⅱ	京都の祭である祇園祭に触れ、花との関わりについて知る					
第11回	いけ花の表現Ⅳ	花の型を知り、飾る場所に合った花を活ける					
第12回	京の祭と花Ⅲ	京都の祭である時代祭に触れ、花との関わりについて知る					
第13回	花器との調和	花器と花との調和を意識し花を活ける、焼き物について学ぶ					
第14回	敷板との調和	敷板と花との調和を意識し花を活ける、漆について学ぶ。					
第15回	いけ花の芸術性の表現	公の空間で展示する機会を設け、制作する。					
参考書							
成績評価	単位認定60点以上 (授業への参加度50% 授業への意欲30% レポート20%)						
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	出講日の授業時間前後						

平成30年度 シラバス

科目コード	NKD01						
科目名	ビジネス文章力		担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(選択)	単位	1	学年		曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	ビジネス文章力	小項目	ビジネス文章力	
授業の概要	演習問題を適宜使用し、ビジネス文書の目的（正確な伝達と共有および証拠としての保存）のために必要な技能を指導する。 ワード・エクセルの操作ができることが好ましい						
学習目的	ビジネス文書を使いこなすことは、社会人として必要な業務遂行能力です。ビジネス文書には、一定の型や特有の言い回しがあり、それを会得することによって、ビジネスで使われる基本的な文書が書けるようにすることを目的とする。						
学習目標	ビジネス文書として必要な3つの技能 Ⅰ. 表記技能：正しい用字や用語が使える。ビジネス文書の文書等について知っている。 Ⅱ. 表現技能：正確で分かりやすい文章や礼儀正しい文章が書ける。 Ⅲ. 実務技能：社内文書や社外文書が書ける。文書の取り扱い等についての知識がある。 について、ビジネス文書検定3級程度の技能習得を目標とする。						
授業計画							
回	主題	授業内容				備考	
第1回	ビジネス文章の性格	情報化社会におけるビジネス文書は、コミュニケーションの手段であり効率的・効果的なビジネスが遂行できることである。					
第2回	ビジネス文章の書き方	ビジネス文書の書き方について「結起承」、5W2H、箇条書きなど基本的な技術を学ぶ					
第3回	分かりやすい文章	誤解を生まない分かりやすい文章とは何かについて学ぶ					
第4回	文章作成の基本	文の基本型、テーマの立て方、展開、句読点のルール、段落わけのルール等について学ぶ					
第5回	文章作成の応用	文の長さや読みやすさ、漢字・ひらがな・カタカナの使い分け、レイアウト等について学ぶ。					
第6回	文章の種類と表現（1）	ビジネス文書にはいろいろな種類がある。連絡メモ・ファックス、情報メモ・手帳、案内文・通知文、報告書、企画書・起案書、ビジネスレター、自己紹介・自己申告書、社内報、PR文書（パンフレット）、謝罪文書、レポート・論文、異動・転勤挨拶、年賀状・暑中見舞、・・・などそれぞれの種類についてその書き方を学ぶ。					
第7回	文章の種類と表現（2）						
第8回	文章の種類と表現（3）						
第9回	文章の種類と表現（4）						
第10回	文章の種類と表現（5）						
第11回	文章力の伸ばし方	語彙や言い回し、説得力のある文章、推敲などについて学ぶ					
第12回	実践ビジネス文書の作成（1）	いくつかの例題を通して実際にビジネス文書を作成する					
第13回	実践ビジネス文書の作成（2）						
第14回	実践ビジネス文書の作成（3）						
第15回	実践ビジネス文書の作成（4）						
教科書	ビジネス文書検定3級テキスト（早稲田教育委出版）						
参考書	ビジネスマンのための書き方入門（日経文庫）						
成績評価	単位認定	60	点以上	各授業終了時の事後テスト50%、期末テスト50% または ビジネス文書検定3級合格			
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NKE01						
科目名	論理的思考力		担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(選択)	単位	1	学年		曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	論理的思考力	小項目	論理的思考力	
授業の概要	日常生活に関する題材を取り上げ、論理的な思考力を育成し、数学的な考察を行う。小学校の算数程度の力だけで楽しみながら理解できる。						
学習目的	一般にビジネス、つまり仕事におけるコミュニケーション能力とは、論理的な表現力を指し、情報の収集・整理・統合、思考そして発信に至るまで論理的であることが要求される。今日、社会人として求められる能力の1つであるコミュニケーション能力を数学的思考を通して身につける。						
学習目標	社会に適応しその要求する能力を習得させることを大きな目標の1つとしている。学校で受けたすべての知識を忘れ去った後でも、なおかつ一生涯に役に立つような、論理的思考力・表現力の育成を図る。『数学』と『読解力・表現力』は教育の指標としては同じカテゴリーに分類される。つまり、『数学』はまさに『ことばの力』を習得する学問であるとの認識を前提に、自然や日常にひそむ様々な問題を、算数・数学がこの世界・社会で果たしている役割を見つけ、理解する能力を身につける。さらに、現実に社会生活を送る市民として、そのさまざまな状況での必要性に合致した方法で数学を活用し、数学とよい関係を結んでいくことのできる能力を学習する。						
授業計画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	インド式計算法	2桁の掛け算・割り算・足し算・引き算も驚くほど簡単に計算ができるようになるインド式数学による計算法を紹介。					
第2回	天文学的数字の計算	ミクロの世界からマクロの世界まで幅広いレンジの指数計算。銀行預金やローンの金利から音楽の世界、さらには自然界の現象まで					
第3回	地頭力	「答えのない問題を解いていく力」、すなわち地頭力を鍛える5つの方法を紹介する。					
第4回	ひとふでがき	一見複雑な問題を、本質的に必要な部分を抽象化し、解析することにより結論を導き出す。					
第5回	トイレトペーパーの長さを測るには？	問題を解くためにはいろいろな方法があります。見方を変えれば、複雑な問題も簡単に解くことができます。					
第6回	頭の中なら自由に動かせる	問題を解くとき、考える対象が大きくても頭の中でなら自由に動かせます。					
第7回	キーパーソンを探せ	発言の矛盾を見つけ出すには、数学的な論理力が必要である。推理の進め方について学習する。					
第8回	鏡の不思議	鏡は左右は入れかえるのに上下は何故変わらないのか。自然界の右と左と鏡の中の世界の話。					
第9回	偶然を科学する	世の中には偶然と思われる現象がたくさんある。しかし、偶然と思われる現象にも原因がある。					
第10回	でたらめを科学する	0から10までの数字をでたらめに並べたものを乱数という。乱数を作る方法から、乱数の応用まで。					
第11回	幸せな結婚	あなたはこれからお見合いをします。目の前に現れる花嫁さん候補はN人。できれば、一番素晴らしい女性を選びたいところですが...					
第12回	暗号の秘密	インターネットを経由して情報のやり取りを行う場合、悪意のある第三者に情報を盗み見される危険性を防止するには？					
第13回	素数の秘密	素数とは5や7のように他の数で割り切ることができない数。その素数には何か隠された魅力があるようです。					
第14回	モンティホール問題	直感的な答えと、きちんと確率論に則って導き出された答えが異なるテレビ番組から生まれた史上最も議論を呼んだ確率問題の紹介					
第15回	パラドックスを楽しむ	妥当に見える推論のどこに間違いがあるかをクイズとして楽しみ、数学的推論に対する教訓を得る。					
教科書	なし						
参考書							
成績評価	単位認定 参加型の授業で単位を認定する。期末試験は行わない。80%以上の出席が前提。						
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NKF01						
科目名	物理・化学		担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(選択)	単位	1	学年		曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	物理・化学	小項目	物理・化学	
授業の概要	苦手意識の高い分野だが、実は身近にあるものであることを知るとともに、動物病院で使われている機器・薬品にも使用されていることを学ぶ。						
学習目的	1. 物理…エネルギーを学び、それぞれのエネルギーの性質や使用方法を簡単に説明できる。 2. 化学…物質の構造と性質を学び、日常生活と化学の関係性を簡単に説明できる。						
学習目標	1. 物理 ①熱エネルギーを学び物理の視点から考え、説明できる。 ②光の性質を知り、医療に使われる光の種類を説明できる。 ③電気エネルギーを知り、医療に使われる光に関する検査機器の仕組みを簡単に説明できる。 2. 化学 ①物質の構造、それぞれの性質や特徴を知り、その物質に関係のある化学反応を簡単に説明できる。						
授業計画							
回	主題	授業内容					備考
第1回	物理：力とその働き	力とは何か、力の釣り合い、摩擦力、力のモーメント、仕事のエネルギー、力による物体の変形等 力の特徴やはたらきについて、基礎的知識の理解を深める。					
第2回	物理：熱（1）	温度と熱、熱の異動、等熱に関する基礎知識について学習する。					
第3回	物理：熱（2）	物質の状態の変化（融解、凝固、蒸発、沸騰、凝縮、昇華）を物理の視点から考える					
第4回	物理：光（1）	光の直進性、可逆性、反射や屈折など幾何光学の基本的性質を学ぶ。					
第5回	物理：光（2）	ものを見るときの基本となる太陽光線について、波長領域別にその特徴を学ぶ。 光と色について可視光線と物体の色の関係や赤外線、紫外線など医療に応用される光について理解を深める。					
第6回	物理：電気（1）	電気の基本的性質、電流の化学作用と電池、電気エネルギーおよび電流と磁界など、電気の基本を学ぶ。					
第7回	物理：電気（2）	医療に用いられる検査機器（レントゲン、超音波診断、遠心分離機、レーザーメス、……）の原理を学ぶ					
第8回	化学：物質の構造	物質を作っている原子、その構造と性質や原子の結合の仕方、物質の変化などを学ぶ。					
第9回	化学：溶液とコロイド	溶液と溶解の仕組み、飽和溶液と溶解度、浸透圧、コロイドの定義と種類など					
第10回	化学：酸と塩基と塩	酸と塩基の定義、強弱、水とイオン積、PH、中和反応と塩の生成					
第11回	化学：酸化還元反応	酸化と還元の定義、酸化剤と還元剤、酸化還元反応と薬品					
第12回	化学：有機化合物	低分子化合物と高分子化合物					
第13回	化学：水	硬水と軟水の特徴					
第14回	化学：金属	金属の性質と合金					
第15回	化学：燃焼	燃焼の条件と消化、消火器の種類と使い方、石油燃料					
教科書							
参考書	高校物理教科書、高校化学教科書						
成績評価	単位認定 60 点以上						
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目 コード	NKG01						
科目名	ビジネス英語		担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(選択)	単位	1	学年		曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	ビジネス英語	小項目	ビジネス英語	
授業の概要	動物病院、知っていて得をする、日常会話の話題になる、そして学生の英語のレベルに合ったものをセレクトする。授業は、リスニング、音読、シャドーイング、サマリー&意見の順番で進める。最終授業では、商品あるいはサービスの売り込みをプレゼンテーションする。						
学習目的	グローバル化が進むこれからの社会ではどのような仕事に就くにせよ、国際共通語である英語を道具として使いこなす力が必要となる。種々の産業の現場で要求される英語を中心に読み、書き、話し、聞き取る力を総合的に身につける。さらに、ビジネス英語としての文化的背景・歴史的背景などを学ぶことを目的とする。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 動物医療・動物看護に関する英単語、表現を適宜使用できる。 動物病院において最低限必要とされるレベルの英会話ができる。 動物病院の場において最低限必要とされるレベルの英語の聞き取りができる。 						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	導入講義	授業の進め方と概要の説明、成績評価法 授業での注意事項の説明と簡単なリスニング。					
第2回	英語力の確認。	簡単なリスニング。自己紹介とあいさつ。 Nice to meet you.					
第3回		30秒ほどの英文を聞いて、内容を理解する。 You have a great place!					
第4回	リスニングの基本的なポイントの確認。 話の流れを簡単な英語でまとめる。	動物病院を探す。 I'm looking for a veterinary clinic.					
第5回		電話で予約を受ける。 I'd like to make an appointment, please.					
第6回		Mid-term Test					
第7回	病院での会話(1) お客様を迎える。	Do you have an appointment? May I have your name?					
第8回	診療室での会話(2) 問診	診療室での会話の特徴 How can I help you today? What's a problem?					
第9回							
第10回		When was the last time you saw your dog normal?					
第11回		Has this problem happened before?					
第12回	料金を頂く	How much does it cost for the treatment?					
第13回	健康診断	We just got a new puppy and brought it for general check up.					
第14回	動物看護に出てくる単語	Rabies Vaccination, Vaccination, Heartworm Prevension, Flea, tick, mite control, neutering, castrate, surgery, anal gland, nail chipping, Veterinary certificate,					
第15回	まとめ。	Final Test					
教科書	木佐貫 敬：動物病院 英会話						
参考書							
成績評価	単位認定 60 点以上						
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目 コード	NKH01						
科目名	時事問題		担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(選択)	単位	1	学年		曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	社会人として持つべき基礎的教養		中項目	時事問題	小項目	時事問題	
授業の概要	日々の重要ニュースをテーマに、その背景に含まれている問題点、社会的な意味、今後の見通しなどを考える。メディアを通して伝えられる「ニュース」を自らがどう受け止めるべきか、そのために必要な基礎知識と視点とは何か、を理解できるよう努める。またニュース時事能力検定を活用し授業を進める。						
学習目的	普段から情報を収集する行為を通して世の中の潮流を感じ取り、未来を予測する力をつけ、マスメディアやインターネットなどによる情報を鵜呑みにせず、自分の意見を持てるようにする。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事が読め、かつその意味が理解できる力をつける。 ・収集した情報を編集しその原因や背景などを踏まえ主体的に考察し、改善策や将来の展望について自分自身の考えをまとめ表現する力をつける 						
授業計画							
回	主 題		授 業 内 容				備 考
第1回	政治：憲法と政治の課題		安保・外交政策の転換、さらには「改憲機運」の醸成を検証し、国会・内閣法制局・裁判所の責務、立憲主義にたつた法の論理を考える。				
第2回	政治：近隣の国々と領土		尖閣諸島、北方領土、竹島など近隣諸国との領土問題および日米同盟、北朝鮮、中国、台湾、韓国、ロシア、その他周辺諸国との関係について				
第3回	政治：沖縄と普天間問題		「世界一危険な基地」とされる普天間基地の移設問題をもとに、日米安全保障条約や沖縄の基地問題を考える。				
第4回	経済：財政再建とアベノミクス		金融緩和によるデフレ不況および円高不況からの脱却、大型公共事業による景気サポートなどを柱とするアベノミクスと財政再建について。				
第5回	経済：日本産業と原発再稼働		「原発再稼働」と「脱原発」という2つの異なる課題と中長期的に将来の日本の電力供給体制と日本産業との関連を考える。				
第6回	経済：複雑化する通商交渉		WTO（世界貿易機関）が停滞し、2国間協定FTAやEPA、さらに多国間協定「TPP」、「日EU-EPA」、「TTIP」、「RCEP」などについて。				
第7回	暮らし：少子高齢化と人口減少		少子高齢化とは何か？将来の子供たちや私たち個人に与える影響はどのようなものか？少子高齢化の問題点と対策について考える。				
第8回	暮らし：社会保障		生活保護、年金制度、介護保険、医療制度など暮らしを取り巻く社会和尚制度について考える。				
第9回	暮らし：雇用環境と消費者行政		雇用をめぐる環境を概観し、個人の意識や生活の動向を探る。また、高水準の失業率や高まる労働移動の現状を整理し、労働市場におけるミスマッチの現状を明らかにする。				
第10回	社会・環境：災害と日本列島震災からの復興		日本は災害が起きやすい国だとされている。防災責任の明確化・災害予防・災害の応急対策・復旧に関する官民の連携など。				
第11回	社会・環境：差別のない社会		すべての人の人権が尊重される社会をめざして、様々な人権課題について、差別の解消について、理解を深める。				
第12回	社会・環境：司法制度改革		社会の様々な変化に伴って、司法の役割は、より一層重要なものになる。社会の法的ニーズにこたえる司法制度の構築について考える。				
第13回	社会・環境：温暖化対策		異常気象を既におきていることを見ると、地球温暖化は今まさに起こっている問題である。原因と対策について考える。				
第14回	国際：分断される世界		自国中心主義を掲げるトランプ大統領、英国のEU離脱、「反イスラム」「反EU」「反移民」。				
第15回	国際：世界の課題		限りある資源、貧困格差、人口増加、これから先、70億人みんなが幸せに生きていくための課題に取り組むことが、明るい未来への“鍵”になる。				
教科書	ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編3、4級						
参考書	高校公民科(現代社会)教科書、新聞、テレビ(ニュース番組)、クローズアップ現代(NHK)他						
成績評価	単位認定 60 点以上						
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NLA01						
科目名	校外学習 I		担当者	1 年次担任	学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	1 年	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	専門を深める		中項目	校外学習	小項目	校外学習 I	
授業の概要	ドッグショーや動物愛護イベント・学園祭などの総合学習や、その他スポット的なセミナー等、普段学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加し、教養を深める。						
学習目的	外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。						
到達目標	1. イベント・セミナーへの参加 ① 普段扱わない生き物の管理を行う。 ② 実社会に触れることによって、学習意欲を向上することができる。 ③ 集団行動を身につける。						
授 業 計 画							
回	主 題		授 業 内 容				備 考
第1回	校 外 学 習		イベント・セミナーへ参加し、教養を深める。				
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
教科書	-						
参考書	-						
成績評価	単位認定 60 点以上 実務記録提出						
履修のポイント	出席 80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NLA02						
科目名	校外学習Ⅱ		担当者	2年次担任	学科	動物看護科	開講期 通期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	2年	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	専門を深める		中項目	校外学習	小項目	校外学習Ⅱ	
授業の概要	山口大学での連携授業、動物愛護イベント・学園祭などの総合学習や その他スポット的なセミナー等、普段学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加し、教養を深める。						
学習目的	外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。						
到達目標	1. イベント・セミナーへの参加 ①普段扱わない生き物の管理を行う。 ②実社会に触れることによって、学習意欲を向上することができる。 ③集団行動を身につける。						
授 業 計 画							
回	主 題		授 業 内 容				備 考
第1回	校 外 学 習		イベント・セミナーへ参加し、教養を深める。				
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
教科書	-						
参考書	-						
成績評価	単位認定 60 点以上 実務記録提出						
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー	随時						

平成30年度 シラバス

科目コード	NLB01							
科目名	愛玩動物飼養管理学		担当者	光野 京子	学科	動物看護科	開講期	前期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	1年	曜日	
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限	
大項目	専門を深める		中項目	愛玩動物飼養管理学	小項目	愛玩動物飼養管理学		
授業の概要	愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指した内容							
学習目的	愛玩動物飼養管理士2級合格							
到達目標	飼養という観点から、愛護の歴史、法律、小動物の飼養管理を理解し、愛玩動物飼養管理士2級試験に合格することができる。							
授 業 計 画								
回	主 題		授 業 内 容				備 考	
第1回	動物愛護の歴史 1		動物愛護の世界的な概要を理解することで、飼養管理士2級の問題を解けるようになる。					
第2回	動物愛護の歴史 2		動物愛護の世界的な概要を理解することで、飼養管理士3級の問題を解けるようになる。					
第3回	動物愛護の世界観 1		動物愛護の日本と世界の違いと現在までの流れを理解することで、飼養管理士2級の問題を解けるようになる。					
第4回	動物愛護の世界観 2		動物愛護の日本と世界の違いと現在までの流れを理解することで、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第5回	動物に関する法律 1		動管法についての内容理解でき、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第6回	動物に関する法律 2		動管法についての内容理解でき、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第7回	動物に関する法律 3		動管法以外の法律についての内容理解でき、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第8回	動物の体 1		主に犬猫の体の構造の基本的構造について学ぶことで、飼養管理士2級の問題を解けるようになる。					
第9回	動物の体 2		主に犬猫の体の構造の基本的構造について学ぶことで、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第10回	消毒法		消毒法を理解することで、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第11回	小動物飼養管理 1		飼養管理を理解することで、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第12回	小動物飼養管理 2		飼養管理を理解することで、飼養管理士 2 級の問題を解けるようになる。					
第13回	模擬試験 1		愛玩動物飼養管理士2級模擬試験					
第14回	模擬試験 2		愛玩動物飼養管理士2級模擬試験					
第15回	試験		愛玩動物飼養管理士2級模擬試験					
教科書	公益社団法人日本愛玩動物協会出版「愛玩動物飼養管理士2級教本 第1巻・第2巻」							
参考書								
成績評価	単位認定 60 点以上 出席率 80%以上							
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。							
オフィス・アワー								

平成30年度 シラバス

科目コード	NLB02						
科目名	愛玩動物飼養管理学応用		担当者	光野 京子	学科	動物看護科	前期
区分	選択科目	(必修)	単位	1	学年	2年	曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(30)			時限
大項目	専門を深める		中項目	愛玩動物飼養管理学	小項目	愛玩動物飼養管理応用	
授業の概要	愛玩動物飼養管理士1級の合格を目指した内容						
学習目的	愛玩動物飼養管理士1級合格						
到達目標	愛玩動物飼養管理士1級の応用とさらなる専門知識の修得を持ち合格に達する						
授 業 計 画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	動物愛護論	日本における動物愛護運動の歴史と展望					
第2回	動物関連法令	飼養動物の関連法令と生活環境に関わる法令					
第3回	動物の行動と社会	行動の進化と社会の生態的条件					
第4回	犬猫の栄養学	犬猫が必要とするエネルギーと栄養素					
第5回	振り返り	確認テスト					
第6回	動物の遺伝子と繁殖生理	動物遺伝・繁殖生理・哺乳類以外の繁殖生理					
第7回	動物の疾病とその予防1	健康管理と疾病予防					
第8回	動物の疾病とその予防2	健康管理と疾病予防					
第9回	動物の飼養管理と公衆衛生1	人と動物の共生に必要な公衆衛生上の問題					
第10回	動物の飼養管理と公衆衛生2	人と動物の共生に必要な公衆衛生上の問題					
第11回	自然と人間	自然環境と世界の動き					
第12回	振り返り	確認テスト					
第13回	模擬試験1	愛玩動物飼養管理士1級模擬試験					
第14回	模擬試験2	愛玩動物飼養管理士1級模擬試験					
第15回	試験	愛玩動物飼養管理士1級試験					
教科書	公益社団法人日本愛玩動物協会出版「愛玩動物飼養管理士1級教本 第1巻・第2巻」						
参考書							
成績評価	単位認定 60 点以上 出席率 80%以上						
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。						
オフィス・アワー							

平成30年度 シラバス

科目コード	NLC01	2018年度過去問グループワーク④							
科目名	動物看護師総合学		担当者	2年次担任		学科	動物看護科	開講期	後期
区分	選択科目	(必修)	単位	1		学年	2年	曜日	
	社会人基礎分野		(時間)	(30)				時限	
大項目	専門を深める		中項目	動物看護師総合学		小項目	動物看護師総合学		
授業の概要	今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。								
学習目的	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。								
到達目標	1. 試験対策 ①統一試験過去問を解き、その結果から自分の弱点や傾向などを分析できるようになる。 ②自己分析結果、弱点と思われる部分の対策を考え、自己学習ができるようになる。 ③他者に過去問題を解説することができる。								
授 業 計 画									
回	主 題		授 業 内 容					備 考	
第1回	過去問実施①		2017年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる。						
第2回	勉強の仕方について 2017年度過去問解説		この授業の進み方を知り、試験勉強を効率よくすることができる。 前回の問題の正答率が低い問題を解くことができる。						
第3回	2017年度過去問グループワーク①		正答率の低い問題を他者に説明する。					4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表。	
第4回	2017年度過去問グループワーク②		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第5回	2017年度過去問グループワーク③		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第6回	2017年度過去問グループワーク④		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第7回	2017年度過去問グループワーク⑤		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第8回	過去問実施②		2016年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる。						
第9回	2016年度過去問グループワーク①		正答率の低い問題を他者に説明する。					4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表。	
第10回	2016年度過去問グループワーク②		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第11回	2016年度過去問グループワーク③		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第12回	2016年度過去問グループワーク④		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第13回	2016年度過去問グループワーク⑤		正答率の低い問題を他者に説明する。						
第14回	過去問実施③		2015年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる。						
第15回	2015年度過去問ペアワーク①		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第16回	過去問実施④		2014年度(3月)に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる。						
第17回	2014年度(3月)過去問ペアワーク①		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第18回	2014年度(3月)過去問ペアワーク②		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第19回	2014年度(3月)過去問ペアワーク③		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第20回	2014年度(3月)過去問ペアワーク④ (解説発表)		人前で各問題の解説ができる。						
第21回	過去問実施⑤		2014年度(2月)に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる。						
第22回	2014年度(2月)過去問ペアワーク①		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第23回	2014年度(2月)過去問ペアワーク②		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第24回	2014年度(2月)過去問ペアワーク③		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第25回	2014年度(2月)過去問ペアワーク④ (解説発表)		人前で各問題の解説ができる。						
第26回	過去問実施⑥		2018年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる。						
第27回	2018年度過去問ペアワーク①		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第28回	2018年度過去問ペアワーク②		2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる。						
第29回	2018年度過去問ペアワーク③ (解説発表)		人前で各問題の解説ができる。						
第30回	単位認定試験		授業内にて単位認定試験を受ける					※学生証が必要	
教科書	統一試験過去問(2019年度に選定)								
参考書	統一試験過去問(教科書の出版社以外の過去問)								
成績評価	単位認定 60 点以上 出席率 80%以上								
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。								
オフィス・アワー	随時								

平成30年度 シラバス

科目コード	NLD01						
科目名	アニマルヘルパー講座		担当者		学科	動物看護科	開講期
区分	選択科目	(選択)	単位	2	学年		曜日
	社会人基礎分野		(時間)	(60)			時限
大項目	専門を深める		中項目	アニマルヘルパー講座	小項目	アニマルヘルパー講座	
授業の概要	ペットシッターとして開業する時に必要な知識を習得する						
学習目的	ペットシッター業、その他関連業種として働くことができるようになる						
到達目標	1. 開業準備 2. 関連法規 3. 行動学 4. 感染と予防	5. 栄養学 6. シッター業務 7. エキゾチックアニマル 8. 動物の疾病	9. 動物の看護ケア 10. 応急処置 11. 経営				
授業計画							
回	主 題	授 業 内 容					備 考
第1回	開業準備①	届出・登録 書類業務 広告・宣伝					
第2回	開業準備②	シッター開始までの業務(問い合わせ・受付・訪問カウンセリング)					
第3回	関連法規①	動物愛護法について(動物取扱業中心)					
第4回	関連法規②	狂犬病予防法 ペットフード安全法 その他関連民法 など					
第5回	犬の行動①	代表的な犬種の特性 ライフステージについて					
第6回	犬の行動②	行動と習性 扱い方について					
第7回	猫の行動①	代表的な猫種の特性 ライフステージについて					
第8回	猫の行動②	行動と習性 扱い方について					
第9回	感染と予防①	ワクチンの種類・ワクチネーション ワクチン接種後の注意事項 など					
第10回	感染と予防②	主な外部寄生虫とその予防方法					
第11回	栄養学①	ペットフードについて					
第12回	栄養学②	ペットフードの表示(各栄養素について含め)					
第13回	シッター業務総論	ペットシッターの業務内容と注意事項 記録と報告					
第14回	シッター業務各論(犬①)	訪問時の観察ポイント					
第15回	シッター業務各論(犬②)	業務(散歩・遊び 食餌 排泄 など)					
第16回	シッター業務各論(猫①)	訪問時の観察ポイント					
第17回	シッター業務各論(猫②)	業務(遊び トイレの掃除 食餌 など)					
第18回	エキゾチックアニマル①	エキゾチックアニマル(ウサギ・ハムスター・フェレット)の特性と代表的な病気					
第19回	エキゾチックアニマル②	各エキゾチックアニマルのお世話 取扱い方法 など					
第20回	動物の疾病①	便の様子 尿の様子 咳 嘔吐 ショック について					
第21回	動物の疾病②	元気がない 口腔・目・皮膚の疾患について					
第22回	動物の疾病③	お腹が張る 歩様と姿勢 呼吸がおかしい について					
第23回	動物の看護ケア①	食事介助(幼齢・老齢)について					
第24回	動物の看護ケア②	排泄介助 運動介助 について					
第25回	応急処置①	応急処置とは 緊急時の動物の対応 搬送 自分が咬まれたときの対応 など					
第26回	応急処置②	CPRの方法と実習					
第27回	経営	マーケティング 事業管理 営業について					
第28回	試験対策①	試験対策					
第29回	試験対策②						
第30回	修了試験	資格試験					
教科書	必要に応じて、適宜資料を配布する						
参考書							
成績評価	単位認定	60	点以上				
履修のポイント	出席80%以上が前提となる。						
オフィス・アワー							

2018 動物看護科 シラバス

発行 YIC京都ペット総合専門学校

発行日 平成30年 4月 1日

編集 学校法人京都中央学院

〒600-8236 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町 27 番地

TEL 075-371-4044 FAX 075-343-3821

本便覧の複写および無断転載を禁ずる。